田原本町文化財調査年報 26

2016・2017年度

田原本町教育委員会

田原本町文化財調査年報 26

2016・2017年度

田原本町教育委員会

例　言

1．本書は、田原本町教育委員会が 2016・2017 年度（平成 28・29 年度）に実施した文化財事業の概要をまとめたものである。

2．埋蔵文化財の発掘調査については、土地所有者・施工業者ならびに近隣の皆様にご協力とご理解を賜った。記して感謝します。

3．本書は、Ⅰを清水琢哉・柴田将幹・西岡成晃、Ⅱを藤田三郎・清水・渡瀬加奈子・西岡・東藤隆浩、Ⅲを藤田・清水・西岡・東藤、Ⅳ．１を金原正子（一般社団法人 文化財科学研究センター）が執筆した。Ⅰ．２の遺物は清水・江浦至希子が実測し、清水・西岡がデジタルトレースをおこなった。本書は清水・西岡が編集した。

目　　次

Ⅰ．田原本町の埋蔵文化財
1．町内における開発
（1）町内における開発と発掘調査…… 1
（2）遺跡の異動…… 2
2．埋蔵文化財の調査
（1）発掘調査の概要…… 4
1．唐古・鍵遺跡 第119次調査（H28）…… 8
2．唐古・鍵遺跡 第120次調査（H28）、試掘調査（S-201601）（H28）……14
3．唐古・鍵遺跡 第121次調査（H28）……16
4．唐古・鍵遺跡 第122次調査（H29）……19
5．唐古・鍵遺跡 第123次調査（H29）……21
6．保津・宮古遺跡 第44次調査（H28）……23
7．保津・宮古遺跡 第45次調査（H28）……25
8．保津・宮古遺跡 第46次調査（H29）……27
9．保津・宮古遺跡 第47次調査（H29）……30
10．保津・宮古遺跡 第48次調査（H29）……33
11．保津・宮古遺跡 第49次調査（H29）……35
12．宮古北遺跡 第21次調査（H28）……36
13．宮古北遺跡 第22次調査（H28）……40
14．宮古北遺跡 第23次調査（H28）……42
15．十六面・薬王寺遺跡 第36次調査（H29）……48
16．羽子田遺跡 第40次調査（H28）……49
17．多遺跡 第27次調査（H28）……51
18．矢部遺跡 第4次調査（H29）……53
19．佐味遺跡 第3次調査（H28）……55
20．佐味遺跡 第4次調査（H29）……60
21．西代西遺跡 第1次調査（H28）……66
22．薬王寺推定地 第2次調査（H29）……68
23．小阪細長遺跡 第3次調査（H29）……70
24．薬王寺南遺跡 第2次調査（H29）、試掘調査（S-201602）（H28）……74
25．タカツキ古墳 第1次調査（H29）……76
26．矢部中曽司遺跡 第2次調査（H29）……78
27．筋違道 第4次調査（H29）……80
28．舞ノ庄遺跡 第3次調査（H28）……81

29. 富本遺跡 第３次調査（H29）……83
30. 保津・阪手道 第３次調査（H28）……85
31. 保津・阪手道 第４次調査（H29）……86
32. 東井上遺跡 第２次調査（H28）……88
33. 寺内町遺跡 第17次調査(H29)……89
34. 羽子田遺跡 試掘調査(S-201701)(H29)……91
（２）工事立会の概要……92
1. 唐古・鍵遺跡 工事立会（R-201622）(H28)……96

Ⅱ．資料の整理と活用・普及
１．文化財資料の整理・保管
（１）埋蔵文化財の整理・保管……99
（２）木製品の樹種同定と保存処理……102
（３）図面・写真の保管と資料撮影、写真のデジタル化、図書の受領……108
（４）埋蔵文化財センターの設置……110
（５）特別収蔵庫の設置……111
（６）唐古・鍵遺跡の遺物の移管……112
２．遺跡・文化財の保護
（１）町指定文化財……112
（２）史跡公園開園準備……115
３．シンポジウム
（１）桜井市・田原本町共催シンポジウム……121
４．講座……122
５．学校教育等への支援
（１）小学校出前授業……123
（２）中学校職場体験学習……123
（３）大学の学外授業……124
（４）講師の派遣……124
６．刊行物一覧……125
７．資料の活用
（１）資料の貸出……125
（２）写真掲載・撮影……126
（３）資料調査……129
８．ボランティア組織
（１）唐古・鍵遺跡史跡公園ボランティア……130
（２）唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会……131

Ⅲ．唐古・鍵考古学ミュージアム

１．常設展示

（１）唐古･鍵考古学ミュージアム　リニューアル……135

（２）田原本ギャラリー　今回の逸品……137

２．企画展・ミニ展示

（１）平成 28 年度 春季企画展「弥生遺産Ⅳ
～唐古･鍵遺跡の土製品･ガラス etc. ～」……137

（２）平成 28 年度 秋季企画展「小林家文書展」……138

（３）平成 29 年度 春季企画展「弥生遺産Ⅴ　唐古･鍵遺跡初期調査の遺物～補遺～」……140

（４）平成 28･29 年度「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」……141

（５）平成 29 年度 ミニ展示『寺川筋今里問屋場絵図』展」……142

３．入館者・ホームページ

（１）入館者数……142

（２）夏季節電対策無料入館……144

（３）入館者アンケート……144

（４）視察・研修・学校等からの来館……144

（５）ホームページ……144

４．ボランティア

（１）ボランティアガイドの実績……146

（２）企画展受付ボランティア……146

Ⅳ．資料の報告

１．唐古･鍵遺跡第 119 次調査における花粉分析（金原正子）……149

Ⅰ．田原本町の埋蔵文化財

１．町内における開発

（１）町内における開発と発掘調査

本町における平成 28 年度（2016 年度）の民間開発行為等による埋蔵文化財発掘届（第 93 条）は 55 件、地方公共団体等による通知（第 94 条）は 13 件で、計 68 件、平成 29 年度（2017 年度）の発掘届（第 93 条）は 58 件、発掘通知（第 94 条）は 27 件で、計 85 件を数える。

平成 28 年度の発掘調査は 15 件である。内訳は、個人住宅等の建築２件、公共事業 10 件、民間開発３件である。平成 29 年度の発掘調査は 18 件である。内訳は、個人住宅等の建築３件、公共事業８件、民間開発７件である。

第１表　田原本町における平成 28・29 年度の発掘届・通知件数一覧

平成 28 年度

発掘届 93 条	発掘通知 94 条		発掘調査	工事立会	慎重工事	先行工事
55	13	通知内容	17	37	13	1
		実施分	町　15 県　0	42	－	－

平成 29 年度

発掘届 93 条	発掘通知 94 条		発掘調査	工事立会	慎重工事	先行工事
58	27	通知内容	17	32	33	3
		実施分	町　18 県　0	69	－	－

※通知から実施までに年度をまたぐ場合がある為、件数は一致しない

第２表　田原本町の発掘届・通知と発掘調査件数の推移

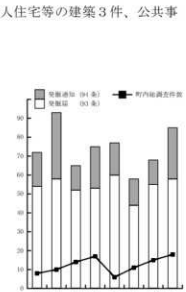
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	**H28**	**H29**
発掘届（93 条）		54	58	52	53	60	44	**55**	**58**
発掘通知（94 条）		18	35	13	22	17	14	**13**	**27**
計		**72**	**93**	**65**	**75**	**77**	**58**	**68**	**85**
発掘件数	町	7	10	14	17	6	11	**15**	**18**
	県	1	0	0	0	0	0	**0**	**0**
町内総調査件数		**8**	**10**	**14**	**17**	**6**	**11**	**15**	**18**

第３表　町教育委員会が実施した発掘調査の原因別推移

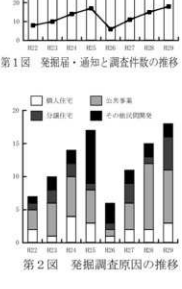
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	**H28**	**H29**
範囲確認		0	0	0	0	0	0	**0**	**0**
個人住宅		2	1	4	3	1	2	**2**	**3**
公共事業		3	5	6	5	1	4	**10**	**8**
民間開発	分譲	1	2	2	1	1	3	**1**	**5**
	その他	1	2	2	8	3	2	**2**	**2**
計		**7**	**10**	**14**	**17**	**6**	**11**	**15**	**18**

第４表　町教育委員会による調査の面積及び出土遺物数の推移

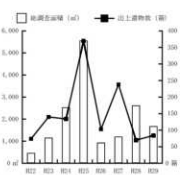
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	**H28**	**H29**
総調査面積（㎡）	457	1,152	2,530	5,555	929	1,199	**2,616**	**1,675**
出土遺物数（箱）	74	140	134	370	103	238	**70**	**84**



第１図　発掘届・通知と調査件数の推移



第２図　発掘調査原因の推移



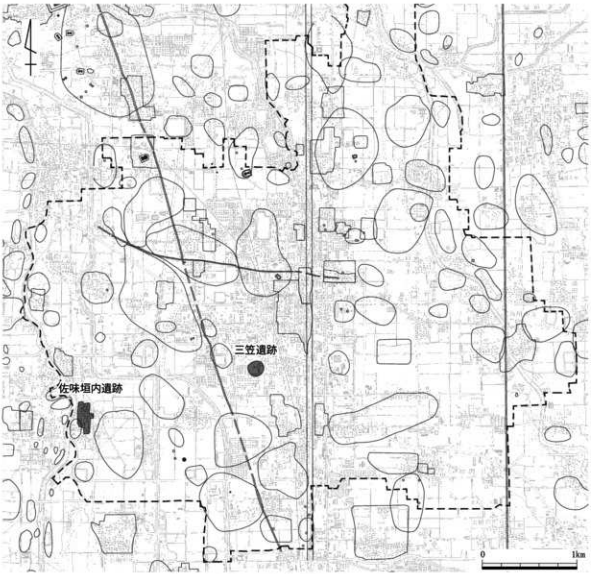
第３図　調査面積と出土遺物数の推移

（2）遺跡の異動

平成28年度におこなった遺跡の異動は2件である。

佐味垣内遺跡　田原本町南西端に位置する大字佐味に所在する中世の集落跡である。平成26・27年度に実施された下水道工事に伴い工事立会をおこなったところ、中世～近世の大溝とみられる堆積を確認し、新たに周知の埋蔵文化財包蔵地として登録した。佐味には中世の城館「佐味城」が所在していたことが史料から知られ、その候補地として佐味集落東側の小字「中佐味」が想定されていた。今回、新たに遺跡となった佐味垣内遺跡は、近世以降の環濠集落の痕跡がよく残る現佐味集落と重複するもので、この集落が中世まで遡る場合、佐味城の候補地と考えることもできる。

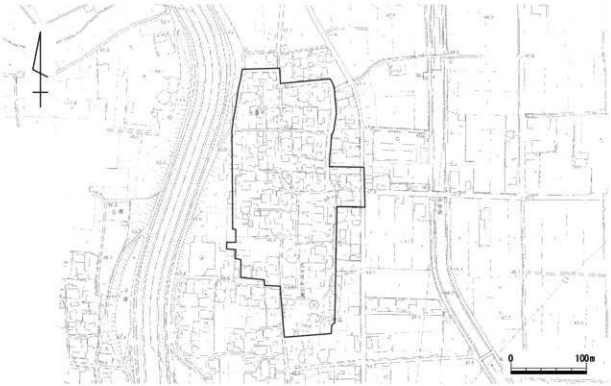
三笠遺跡　田原本町中央部に位置する大字三笠に所在する遺物散布地である。昭和40年代に奈良県が実施した分布調査により三笠池周辺での遺物散布が確認され、奈良県遺跡地図に周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されていた。これまで遺跡名称のない遺物散布地であったが、平成27年度に個人住宅の建築に伴う発掘調査を実施した際に、新たに遺跡名を付与することとなった。



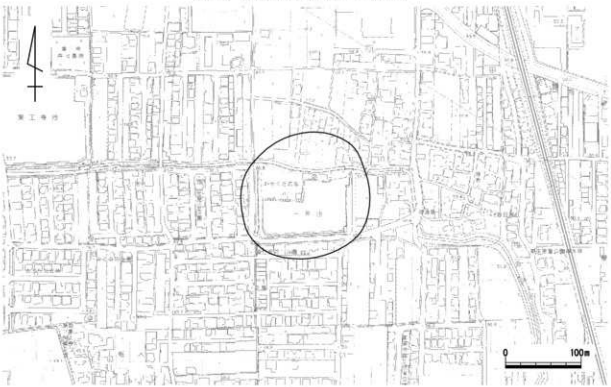
第4図　異動した遺跡の位置（S＝1/40,000）

第５表　遺跡の異動一覧表

	遺跡番号	遺　跡　名	異動内容	異動原因	遺跡概要	届　出	通　知	施行日
1	11-C-0168	佐味垣内遺跡	新規確認	工事立会 (H-201411) (H-201513)	中・近世の水路・溝跡を確認、中世の須恵・瓦器類破片などが出土	H28. 4.29 田教文　第36号	H28. 5.31 教文　第7001号	H28. 6. 7
2	11-C-0043	三笠遺跡	新規命名	三笠遺跡 第１次調査	中世域の瓦が出土	H28. 6.23 田教文　第140号	H28. 7.29 教文　第7011号	H28. 8. 5



第５図　佐味垣内遺跡（Ｓ＝1/5,000）



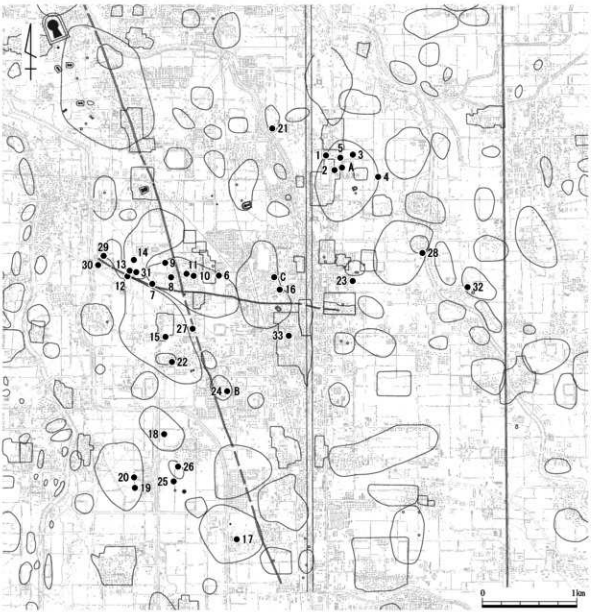
第６図　三笠遺跡（Ｓ＝1/5,000）

2．埋蔵文化財の調査

（1）発掘調査の概要

平成 28 年度は 15 件の発掘調査、2 件の試掘調査を実施した。唐古･鍵遺跡では交流促進施設（道の駅）建築に伴う調査のほか、遺跡北・北西・西・東部の調査をおこなった。特に第 119 次調査では環濠とそこから集落外へ排水する流路を検出している。

平成 29 年度は 18 件の発掘調査、1 件の試掘調査を実施した。保津・宮古遺跡第 47 次調査では弥生時代末頃の大溝の上層から皮袋形土器が出土した。また佐味遺跡では弥生時代の集落とその南端を区画する溝を確認し、当該時期の遺跡の内容が初めて明らかとなった。



第 7 図　田原本町の遺跡と調査地点（S＝1/40,000）

第６表　平成28・29年度　発掘調査一覧表

※ 網掛けは平成29年度

	遺跡名	調査地	原因者	原因	期間	面積	担当	備考
		検出遺構			出土遺物			遺物量（箱）
1	唐古・鍵 第119次	田原本町大字唐古小字高塚 70 番１外 弥生時代前期：土坑１基 弥生時代中期頃：土坑４基、大溝５条、小溝１条、河跡２条 弥生時代中期後半：大溝６条、河跡１条 弥生時代後期：大溝８条、河跡１条 古墳時代前期：大溝１条 中　　世：土坑５基、小溝群 近　　世：小溝群	田原本町役	交流促進施設（地域振興施設・道路休憩施設）の建築等	弥生土器、土師器、須恵器、中世陶器、近世陶磁器、木製品、石器、銭貨等	2016. 6. 20 ～ 11. 22	1,595 ㎡	清水琢放 柴田将幸 西岡成英	観光・まちづくり推進課 13 箱
2 3 4	唐古・鍵 第120次 （試掘調査 （S-20160１））	田原本町大字唐古小字チツマ 51 番１　東側水路外 弥生時代中期：大溝１条 近世～近代：大溝１条	田原本町役	史跡公園整備（水路改修）	弥生土器、土師器、近世陶磁器、瓦等	2016. 12. 12 ～ 12. 20	（120 次） 80 ㎡ （試掘） 2 ㎡	清水	総合政策課 3 箱
3	唐古・鍵 第121次	田原本町大字唐古小字筋替 192 番１外　西側道路 弥生時代前期：土坑１基、溝２条、河跡１条 弥生時代中期：土坑１基、土器棺墓１基、大溝３条、溝３条 弥生時代後期：大溝３条、溝３条 中・近世：小溝群	田原本町役	水路改修	弥生土器、土師器、須恵器、近世陶磁器、瓦、木製品、石器等	2017. 1. 10 ～ 2. 1	147 ㎡	西岡・柴田	農政土木課 7 箱
4	唐古・鍵 第122次	**田原本町大字唐古小字ビリ箱 153・154 番・大字法貴寺小字横田 1134 番１** **弥生時代：小穴１基、落ち込み１基** **古墳時代～古代：河跡２条** **中　　世：小溝群**	**田原本町役**	**多目的広場（史跡公園）の建築**	**弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、中世陶器、瓦、石器等**	**2017. 9. 25** **～ 12. 1**	**267 ㎡**	**柴田・西岡** **清水**	**総合政策課** **6 箱**
5	唐古・鍵 第123次	**田原本町大字唐古小字ノ子田 96 番１**	**個人**	**個人住宅の建築**	**弥生土器、土師器、瓦等**	**2017. 12. 22** **～ 12. 26**	**13 ㎡**	**柴田**	**国庫補助事業** **2 箱**
6	保津・宮古 第44次	田原本町大字新町小字今東 141 番１ 弥生時代後期：大溝１条 平安時代：土坑５基、柱穴１基 中・近世：小溝群	梅ディーズコーポレーション	宅地造成	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、木製品等	2016. 5. 24 ～ 5. 31	93 ㎡	清水	受託事業 1 箱
7	保津・宮古 第45次	田原本町大字宮古小字南ドン川２番１ 古墳時代：土坑２基、小溝１条 古　　代：溝９１条 中　　世：小溝３条	個人	個人住宅の建築	土師器、須恵器、瓦器等	2016. 10. 25 ・10. 26	8 ㎡	清水・西岡	国庫補助事業 1 箱
8	**保津・宮古** **第46次**	**田原本町大字宮古小字八反切田 135 番１**	**梅6ーフホーム**	**宅地造成**	**弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、輸入磁器、瓦等**	**2017. 4. 4** **～ 4. 12**	**136 ㎡**	**清水・柴田**	**受託事業** **2 箱**
9	**保津・宮古** **第47次**	**弥生時代中期：土坑１基** **鎌倉時代：溝２条** **中　　世：小溝群**	**Y・K ケミカル**	**工場の建築**	**弥生土器、土師器、須恵器、中世陶器、瓦、木製品、石器等**	**2017. 6. 12** **～ 6. 27**	**129 ㎡**	**清水・柴田** **西岡**	**受託事業** **24 箱**
10	**保津・宮古** **第48次**	**田原本町大字宮古小字フヤ西 96 番１・２** **中世：土坑１基、大溝２条、溝２条、小溝 16 条**	**細山商事㈱**	**分譲住宅に伴う擁壁工事**	**土師器、須恵器、瓦器、中世陶器、近世陶磁器、瓦等**	**2017. 7. 3** **～ 7. 14**	**40 ㎡**	**柴田・西岡**	**受託事業** **1 箱**
11	**保津・宮古** **第49次**	**田原本町大字宮古小字フヤ西 109 番** **平安時代？：小溝群** **中　世　？：溝１条、小溝群** **近　　代：土坑１基**	**個人**	**個人住宅の建築**	**土師器、瓦器、瓦等**	**2017. 10. 2**	**4 ㎡**	**清水・柴田**	**国庫補助事業** **1 箱**
12	宮古北 第21次	田原本町大字宮古小字殿田 170 番１・171 番１・172 番１ 弥生時代後期：土坑１基、小溝１条、落ち込み１基 古墳時代前期：土坑１基 奈良時代：落ち込み２基 平安時代：柱穴５基	武田精機㈱	工場の建築	弥生土器、土師器、須恵器等	2016. 6. 4 ～ 9. 1	178 ㎡	清水・西岡	受託事業 27 箱
13	宮古北 第22次	田原本町大字宮古小字連ヶ坪 182 番３ 古墳時代前期：落ち込み２基 古　　代：大溝１条、溝２条、小溝２条 中　　世：土坑１基、小溝１条 近　　代：小溝１条	田原本町役	道路拡幅工事	弥生土器、土師器等	2017. 1. 10 ～ 1. 13	17 ㎡	清水	農政土木課 1 箱
14	宮古北 第23次	田原本町大字宮古小字大田 184 番４外 弥生時代後期：土坑１基、溝３条（うち２条は方形周溝墓の周溝か） 古墳時代：小穴２基、大溝４条、溝12条、小溝１条、落ち込み１基 古代～中世：大溝１条、溝３条、落ち込み３基、河跡２条 中世～近世：小溝群	田原本町役	道路拡幅工事	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、中世陶器、近世陶磁器、瓦、埴輪、石器等	2017. 2. 6 ～ 3. 24	205 ㎡	柴田・西岡	農政土木課 8 箱

15	十六面・ 葉王寺 第36次	田原本町大字保津小字親矩内252番外　南側道路 古代：溝2条 中世：大溝2条	田原本町長	道路拡幅工事	2017.11.2 ～11.13	42 ㎡	柴田	農政土木課	1箱 土師器、瓦器、瓦質土器、中世陶器、瓦等
16	羽子田 第40次	田原本町大字新町小字上校568番5 弥生時代後期：落ち込み1基 中　世：小溝6条 近 世～近 代：小溝9条	㈱NTTドコモ	携帯電話無線基地局の設置	2017.2.27 ～3.3	20 ㎡	清水	受託事業 1箱 弥生土器、土師器、瓦質土器、近世陶磁器等
17	多 第27次	田原本町大字多小字宮ノ内568番1・568番8 弥生時代中期：溝1条 弥生時代後期：溝1条 中　世：大溝1条、溝1条	田原本町長	下水道工事	2016.11.1 ～11.7	7 ㎡	柴田	下水道課 2箱 弥生土器、瓦器、瓦質土器、瓦、石器等
18	矢部 第4次	田原本町大字矢部小字橋ノ坪796番1　西側道路外 古墳時代：溝3条、落ち込み3基 中　世：小穴7基、溝1条、小溝群	田原本町長	農道改良工事	2018.1.10 ～3.19	365 ㎡	柴田	農政土木課 1箱 弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、中世陶器、近世陶磁器、瓦、板貨等
19	佐味 第3次	田原本町大字蔵田小字屋敷120番外 西側道路 弥生時代：土坑1基、小穴5基、大溝1条、溝2条 古墳時代：落ち込み1基 中　世：井戸1基、大溝1条、小溝群	田原本町長	農道改良工事	2016.12.9 ～12.29	169 ㎡	柴田	農政土木課 3箱 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦等
30	佐味 第4次	田原本町大字蔵田小字長田390番1外　西側道路 弥生時代中期：土坑4基、溝4条、ピット群等 古　代：土坑12基・ピット群、溝2条等 中　世：小溝群	田原本町長	農道改良工事	2017.11.29 ～18.1.20	210 ㎡	西岡・柴田	農政土木課 32箱 弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦・木製品・石器・銭貨等
21	西代西 第1次	田原本町大字西代小字高野田192番1　南側道路 時期不明：溝1条、河跡1条 中　世：小溝群	田原本町長	道路拡幅工事	2017.1.19 ～1.19	82 ㎡	柴田	農政土木課 1箱 土師器、須恵器、近世陶磁器、瓦等	
22	葉王寺 推定地 第2次	田原本町大字葉王寺大字大門382番 弥生時代？：大溝1条、河跡1条 古墳時代後期：大溝1条 古　代：土坑1基 中　世：小溝群 近　世：溝2条	個人	宅地造成	2017.8.1 ～8.10	48 ㎡	清水・柴田 西岡	受託事業 1箱 土師器、須恵器、近世陶磁器、木製品、瓦、銭貨等
23	小泉線長 第3次	田原本町大字阪手小字北岩井62番 古墳時代初頭：小溝1条あるいは土坑1基 古墳時代後期：円墳1基 平 安 時 代：土坑3基 鎌 倉 時 代：土坑3基 江 戸 時 代：土坑1基 近 代～現 代：井戸1基	柳竹材工務店	宅地造成	2018.3.1 ～3.28	176 ㎡	西岡	受託事業 5箱 土師器、須恵器、瓦器、中世陶器、瓦、埴輪、土製品等	
24 B	葉王寺南 第2次 [試掘調査 (S-2016002)]	田原本町大字三笠小字文東198番2 弥生時代後期：土坑2基、大溝1条、溝1条、落ち込み1基	㈱明日香 不動産販売	宅地造成	2017.6.6 ～6.8	44 ㎡	清水・柴田 西岡	受託事業 1箱 弥生土器等	
25	タカツキ 古墳 第1次	田原本町大字矢部小字西印田485番　南側道路 弥生時代前期：落ち込み1基 古墳時代後期：古墳1基 古　代：河跡1条 中　世：小溝群	田原本町長	農道改良工事	2018.2.1 ～2.23	60 ㎡	西岡	農政土木課 1箱 弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、近世陶磁器、瓦、石器、板貨等	
26	矢部中曽司 第2次	田原本町大字矢部小字八柄482番1外　北側道路 時 期 不 明：溝1条、河跡1条 古墳時代後期：落ち込み1基	田原本町長	農道改良工事	2017.12.18 ～12.21	89 ㎡	柴田	農政土木課 1箱 土師器、須恵器、瓦等	
27	馬道 第4次	田原本町大字保津小字橋森214番1 古代：溝1条 中世：小溝群	㈱IMAZUMI	工場の建築	2017.5.22	12 ㎡	清水・柴田 西岡	受託事業 1箱 弥生土器、土師器、須恵器等	ナイロン袋中1
28	梅ノ庄 第3次	田原本町大字法貴寺小字海ノ上2017番1 なし	個人	個人住宅の建築	2016.5.23	5 ㎡	柴田	国庫補助事業 1箱 土師器、近世陶磁器、瓦等	
29	富本 第3次	田原本町大字富本小字角田91番南側道路外 中世：土坑1基 近世：大溝1条、小溝6条	田原本町長	下水道工事	2017.7.18 ～7.20	14 ㎡	清水・柴田 西岡	下水道課 1箱 土師器、須恵器、近世陶磁器、瓦等	
30	保津・ 阪手道 第3次	田原本町大字富本小字角田224番　南側道路外 中世：大溝2条 近世：大溝1条	田原本町長	下水道工事	2016.8.19 ～8.25	5 ㎡	清水	下水道課 1箱 土師器、瓦質土器、近世陶磁器等	
31	保津・阪手道 第4次	田原本町大字宮古小字平塚167番7 古墳時代：河跡1条 中　世：小溝群	田原本町長	道路拡幅工事	2018.3.22 ～3.30	18 ㎡	柴田	農政土木課 1箱 弥生土器、土師器、須恵器等	
32	東井上 第2次	田原本町大字東井上小字ミヅノ150番1　北側道路 鎌倉時代：河跡1条	田原本町長	下水道工事	2016.6.14	3 ㎡	清水	下水道課 ナイロン袋小3 土師器、瓦器、瓦等	

33	寺内町 第17次	田原本町小字五反田646番	個人	個人住宅の建築	2018．2．20 ～2．22	8㎡	発掘	国庫補助事業
		近世後期：大溝1条、落ち込み？1基 近　代：土坑2基、柱穴1基			土師器、中世陶器、近世陶磁器、瓦、木製品、土製品等			2箱

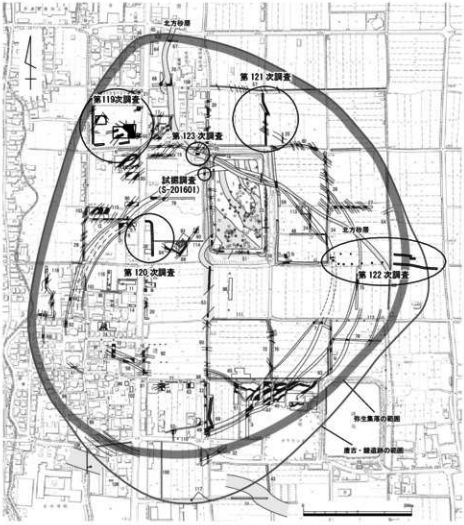
第7表　平成28・29年度　試掘調査一覧表

※ 網掛けは平成29年度

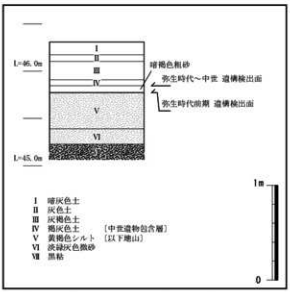
	遺跡名	調査地	原因者	原因	期間	面積	担当	備考
		検出遺構			出土遺物			遺物量（箱）
A	唐古・鍵 S-201601	田原本町大字唐古小字角ノ脇126番 西側水路	田原本町長	史跡公園整備 （水路改修）	2016.12.12	2㎡	清水	総合政策課
		弥生時代：大溝1条 近　代：溝1条			唐古・鍵遺跡 第120次調査と一括			
B	薬王寺南 S-201602	田原本町大字三笠小字198番1・2	柳明日香 不動産販売	宅地造成	2017．3．27 ・3．28	44㎡	清水・柴田	受託事業
		弥生時代：土坑1基			弥生土器、瓦等			ナイロン袋小3
C	羽子田 S-201701	田原本町大字八尾小字八反田661番3外	一建設㈱	宅地造成	2017.10.31	6㎡	清水・柴田 西岡	受託事業
		なし			なし			なし

平成28・29年度における唐古・鍵遺跡の発掘調査は、第119～123次の5回を数える。

第119次調査は遺跡北西端、第120次調査は遺跡西地区、第121次調査は遺跡北端、第122次調査は遺跡東端～東限、第123次調査は遺跡北端における調査である。



第8図　唐古・鍵遺跡 第119～123次調査地位置図（S＝1/7,000）



第９図　第２トレンチ土層柱状図（S＝1/40）

調査成果のまとめ

・弥生時代前期前半の木器貯蔵穴とみられる土坑を検出した。大環濠掘削以前の集落構造を考える上で重要な成果。
・集落の北西端～北西限の環濠を５条確認した。また、環濠に直交する河跡（ＳＲ－1101）及び溝（ＳＤ－2102）を検出した。これらの河跡及び溝は、北東・南西側の環濠の水を北西へ排水させる役割があったと考えられる。

１．調査の概要

遺跡北西端～北西限における、交流促進施設（道の駅）の建築に伴う調査。調査区は建物本体(第１トレンチ)・貯水槽(第２トレンチ)・防火水槽(第３トレンチ)、看板(第４トレンチ)・擁壁部分(第５～７トレンチ)の７つの調査区を設定し、遺構名は各トレンチ番号を1000番台とした。

２．調査の成果

弥生時代前期

ＳＫ－2201　第２トレンチ西半で検出した直径1.6ｍ、深さ1.2ｍのほぼ正円形の土坑である。壁面は垂直にちかく、底面は平坦であることから、木器貯蔵穴と考えられるが、木器未成品の出土はなかった。坑底ちかくから、広口壷（第11図－１・２）、甕（第11図－３）、鉢（第11図－４）が出土した。鉢の内面には赤色顔料がわずかに付着している。時期は大和第Ⅰ－1－ｂ様式である。

弥生時代中期後半～後期

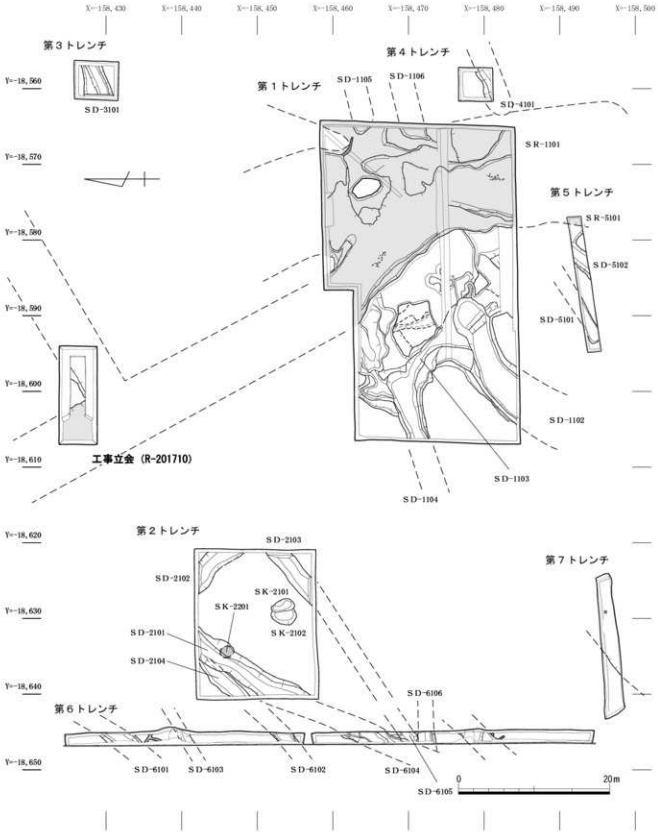
ＳＤ－1102　第１トレンチ西半で検出した東北東－西南西方向の大溝で、幅6.0ｍ、深さ0.8ｍの環濠と考えられる。後期段階では東端が丸く収束してＳＲ－1101に接続しないのに対し、中期後半段階ではＳＲ－1101Cに接続していたとみられる。

ＳＤ－1104　第１トレンチ西半で検出した東北東－西南西方向の大溝で、幅3.5ｍ、深さ0.7ｍの環濠と考えられる。上記ＳＤ－1102と同様に、後期段階ではＳＲ－1101に接続しないが、中期後半段階ではＳＲ－1101Cに接続していたとみられる。

弥生時代後期

第１・２トレンチで、環濠にほぼ直交する大溝（北西－南東方向）または河跡を検出した（ＳＲ－1101・5101・ＳＤ－2102）。これらの遺構は、環濠間をバイパスし、集落の南東から環濠に流入した水を北西方向に排水する機能を有するものと考えられる。唐古・鍵遺跡の環濠帯の構造を考える上で、重要な所見といえよう。

ＳＲ－1101・5101　第１トレンチ東半及び第５トレンチ東端で検出した北西－南東方向の河跡で、完掘時の幅13ｍ、深さは1.5ｍ以上である。堆積状況や出土遺物から、中期後半（ＳＲ－1101C）、



第10図　調査区平面図（弥生時代）（S＝1/500）

第８表　唐古・鍵遺跡　第119次調査　溝・河跡一覧表

遺構名		前期		中期						後期						古墳初頭	古墳前期	規模	方向	備考
		Ⅰ-1	Ⅰ-2	Ⅱ-1	Ⅱ-2	Ⅱ-3	Ⅲ-1	Ⅲ-2	Ⅲ-3	Ⅲ-4	Ⅳ-1	Ⅳ-2	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅵ-1	Ⅵ-2	Ⅵ-3	Ⅵ-4	庄内	布留			
SR-1101	A																			幅11.8m 深約0.35m	北西－南東	粘土堆積、 細砂壷（第11図－8）
	B																			幅12.1m 深約0.75m	北西－南東	粘砂堆積、 短頸壷（第11図－7）
	C																			幅14.0m 深約0.7m	北西－南東	粘土堆積
	D																			不明	北西－南東	粘砂堆積、時期不明
SD-1151																				幅2.5m 深約0.2m	北北西－南南東	ブロック土堆積
SD-1102																				幅6.0m 深約0.8m	東北東－西南西	粘質土堆積、環濠
SD-1103																				幅3.8m 深約0.4m	北西－南東	褐色土堆積、 環濠間を連続する溝
SD-1104																				幅3.5m 深約0.7m	東北東－西南西	粘質土堆積、 環濠、時期不明
SD-1105																				幅3.0m 深約0.4m	北西－南東	粘質土堆積、 環濠、土器小片
SD-1106																				幅3.5m 深約0.5m	北東－南西	粘質土堆積、 環濠、土器小片
SD-1107																				幅1.8m 深約0.1m	東－西	粘砂堆積、遺物無
SD-2101																				幅4.0m 深約0.8m	北東－南西	粘質土堆積、環濠、 SD-2104を切る
SD-2102																				幅2.5m 深約0.9m	北東－南西	粘土堆積、溝間を連続する溝、 土器小片、時期不明
SD-2103 (SD-6105)																				幅2.8m 深約0.9m	北東－南西	ブロック土堆積、 環濠、土器小片
SD-2104 (SD-6102)																				幅4.0m 深約0.75m	北東－南西	ブロック土堆積、 環濠、土器小片
SR-3151																				幅4.0m以上 深さ不明	北－南	シルト～粗砂堆積、 未掘
SD-3101																				幅2.1m 深約0.95m	北東－南西	粘質土堆積、 環濠、土器小片
SD-4101																				幅2.0m以上 深約1.1m	東北東－西南西	粘土堆積、 土器小片
SD-5101																				幅1.6m 深約0.2m	東北東－西南西	粘質土堆積、 土器小片
SD-5102																				幅2.3m 深約0.95m	北東－南西	粘質土堆積、 土器小片
SD-6101																				幅2.7m 深約0.7m	北東－南西	粘土堆積、環濠、 壁（第11図－5・6）
SD-6103																				幅1.5m 深約0.4m	東北東－西南西	黒色土堆積、遺物無
SD-6106																				幅2.2m 深約0.5m	東－西	粘質土堆積、 土器小片

後期初頭（ＳＲ－1101B）、後期後半（ＳＲ－1101）という埋没過程が想定され、北西－南東から北西－南南東に流路を変更しており、後期後半の流路幅は約 12 mである。ＳＲ－1101B から短頸壷（第 11 図－７）、ＳＲ－1101 から細頸壷（第 11 図－８）の完形品が出土したほか、双方とも多量の自然木が含まれていた。

ＳＤ－2101・6104　第２トレンチ西半及び第６トレンチ南半北で検出した北東－南西方向の大溝で、幅 4.0 m、深さ 0.8 mである。環濠と考えられる。ＳＤ－2104 を切ることから、ＳＤ－2104 が人為的に埋め戻された後、ＳＤ－2101・6104 が掘削されたことが明らかだが、ＳＤ－2104 とやや軸を違えながらもほぼ同じ場所に大溝が掘削された点は特筆される。上層から大和第Ⅵ－3 様式頃と

第９表　唐古・鍵遺跡　第119次調査　土坑一覧表

遺構名	規模			時期	備考
	長軸	短軸	深さ		
ＳＫ-1103	1.4m	1.2m	0.35m	時期不明	弥生土器小片
ＳＫ-1104	1.4m	1.05m	0.6m	時期不明	弥生土器小片
ＳＫ-2201	1.6m		1.2m	大和第Ⅰ-1-b様式	木器貯蔵穴 壷・甕・鉢（第11図-１～４）
ＳＫ-2101	3.0m	1.5m	0.8m	時期不明	遺物無
ＳＫ-2102	3.2m		0.6m	時期不明	遺物無

写真1-1　ＳＫ-2201出土状況（東から）

写真1-2　ＳＲ-1101完掘状況（南から）

みられる土器片が出土しており、後期後半の遺構と考えられる。

ＳＤ-2102　第２トレンチ北東端で検出した北西－南東方向の大溝で、幅2.5ｍ、深さ0.9ｍである。遺物は弥生土器小片が出土したのみで、時期比定が困難であるが、堆積土がＳＤ-2101と共通することから、同時期の遺構と考えられる。

弥生時代

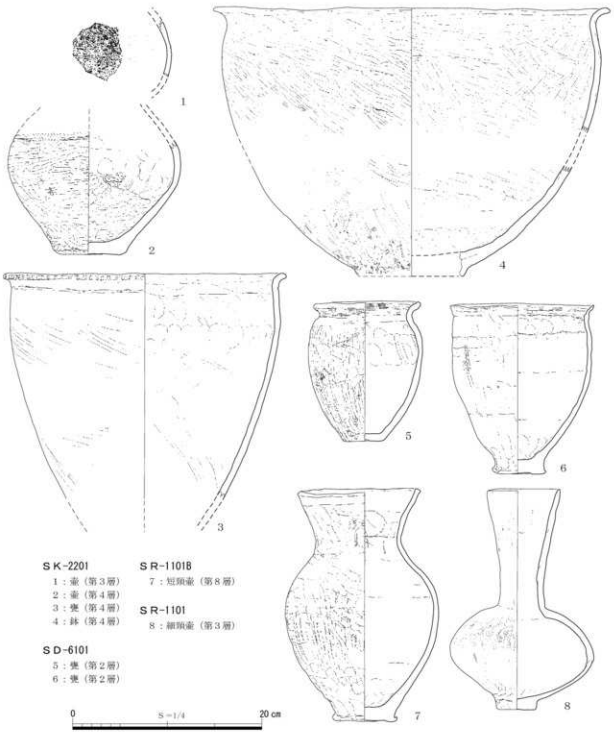
ＳＤ-1105･1106　第１トレンチの東端で検出した大溝で、ＳＤ-1105は推定幅３ｍ、深さ0.4ｍ、ＳＤ-1106は幅3.5ｍ、深さ0.5ｍで、いずれも環濠と考えられる。両溝は西端で収束しており、ＳＲ-1101には接続しない。遺物は、弥生土器小片が出土したのみで、詳細な時期は不明である。

ＳＤ-2103・6105　第２トレンチ南東隅及び第６トレンチ中央南部で検出した北東－南西方向の大溝で、環濠と考えられる。幅2.8ｍ、深さ0.9ｍを測る。埋土は黄褐色土及び淡褐色砂質土と黒色粘土のブロック土で、人為的に埋め戻されたと考えられる。出土土器はわずかで、時期は不明である。

ＳＤ-2104・6102　第２トレンチ北西端及び第６トレンチ北半の南端で検出した北東－南西方向の大溝で、環濠と考えられる。幅4.0ｍ、深さ0.75ｍを測る。埋土は暗褐色土と黄褐色シルトのブロック土であり、ＳＤ-2103・6105と同様に人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は土器小片が出

土したのみで時期は不明だが、ＳＤ－2103・6105と同時期の遺構と考えられる。

ＳＤ－6101　第６トレンチ北端で検出した北東－南西方向の大溝で、幅2.7ｍ、深さ0.7ｍである。環濠と考えられる。中層から甕が２点（第11図－５・６）出土した。時期は大和第Ⅴ－1様式である。



第11図　出土土器

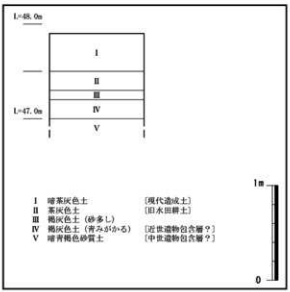
写真 2-1　調査地全景空撮（北西から）

写真 2-2　第 1 トレンチ完掘全景（西から）

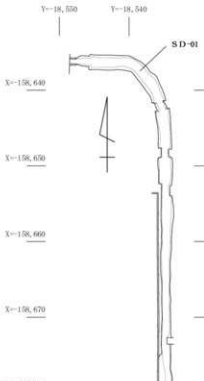
写真 2-3　第 2 トレンチ完掘全景（南から）

写真 2-4　第 3 トレンチ完掘全景（南から）

写真 2-5　第 6 トレンチ完掘全景（北から）



第 12 図　土層柱状図（S＝1/40）



第 13 図　調査区平面図（S＝1/500）

調査成果のまとめ

- 史跡整備に伴う水路改修工事部分において遺構に影響が及ばないよう確認したものであり、当初の予定どおり弥生時代の遺構には影響しないことを確認。
- 本調査区は中世大溝内となる可能性が考えられたが、掘削範囲内では不明であった。

１．調査の概要

史跡地西端での史跡整備に伴う既存水路の暗渠化工事に伴う調査。工事による掘削は基本的に過去の水路工事による攪乱内にとどまる計画であったが、史跡地内での工事であるため、慎重を期して発掘調査で影響範囲を確認した。あわせて、唐古池西側の水路を暗渠化する計画に伴い、遺構の残存する深さ等を確認するため試掘調査を水路内でおこなった（試掘調査　S-201601）。調査は、重機により既存U字溝を撤去後、人力でおこなった。

２．調査の成果

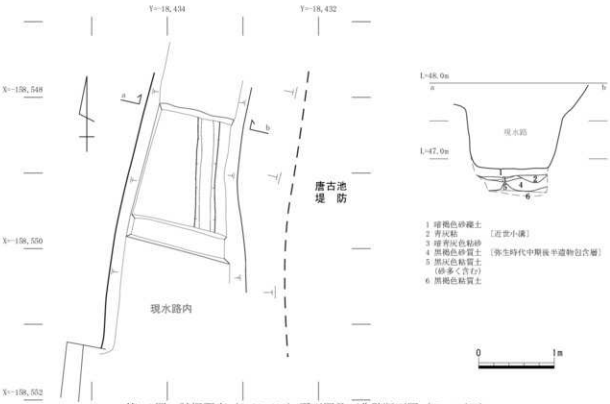
近世～現代

ＳＤ -01　調査区全体が近世～現代の大溝である。近代頃の幅は 1.5 m程度であったと推定される。深さ 0.9 m前後。近世頃の堆積も一部に残存するが、基本的には近代以降の再掘削・U字溝設置工事により失われている。なお、この遺構は中世に遡る可能性が高いが、今回の掘削範囲では明確な中世遺構を確認することはできなかった。

附　試掘調査（S-201601）

平成 29 年度の公園整備事業に伴う唐古池西側の南北水路の暗渠化工事に伴う試掘調査である。試掘調査では遺跡への影響がない形で掘削可能な深さを確認した。調査区は、幅１m、南北２m程度で、基本的には弥生時代遺構上面となる黒褐色砂質土までを掘り下げ、層序等を確認した。

調査の結果、現状水路床から 0.1 m程度の深さが現代堆積層、その直下が弥生時代遺物包含層または遺構内の堆積



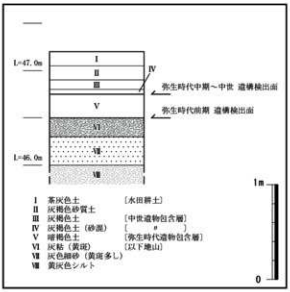
第14図　試掘調査（S-201601）平面図及び北壁断面図（S＝1/50）

写真3-1　調査区全景（北から）

写真3-2　試掘調査全景（西から）

土となる黒褐色砂質土を確認した。出土遺物は、弥生時代中期初頭から後期にかけての弥生土器・石器等である。特に中期前半の直口壷は胴部上半の1/3程度が残存する。付近にこの時期の遺構があると考えられる。この調査区だけで遺物箱1箱半相当が出土した。遺物包含層上面の検出標高は46.7 m。なお、黒褐色砂質土の上面で南北方向の小溝1条を検出した。唐古池築造前の耕作に伴う中世小溝の可能性があるが、狭小な面積であり、遺構に伴う遺物が僅少であるため詳細は明らかでない。

試掘調査の結果、ほぼ現状水路底からの掘り下げが困難であることを確認した。



第 15 図　土層柱状図（S＝1/40）

調査成果のまとめ

- 環濠集落形成以前における遺跡周縁部で弥生時代前期の遺構を確認。
- 弥生時代前期の河跡は、本調査の南東でおこなわれた第 27・28・60 次調査で検出している流路と一連の可能性があり、当時の環境復元の一助となる。
- 弥生時代後期の環濠 3 条を検出したが、出土遺物は多くない。
- 古墳時代前期の土器棺墓を検出。古墳時代前期の墓域を考えるうえで重要な成果。

1．調査の概要

遺跡範囲北端における、既設水路の改修工事に伴う調査。調査区は、途中で屈曲して鉤形を呈する。南北延長 99.5 ×幅 1.5 mである。遺跡北部を囲む環濠が存在すると想定された。

2．調査の成果

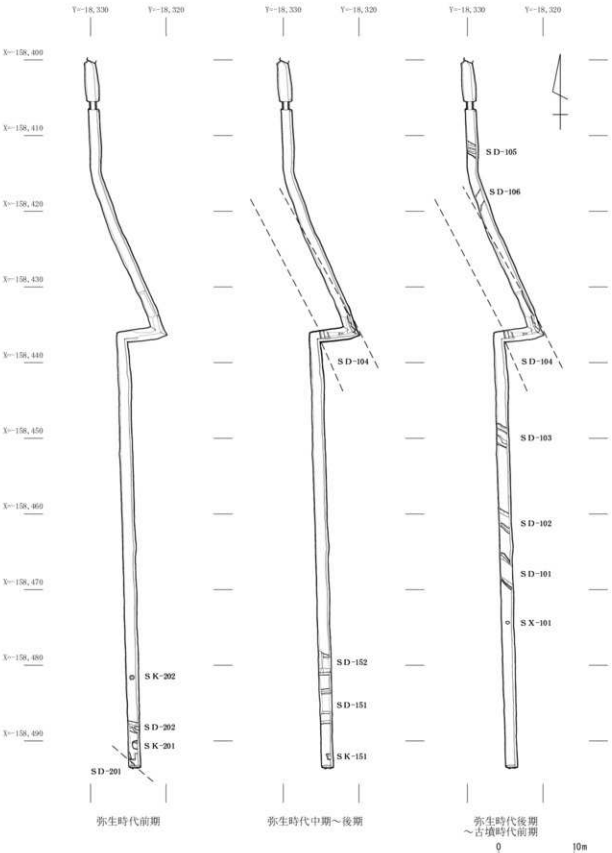
本調査では環濠を含む多数の溝状遺構を検出した。これらは下表にまとめ、その他の遺構を記述する。また、調査区全体では、中世素掘小溝を検出している。

弥生時代前期

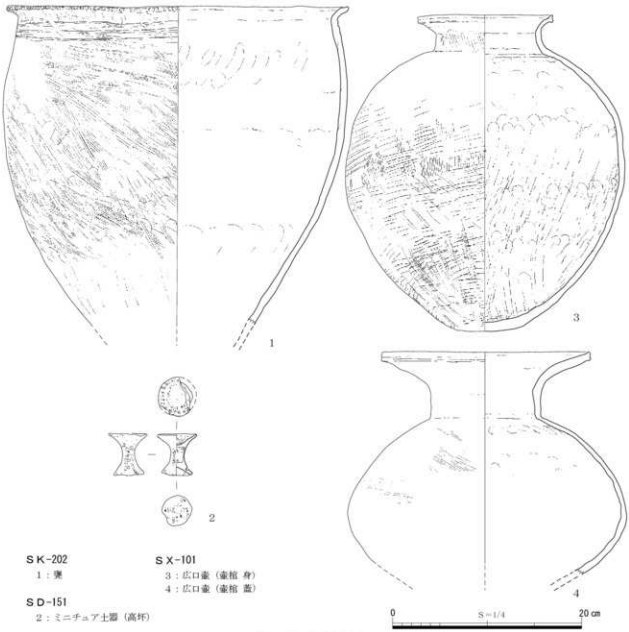
ＳＫ－201　調査区南端で検出した南北軸約 1 m、深さ 0.35 mの方形土坑である。東半は調査区外となる。遺物は出土していないが、検出面から弥生時代前期の遺構であろう。

第 10 表　唐古・鍵遺跡　第 121 次調査　溝・河跡一覧表

遺構名	前期		中期								後期						古墳初頭	古墳前期	規模	方向	備考
	Ⅰ-1	Ⅰ-2	Ⅱ-1	Ⅱ-2	Ⅱ-3	Ⅲ-1	Ⅲ-2	Ⅲ-3	Ⅲ-4	Ⅳ-1	Ⅳ-2	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅵ-1	Ⅵ-2	Ⅵ-3	Ⅵ-4	庄内	布留			
SD-201	←	←																		不明	北西－南東	粘土堆積
SD-202																				幅1.4m 深3.0.6m	西北西－東南東	粘質土堆積、遺物無
SD-104							→	→	→	→	→	→	→	→	→	→				幅4～5m 深3.1.1m	北西－南東	(下層)粗砂・(中層)シルト・(上層)砂質土堆積、河跡、覆水?
SD-151			→	→	→	→	→	→	→	→	→									幅4.5m 深3.0.8m	東－西	粘質土堆積、ミニチュア高杯（第1図-2）
SD-152			→	→	→															幅2.8m 深3.0.6m	東－西	粗砂堆積
SD-101												→	→	→	→	→	→	→		幅2.7m 深3.0.8m	北西－南東	粗砂堆積、環濠
SD-102												→	→	→	→	→	→			幅2.2m 深3.0.8m	北西－南東	粘質土堆積、環濠
SD-103												→	→	→	→	→	→	→	→	幅2.5m 深3.0.35m	西北西－東南東	砂質土堆積、環濠
SD-105																				幅1.5m 深3.0.3m	北西－南東	シルト堆積、環濠、遺物無
SD-106																				幅1.3m 深3.0.3m	北東－南西	粗砂堆積、遺物無



第16図　調査区平面図（S＝1/500）



第17図　出土土器

ＳＫ-202　調査区南端付近で検出した径0.6ｍ、深さ0.3ｍの土坑である。甕（第17図－１）が出土した。時期は大和第Ⅰ-2様式である。

弥生時代中期

ＳＫ-151　調査区南端で検出した南北軸0.8ｍ、深さ0.5ｍの方形土坑である。東半は調査区外となる。時期は大和第Ⅱ様式である。

古墳時代前期

ＳＸ-101　調査区南端付近で検出した布留期の土器棺墓である。第17図－３の壺を本体、４を蓋として横置していた。蓋は縦に半裁した壺、本体は讃岐系とみられる壺で、蓋は胴部下半を、本体は口縁～胴部上半を後世の削平で欠損している。内部に骨や副葬品などは残っていなかった。

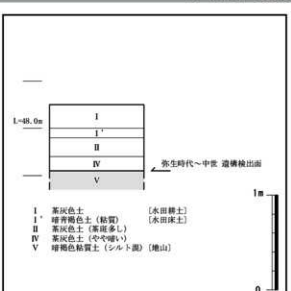
写真 4-1　完掘全景（南から）

写真 4-2　環濠帯全景（南から）

写真 4-3　ＳＤ -104 完掘状況（北西から）

写真 4-4　ＳＸ -101（取上後）

4．唐古・鍵遺跡　第 122 次調査



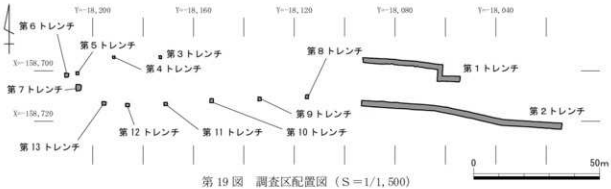
第 18 図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

調査成果のまとめ

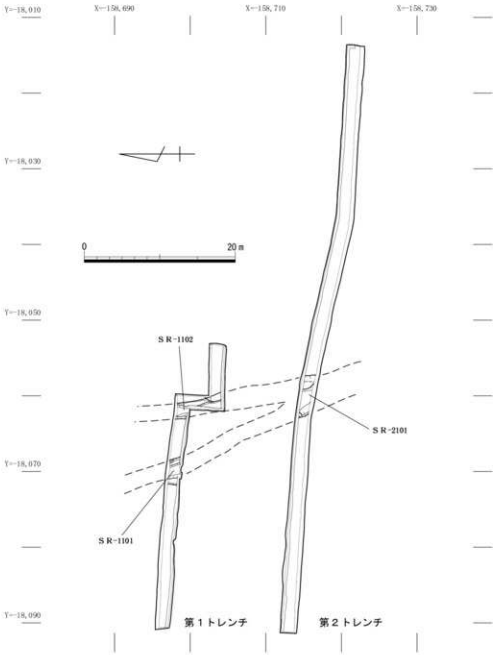
- 第１・２トレンチで検出した古墳時代後期末～飛鳥時代の河跡は、第 27 次調査の河跡と一連である。
- 第５・６・７・13 トレンチでは、弥生時代の遺物包含層を確認した。

1．調査の概要

遺跡東端～東限における、唐古・鍵遺跡史跡公園に隣接する駐車場及び多目的広場の工事に伴う調査。擁壁（第１・２トレンチ）及び集水桝部分（第３～13 トレンチ）で 13 の調査区を設定した。



第19図　調査区配置図（S＝1/1,500）



第20図　調査区平面図（S＝1/500）

２．調査の成果

第３～13トレンチについては、排水桝設置部分で工事掘削の遺構面への影響を確認するため設定したが、工事掘削範囲では遺構面に達しなかった。

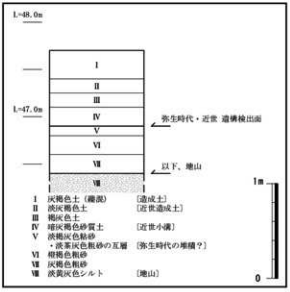
古墳時代後期末～飛鳥時代

ＳＲ-1101・1102・2101　第１・２トレンチ中央で検出した幅2.1ｍ、深さ0.65ｍの河跡である。第２トレンチでは１条の河跡だが、第１トレンチでは２条検出しており、調査区の間で二股に分かれていると考えられる。河跡からは須恵器壷、甕、甑が出土した。

写真5-1　第２トレンチ全景（北西から）

写真5-2　ＳＲ-1102完掘状況（東から）

５．唐古・鍵遺跡　第123次調査



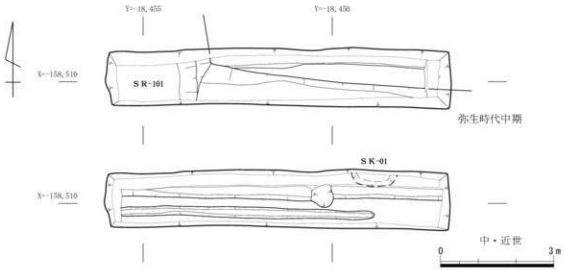
第21図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

調査成果のまとめ

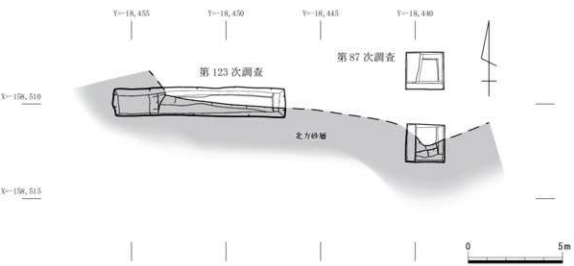
- 狭小な面積の調査ではあったが、２条の河跡とその流路方向を確認。
- ＳＲ-101は第87次調査等で検出している「北方砂層」と同一と考えられ、弥生時代中期後半の河跡である可能性が高い。また、この河跡に切られる形でＳＲ-201を確認。第87次調査の成果から、弥生時代中期前半の遺構とみられる。

１．調査の概要

遺跡北部における、個人住宅建築に伴う調査。同一敷地内では過去に第87次調査を実施しているほか、北側隣接地の東西道路部分で第12次調査を実施しており、その成果から弥生時代中期後半の河跡「北方砂層」の延長が検出される可能性が考えられた。調査地の現状は宅地であり、建物建築予定部分の北側に隣接して東西９×幅1.5ｍの調査区を設定した。



第 22 図　調査区平面図（S＝1/100）



第 23 図　第 87 次調査との関係（S＝1/200）

2．調査の成果

弥生時代

ＳＲ－101　調査区南半～西端で検出した弥生時代中期の河跡である。調査区中央～東端にかけて、東西方向の河跡の北肩を確認した。この河跡は、調査区西側で北へと屈曲するとみられる。南北方向部分での深さは 0.4 m を測る。調査区が狭小であるため河幅は不明。また、遺物が少ないため、詳細な時期は明らかでない。なお、第 87 次調査で検出した弥生時代中期後半の河跡とは同一の遺構とみられる。

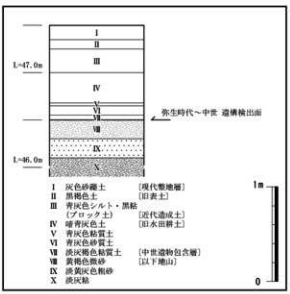
ＳＲ－201　調査区全体で確認した粗砂堆積は第 87 次調査で検出した中期前半の河跡と同一の遺構と考えられる。遺構の規模は不明。深さ 0.4 m で地山を確認しているが、東側に隣接する第 87 次調査では深さ 0.8 m 以上となっているため、河跡の西肩に近い位置となる可能性がある。層序のみの確認にとどまり、掘削はおこなっていない。

近世

ＳＫ－01　調査区中央北端で検出した土坑である。排水溝内および北壁での検出であるため、正確な規模と平面形は不明。北壁部分で幅1.3ｍ、深さ0.7ｍを測る。近世の瓦片が多数出土した。

写真6　完掘全景（西から）

６．保津・宮古遺跡　第44次調査



第24図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

調査成果のまとめ

- 弥生時代の遺構は、後期の東西方向の大溝１条のみ。性格は明らかでないが、遺物が僅少なこともあり、集落域外にある方形周溝墓のような遺構の可能性もある。
- 平安時代の遺構は土坑４基を検出し、いずれも井戸の可能性がある。遺物は僅少だが平安時代頃の集落の可能性がある。
- 本調査地は常楽寺推定地にも重複しているが、寺院関連と判断できる遺物は出土していない。

１．調査の概要

遺跡北東端における、宅地分譲に伴う調査。既存建物の解体工事時に工事立会（R-201605）をおこなったのち、道路予定部分の延長約45ｍのうち、南半の延長23×幅４ｍを対象に発掘調査を実施した。

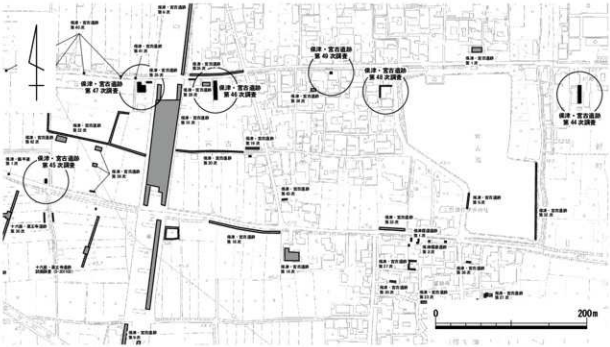
２．調査の成果

弥生時代後期

ＳＤ－101　調査区北半で検出した東西方向の大溝である。幅５ｍ、深さ0.5ｍを測る。遺物は僅少で、弥生時代後期の土器片が出土した。

古代

ＳＫ－101　ＳＫ－102の北西に隣接して検出した土坑である。１辺１ｍ前後の隅丸方形で、深さ0.5ｍを測る。遺物が僅少であり、時期も明らかでないが、堆積土から平安時代頃の遺構である可能性が高い。



第25図　保津・宮古遺跡調査地位置図（S＝1/5,000）

ＳＫ-102　ＳＫ-103の北東に隣接して検出した円形の土坑である。直径1.5ｍ、深さ0.4ｍを測る。遺物は僅少で、堆積土等から平安時代頃の遺構とみられる。

ＳＫ-103　調査南端で検出した円形の土坑である。西側の一部は調査区外へ拡がる。直径約3ｍ、深さ0.6ｍを測る。黒色土器・土師器甕等の破片が出土した。平安時代頃の遺構と考えられる。

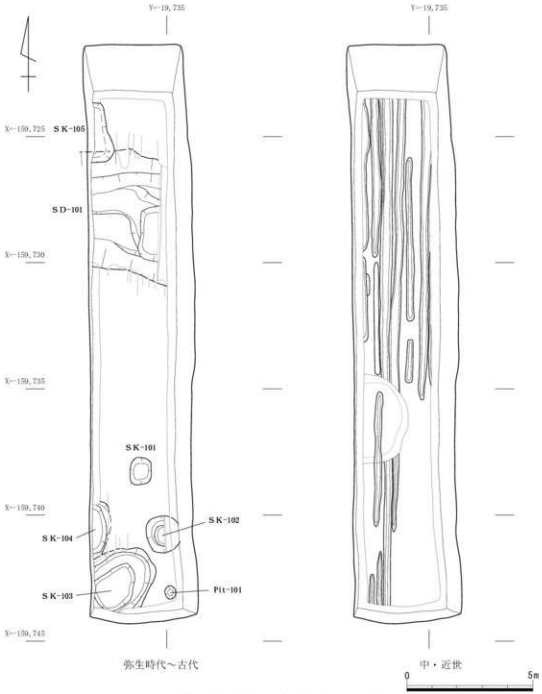
ＳＫ-104　ＳＫ-103の北側に隣接して検出した土坑である。南北2.5ｍ、深さ0.4ｍを測る。西側の大半が調査区外となるため、正確な平面形と規模は不明。遺物は僅少で、平安時代頃の土師器が少量出土した。

ＳＫ-105　調査区北端西寄りで検出した方形の土坑である。南北2.3ｍ、深さ0.4ｍを測る。西側の大半が調査区外となるため正確な規模は不明。遺物は僅少で、時期も明らかでない。堆積土から平安時代頃の遺構である可能性が高い。

中世

小溝群　調査区全体で南北方向の小溝を多数検出した。遺物が僅少で、詳細な時期は明らかでない。中世～近世頃の耕作に伴う小溝群であろう。

写真7　完掘全景（南から）



第 26 図　調査区平面図（S＝1/150）

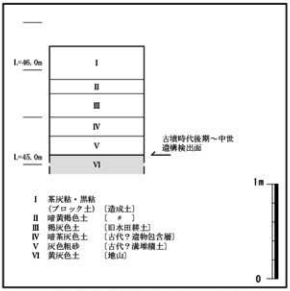
7．保津・宮古遺跡　第 45 次調査

調査成果のまとめ

・古墳時代後期の遺構は遺物量が少ないことから、集落縁辺部の様相を示す。
・古代の溝状遺構は、南側の十六面・薬王寺遺跡 第 30 次調査で検出した溝（河跡にとりつく水路）の延長にあたると推定されるもので、耕地開発に関わる遺構となる可能性がある。

1．調査の概要

遺跡南西端における個人住宅建築に伴う調査。周辺の調査成果から、集落遺構は比較的希薄と



第27図　土層柱状図（S＝1/40）

なることが予想された。調査地南側には西北西－東南東方向の古代道路跡である保津・阪手道が隣接することから、古代道路関連遺構が存在する可能性が考えられた。本調査地は、青空資材置き場となっていたが、以前は水田だったとみられる。

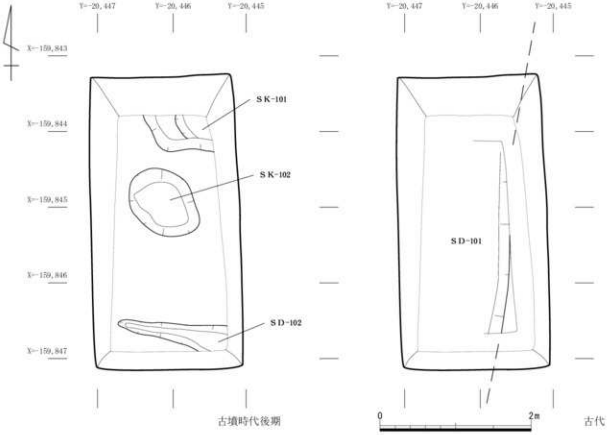
2．調査の成果

古墳時代

ＳＫ－101　調査区北端で検出した深さ0.1ｍの土坑である。調査区外に拡がるため平面規模は不明。遺物は僅少で、須恵器片等が出土した。古墳時代後期頃の遺構とみられる。

ＳＫ－102　調査区中央で検出した深さ0.05ｍの浅い土坑である。平面楕円形で長軸1.0ｍ、短軸0.8ｍ、深さ0.05ｍを測る。須恵器小片などが出土した。古墳時代後期頃の遺構とみられる。

ＳＤ－102　調査区南端で検出した東西方向の小溝である。幅0.4ｍ、深さ0.05ｍを測る。出土した土器は小片のみであり詳細な時期は不明であるが、古墳時代頃の遺構とみられる。



第28図　調査区古墳時代・古代平面図（S＝1/50）

古代

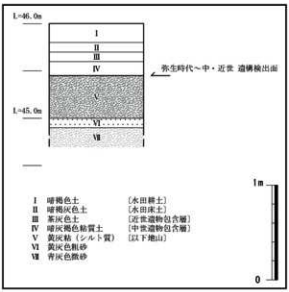
ＳＤ－101　調査区全体で検出した南北方向の溝状遺構である。東肩のみ検出した。幅不明、深さ0.15ｍを測る。顕著な遺物は出土していないが、全体の堆積が粗砂であり、南側隣接地の調査でみられた飛鳥時代頃の砂層堆積に対応する可能性がある。

中世

小溝群　調査区全体で南北方向の小溝を４条検出した。遺物が僅少で、詳細な時期は明らかでない。中世頃の耕作に伴う小溝群であろう。

写真８　完掘全景（北から）

８．保津・宮古遺跡　第46次調査



第29図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

調査成果のまとめ

・鎌倉時代の遺構は、屋敷地を区画する溝か。
・南東50ｍで実施した第19次調査でもほぼ同時期・同規模の南北方向の溝を確認しており、今回検出した遺構とともに屋敷地を囲んでいたと考えられる。ただし、本調査地では比較的遺物が少ないことから、この溝が鎌倉時代の屋敷地の北西端となる可能性がある。

１．調査の概要

遺跡北部における、宅地分譲に伴う調査。調査地付近では、京奈和自動車道の開発に伴う調査で弥生時代後期と古代の遺構を確認している。一方、西側隣接地の第28次調査では顕著な遺構を確認していない。このことから、弥生時代～古代の遺構分布範囲としては周縁部に相当することが予想された。調査では、共用道路予定部分に南北34×幅４ｍの調査区を設けた。

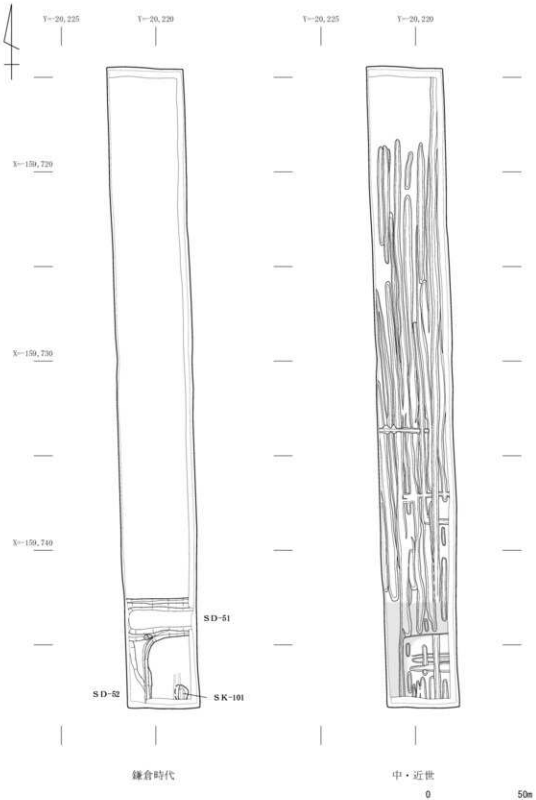
２．調査の成果

弥生時代

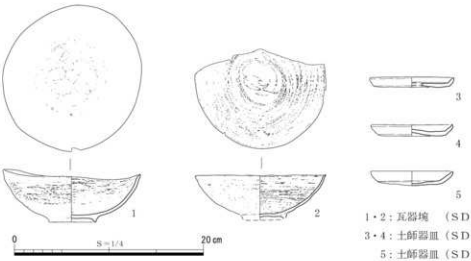
ＳＫ－101　調査区南端で検出した土坑である。直径１ｍ、深さ0.3ｍを測る。遺物は出土していないが、堆積土から弥生時代の遺構である可能性がある。

鎌倉時代

ＳＤ－51・52　調査南側で検出した「Ｌ」字形の溝である。東西方向の大溝ＳＤ－51は、幅２ｍ、



第 30 図　調査区平面図（S＝1/200）



1・2：瓦器埦　（ＳＤ-52）
3・4：土師器皿（ＳＤ-52）
5：土師器皿（ＳＤ-51）

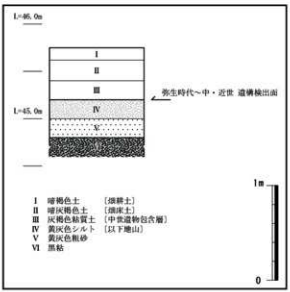
第 31 図　出土土器

写真 9-1　完掘全景（南から）

写真 9-2　ＳＤ -51・52 完掘状況（東から）

深さ 0.4 mを測る。断面は逆台形で、調査区西端付近で南へと直角に曲がりＳＤ -52 となる。遺物は、鎌倉時代の瓦器や瓦片などが出土している（第 31 図）。

小溝群　調査区全体で検出した南北方向を中心とする小溝群である。大きく２時期に分かれる。一部の小溝はＳＤ -51 に切られることから、鎌倉時代またはそれ以前の遺構と考えられる。また、ＳＤ -51 を切る小溝は鎌倉時代以降の遺構と考えられる。



第 32 図　土層柱状図（S＝1/40）

調査成果のまとめ

- 弥生時代後期後半頃の大溝２条、飛鳥～奈良時代の建物跡と小溝群などを検出。
- 弥生時代後期の遺構は、第 10 次調査の大溝と同一のものとみられ、遺跡南部から北側の宮古北遺跡まで続く長大な遺構となる可能性がある。遺物量も比較的多いことから、この溝の周囲に集落が点在している状況も考えられる。
- 古代では、建物構造は不明ながら多数の柱穴を確認。周辺の調査では墨書土器や人面墨画土器、円面硯など官衙的な遺物がみつかっている。「筋違道」と「保津・阪手道」の交差点に近いことから、式下郡衙のような施設が想定される。また、北側に隣接する宮古北遺跡、南側に隣接する十六面・薬王寺遺跡でも同時期の建物跡を確認しており、保津・宮古遺跡を中心とした広い地域に古代の遺構が拡がることが判明してきている。

１．調査の概要

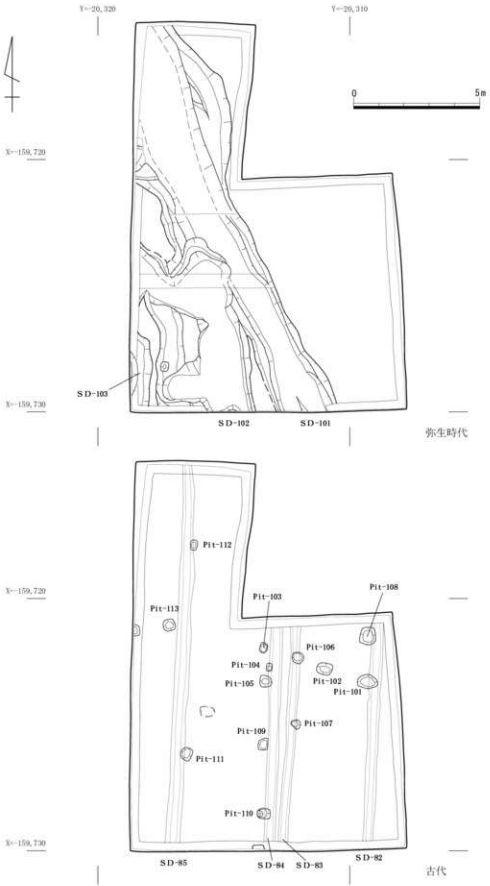
遺跡中央での工場建築に伴う調査。今回の申請地は、過去に農業用倉庫建築に伴う発掘調査を実施しており、古代の溝状遺構１条を確認している。また、東側隣接地では京奈和自動車道の建設に伴って第 10 次調査がおこなわれており、弥生時代後期、奈良時代など複数時期の遺構を確認している。このことから、弥生時代～古代の遺構が拡がることが予想された。

２．調査の成果

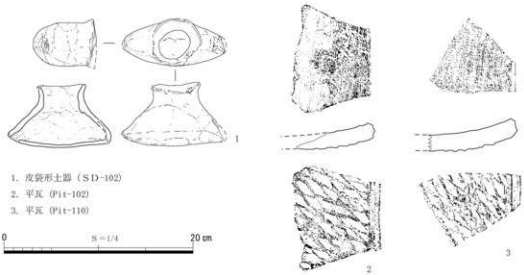
弥生時代

ＳＤ－101　調査区西半で検出した北西－南東方向の大溝である。溝幅は２～３m、深さ 0.5 m前後を測る。上層は古墳時代～古代の土器片が混在しているが、以下の層では弥生時代後期後半の土器が多数出土していることから、本遺構の所属時期は弥生時代後期後半頃とみられる。なお、北半は調査日程上、完掘していない。

ＳＤ－102・103　ＳＤ－102 は、調査区西端で検出した北西－南東方向の大溝である。北西端は西方向に屈曲している。ＳＤ－101 とは出土土器に時期差がみられず、また両者に明瞭な切り合い関係がないため、同時期に開口していた可能性が高い。東側隣接地の第 10 次調査では、１条の大溝であったものが調査区西側で分岐しており、本調査区でも接しながら分岐していく状況を確認した。なお、調査区南端の上層から、古墳時代前期頃とみられる皮袋形土器（第 34 図－１）がほぼ完全な形で出土した。また西に隣接するＳＤ－103 は、遺跡外に拡がるため詳細不明ながらＳ



第 33 図　調査区平面図（S＝1/150）



第 34 図　出土遺物

写真 10-1　中世・古代完掘全景（北西から）

写真 10-2　弥生時代調査全景（北から）

Ｄ -101・102 と同様の溝であろう。

古代

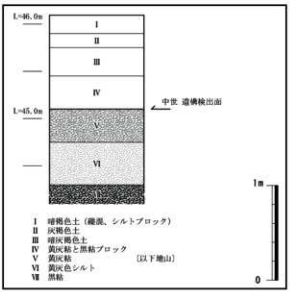
建物跡　調査区全体で柱穴を 16 基検出した。基本的には隅丸方形で、1 辺 0.4 ～ 0.5 m、深さ 0.3 m前後を測る。一部には礎板が残る。建物の主軸は南北方向のものと、西北西－東南東方向のものとみられる柱列が確認できるが、建物プランは不明である。飛鳥時代～奈良時代にかけて２時期の建物が重複していたとみられる。

ＳＤ -82 ～ 85　南北方向の小溝４条を検出した。いずれも幅 0.5 m、深さ 0.2 m前後で、奈良時代頃の土器などが出土した。ＳＤ -82 と 83 の間が約 3 m、ＳＤ -83 と 84 の間が約 0.2 m、ＳＤ -84 と 85 の間が約 3 m となっている。

中・近世

小溝群　調査区全体で、中世以降の南北及び東西方向の小溝群を確認した。

10. 保津・宮古遺跡　第 48 次調査



第 35 図　土層柱状図（S＝1/40）

調査成果のまとめ

- 調査区を南北に縦断する鎌倉時代の大溝を検出。
- 現状 GL-0.5 m で検出した黒色粘土と黄灰色粘土のブロック堆積は、享保九（1724）年の宮古池の築造に伴う掘削土が盛土に転用されたものと考えられる。

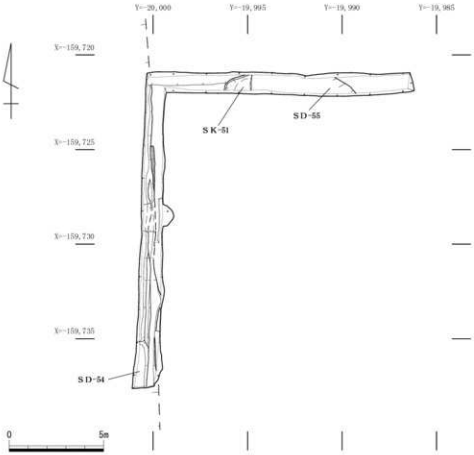
1．調査の概要

遺跡中央部における、宅地造成に伴う調査。擁壁が設置される部分に逆「L」字状に調査区を設定。

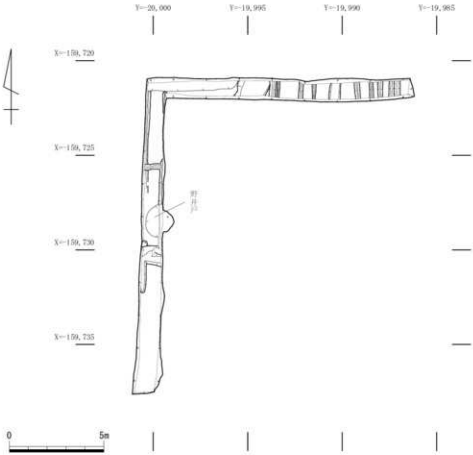
2．調査の成果

中世

ＳＤ -54　調査区の西端で現地割に沿うように検出した南北方向の大溝である。西肩が調査



第 36 図　調査区平面図（鎌倉時代）（S＝1/200）



第 37 図　調査区平面図（中世）（S＝1/200）

写真 11-1　東西方向完掘全景（東から）

写真 11-2　南北方向完掘全景（南東から）

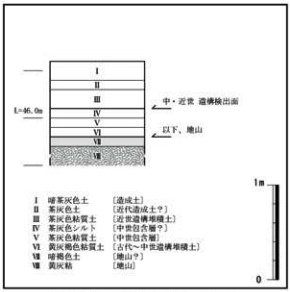
区外のため、幅は不明だが、深さ 0.5 mである。多量の瓦器埦片が出土していることから、鎌倉時代の遺構と考えられる。

ＳＤ -55　調査区中央で検出した北西－南東方向の大溝で、西肩をＳＫ -51 に切られるため、幅は 3.5 m以上と推定される。未掘のため深さは不明だが、調査区南壁の土層堆積状況から 0.3 m以

上と考えられる。時期は鎌倉時代である。

ＳＫ-51　調査区中央で検出した隅丸方形の土坑で、東西 1.3 m、南北 0.8 m以上である。検出面から中世の遺構とみられるが、出土遺物が僅少なため、時期は不明である。

11．保津・宮古遺跡　第 49 次調査



第 38 図　土層柱状図（S＝1/40）

調査成果のまとめ

・鎌倉時代以前は耕地であったが、鎌倉時代頃の溝を検出したことから、中世以降屋敷地化したと想定される。同様の変遷が南西側の第 38 次調査で確認されており、宮古集落内の土地利用の変遷を考える上で重要な成果。

１．調査の概要

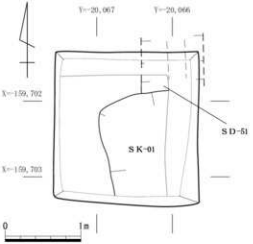
遺跡中央における個人住宅建築に伴う調査。南西側の調査では、鎌倉時代～室町時代の溝や土坑などを検出しており、中世集落関連遺構が比較的高い密度で分布することが判明している。

２．調査の成果

中世

小溝群　北排水溝で第２遺構面に南北方向の小溝群が拡がることを確認した。西側隣接地の第 38 次調査では平安時代頃とみられる小溝群を確認しており、層序が対応することから同時期の遺構である可能性が考えられる。

ＳＤ-51　調査区東端で検出した南北方向の小溝である。西肩のみの検出であり、幅は不明。深



第 39 図　調査区平面図（S＝1/50）

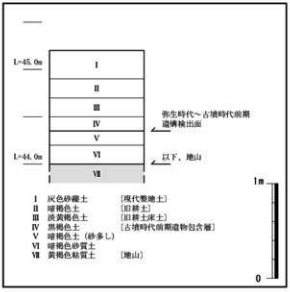
写真 12　検出全景（南から）

さ0.5ｍを測る。鎌倉時代頃の瓦器が出土した。

近世～近代

ＳＫ-01　調査南東部で検出した土坑である。調査区外に拡がるため正確な規模は不明であるが、１辺２ｍ程度の方形の土坑となる可能性がある。深さは0.5ｍまで確認した。最上層から近世の平瓦が多数出土したことから、瓦廃棄坑の可能性がある。

12. 宮古北遺跡　第21次調査



第40図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

調査成果のまとめ

- 南側隣接地の十六面・薬王寺遺跡 第31次調査で検出した弥生時代後期末～古墳時代前期の集落域・墓域の北側に拡がる落ち込み状地形を確認した可能性がある。ただし、本調査区の西端は微高地の一部となる模様で、古墳時代前期後半の井戸を確認している。
- 保津・阪手道と主軸が近似する溝状遺構を確認。ＳＤ-101は宮古北遺跡第20次調査で確認した道路側溝と同一遺構、またＳＤ-102は道路に規制された浅い落ち込みの可能性がある。
- 平安時代前期頃の建物群が拡がっていたことが判明。十六面・薬王寺遺跡第31次調査では、当該時期の建物２棟と地鎮遺構を確認しており、本調査地まで拡がっていたことが判明。

１．調査の概要

遺跡南部における工場建設に伴う調査。掘削の深くなる敷地南部に東西70×幅2.5ｍの調査区を設定した。

２．調査の成果

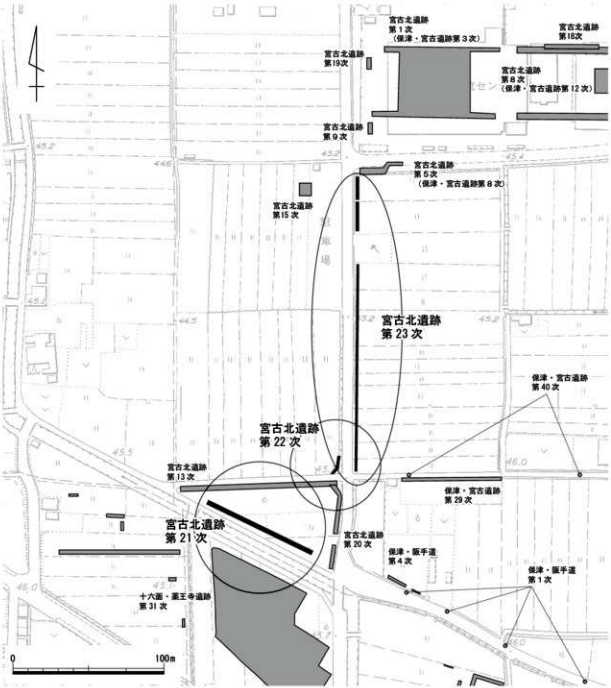
弥生時代後期末～古墳時代初頭

ＳＤ-151　調査区西端で検出した北西－南東方向の小溝である。幅0.5ｍ、深さ0.1ｍ前後である。顕著な遺物が出土していないが、弥生時代頃の遺構とみられる。

ＳＫ-151　ＳＤ-151の北側で検出した不定形の土坑である。調査区北側に拡がり、検出範囲で幅３ｍ以上、深さ0.2ｍを測る。顕著な遺物が出土していないため、遺構の時期は不明である。

ＳＲ-151　調査区西半で検出した北北西－南南東方向の河跡である。幅約10ｍ、深さ0.5ｍ前後を測る。弥生時代後期末～古墳時代初頭（大和第Ⅵ-4様式～庄内式古段階）の土器が多数出土した（第43図－３・４）。

ＳＲ-152　調査区中央～西端まで拡がる河跡状の遺構である。幅不明、深さ0.7ｍ前後を測る。弥生時代後期末～古墳時代初頭（大和第Ⅵ-4様式～庄内式古段階）の土器が多数出土した（第43



第41図　宮古北遺跡調査地位置図（S＝1/2,500）

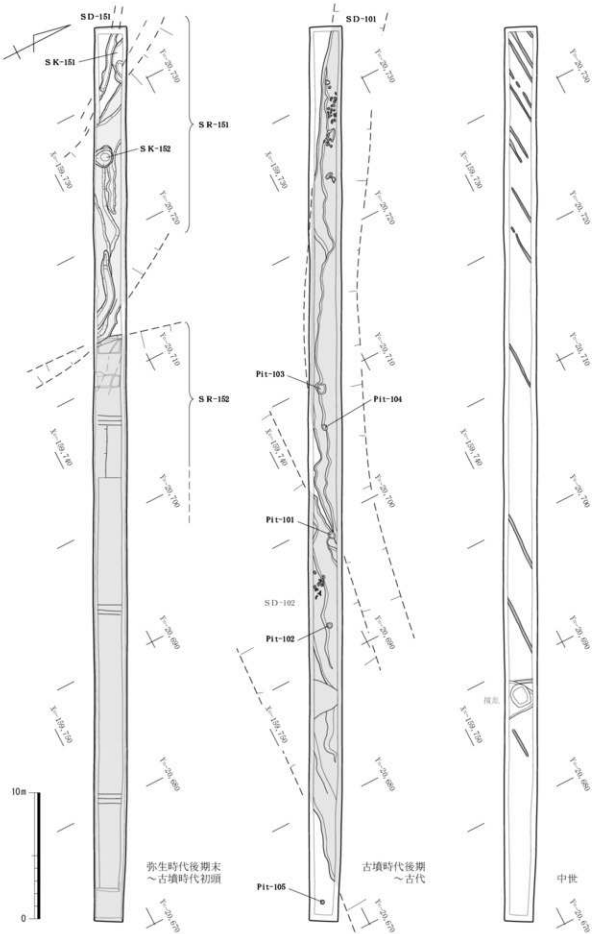
図－１・２）。なお、内面に赤色顔料が付着した片口の鉢片、東海・山陰地域からの搬入土器小片などが出土している。

古墳時代前期

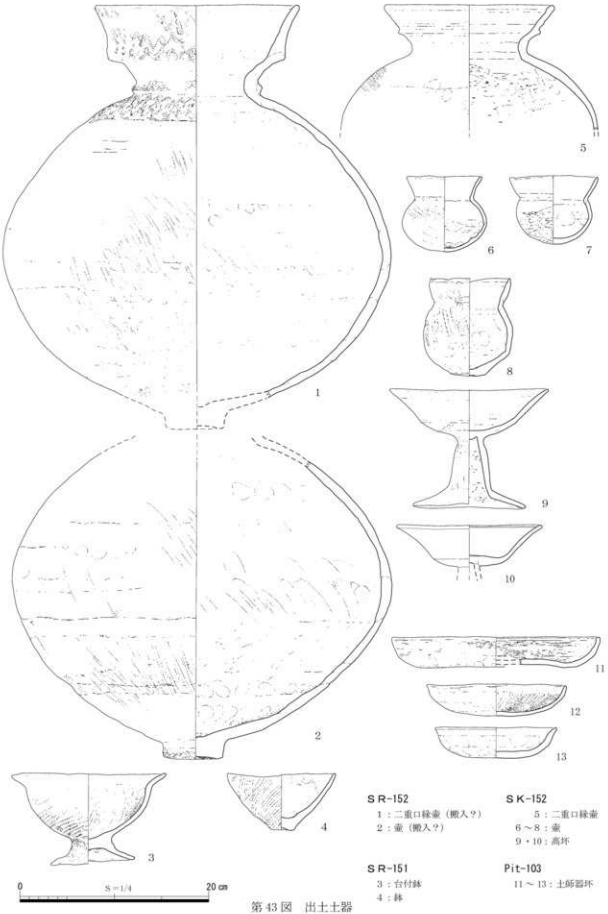
ＳＫ－152　調査区西側で検出した円形の土坑である。直径1.6ｍ、深さ0.8ｍを測る。古墳時代前期後半頃の土師器（第43図－５～10）が多数出土した。井戸の可能性が高い。

古代

Pit-101～105　調査区中央～東半で古代の建物の柱穴を５基検出した。ただし、調査区が狭小



第42図　調査区平面図（S＝1/300）



SR-152
1：二重口縁壺（搬入？）
2：壺（搬入？）

SR-151
3：台付鉢
4：鉢

SK-152
5：二重口縁壺
6～8：壺
9・10：高坏

Pit-103
11～13：土師器坏

第43図　出土土器

であるため、建物プランは明らかにすることができなかった。平面隅丸方形で、1辺0.3～0.7m、深さ0.3～0.4mを測る。このうち、Pit-103からは完形の土師器坏2点（第43図-12・13）などが出土した。地鎮に伴う遺物と考えられる。土器の時期から、平安時代前期頃の遺構と考えられる。ＳＤ-101・102の完掘後に検出しているが、本来はＳＤ-101・102を切る遺構である可能性が高い。

ＳＤ-101　調査区西半で検出した西北西－東南東方向の溝状遺構である。南肩のみの検出であるため幅不明、深さ0.3mを測る。溝底の一部で足跡状の窪みを確認している。遺物の大半が本来ＳＲ-151に伴ったとみられる古式土師器等であるが、古墳時代後期末～奈良時代頃の須恵器片を含むことから、古代の保津・阪手道に関連する遺構である可能性がある。

ＳＤ-102　調査区東半で検出した東西方向の溝状遺構である。幅12m前後、深さ0.2m前後を測る。ＳＤ-101同様に保津・阪手道と関わる遺構とみられるが、溝幅に対して極めて浅い。また、一部で足跡状の窪みを検出している。奈良時代前後の須恵器片が出土していることから、ＳＤ-101と同時期の遺構と考えられる。なお、馬の歯や不明鉄製品などが出土している。

中世

小溝群　調査区全体で東西方向の小溝を検出した。遺物が僅少であるため、詳細な時期は明らかでないが、中世頃の耕作に伴う小溝群であろう。

写真13-1　完掘全景（西から）

写真13-2　ＳＫ-152遺物出土状況（北西から）

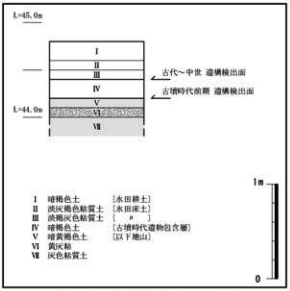
13. 宮古北遺跡　第22次調査

調査成果のまとめ

・古墳時代・古代・中世の各時期の遺構を検出したが、全体的に遺物が僅少であり、詳細な時期は明らかでない。
・古代頃の溝は付近で検出している飛鳥時代頃の河跡にとりつく可能性があり、耕作関連遺構と考えられる。

1．調査の概要

遺跡南部における道路拡幅工事に伴う調査。道路擁壁設置個所に逆「く」字形の調査区（南北14×幅1.5m）を設定し、発掘調査を実施した。



第 44 図　土層柱状図（S＝1/40）

2．調査の成果

古墳時代

落ち込みⅠ　調査地南西部で検出した落ち込み状の遺構である。東肩のみの検出であり、規模は明らかでない。深さ 0.3 m前後を測る。後述する落ち込みⅡとは一連の遺構となる可能性がある。

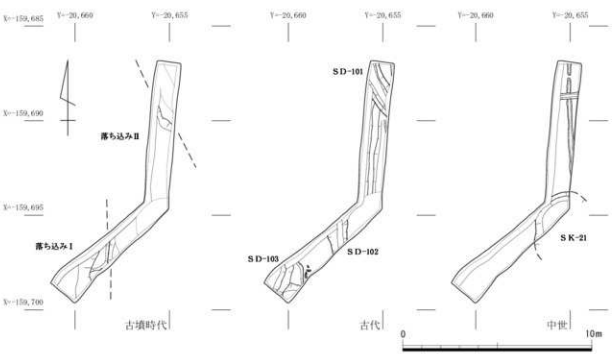
落ち込みⅡ　調査区の大半に拡がる落ち込み状の遺構である。幅 6 m前後、深さ 0.1 m前後を測る。幅に対して浅い。

古代

ＳＤ -101　調査区北端で検出した北北西－南南東方向の溝である。幅 1.2 m、深さ 0.4 m を測る。堆積土は粗砂で、顕著な遺物は出土していない。周囲の調査で古代頃の粗砂堆積の河跡などを確認していることから、古代頃の遺構と考えられる。

ＳＤ -102　調査区中央南寄りで検出した南北方向の溝である。幅 1.1 m、深さ 0.4 m を測る。顕著な遺物は出土していないが、規模と堆積土がＳＤ -101 と共通することから、同時期の遺構とみられる。

ＳＤ -103　調査区南西端で検出した溝状遺構である。堆積土がＳＤ -101・102 と近似することから一連の遺構となる可能性がある。溝肩には足跡とみられる窪みがみられる。



第 45 図　調査区平面図（S＝1/200）

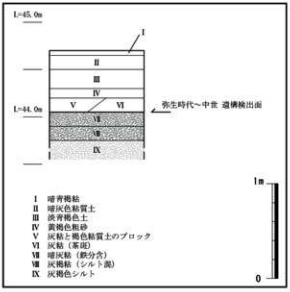
中世

ＳＫ－21　調査区中央で検出した平面楕円形の土坑である。大半が調査区外であり、推定径３ｍ前後、深さ 0.7 ｍ前後とみられる。

小溝群　調査区北半で東西方向１条、南北方向１条の小溝を検出した。遺物が僅少であるため、詳細な時期は明らかでないが、中世頃の耕作に伴う小溝群であろう。

写真 14　完掘全景（北から）

14. 宮古北遺跡　第 23 次調査



第 46 図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

調査成果のまとめ

- 弥生時代後期の土坑１基、溝３条、小溝１条を検出した。小溝ＳＤ－3112 では、７個体以上の甕が一括廃棄された状態で出土。
- 宮古北遺跡第１次調査で検出した方形区画の続きは、本次調査では検出できなかった。

１．調査の概要

遺跡南西部における、町道拡幅工事に伴う調査。擁壁を設置する部分に第１トレンチ（南北 15 ×幅 1.2 ｍ）、第２トレンチ（南北 17.3 ×幅 1.2 ｍ）、第３トレンチ（南北 134 ×幅 1.2 ｍ）の３つのトレンチを設定した。

２．調査の成果

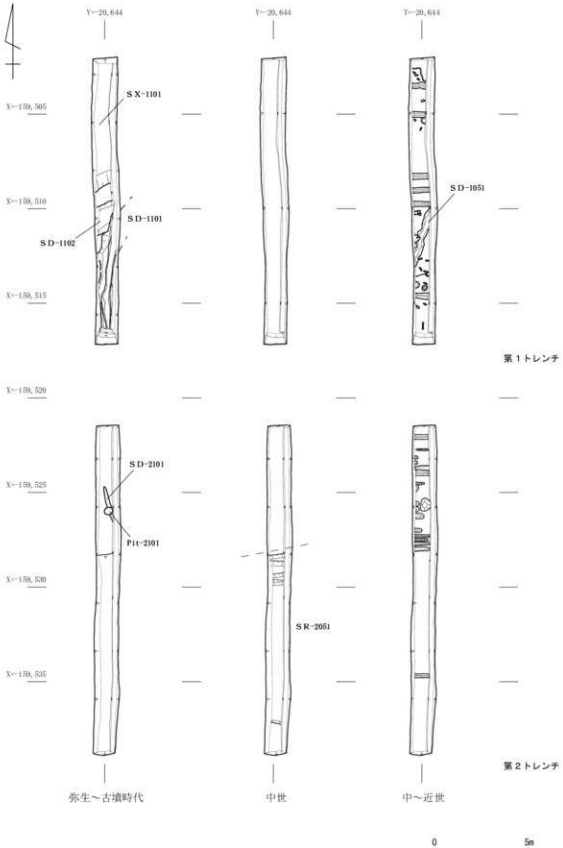
弥生時代後期

ＳＤ－1102　第１トレンチ中央で検出した東北東－西南西方向の溝で、幅 1.4 ｍ、深さ 0.3 ｍである。ＳＤ－1101 に切られていることに加え、出土土器から弥生時代後期の遺構と推定される。

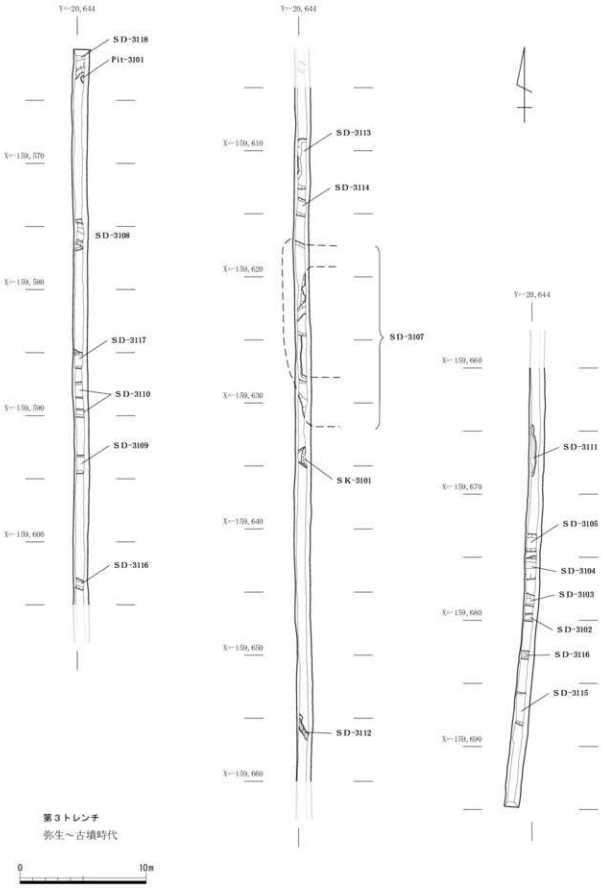
ＳＫ－3101　第３トレンチ中央で検出した径 1.7 ｍ、深さ 0.6 ｍの土坑である。底面から弥生時代中期ごろの甕底部（第 50 図－ 12）が出土した。

ＳＤ－3112　第３トレンチ南半で検出した北西－南東方向の小溝（大和第Ⅵ－4 様式）である。幅 0.35 ｍ、深さ 0.2 ｍである。甕が少なくとも７個体以上（第 50 図－１～７）出土した。一部は合わせ口状に出土しており、埋納された可能性がある。

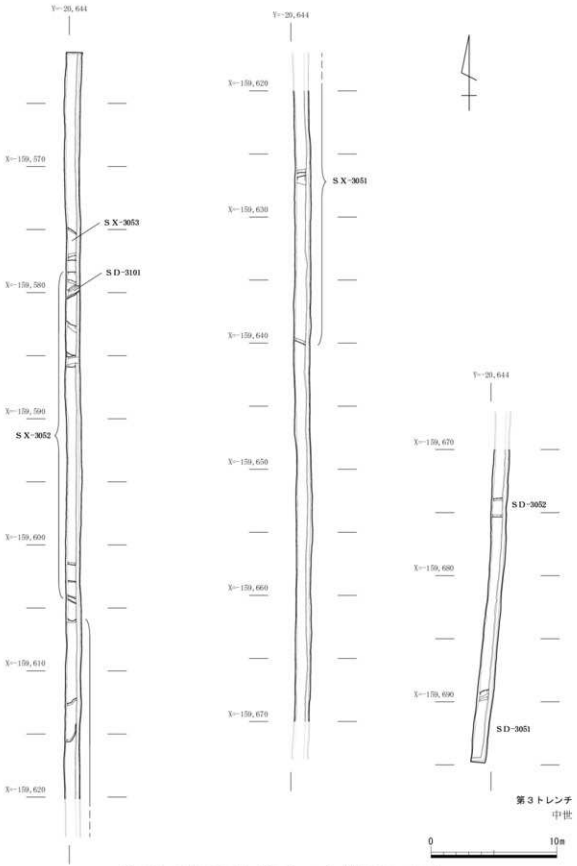
ＳＤ－3107　第３トレンチ中央部で検出した南北方向の溝で、南北端は東へ屈曲する。幅 1.6 ｍ、



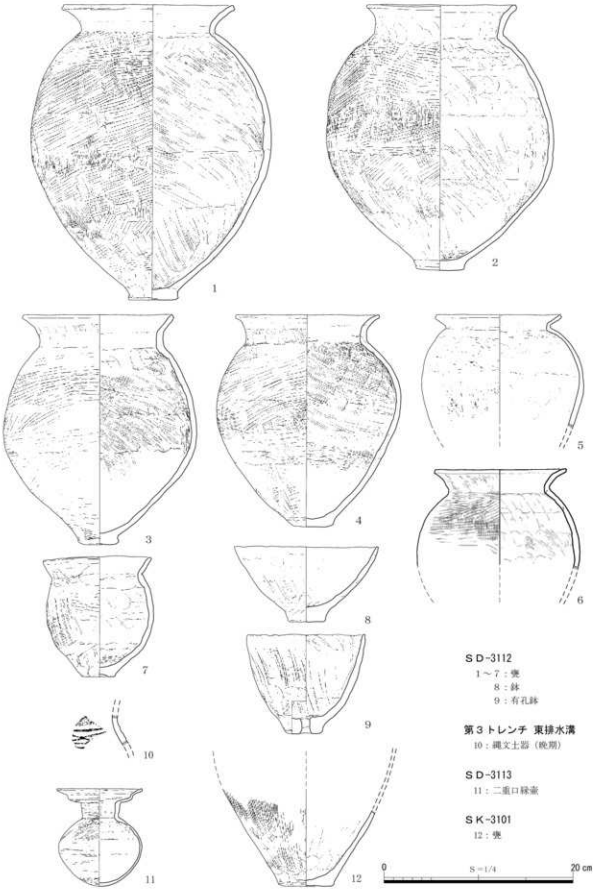
第47図　調査区平面図（第1・2トレンチ）（S＝1/200）



第 48 図　調査区平面図（第３トレンチ 弥生～古墳時代）（S＝1/300）



第 49 図　調査区平面図（第３トレンチ 中世）（S＝1/300）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
SD-3112
1～7：甕
8：鉢
9：有孔鉢
第3トレンチ 東排水溝
10：縄文土器（晩期）
SD-3113
11：二重口縁壺
SK-3101
12：甕
0
S=1/4
20 cm

第 50 図　出土土器

深さ0.4ｍである。出土遺物が小片だったため、時期は不明である。形状から方形周溝墓の可能性がある。

古墳時代

ＳＤ-3113　第３トレンチ中央部で南北４ｍに渡って検出した溝である。形状から方形周溝墓の可能性が考えられる。溝内から布留式期と考えられるミニチュアの二重口縁壺（第50図-11）が出土した。

ＳＤ-1101　第１トレンチ南部で検出した北北東－南南西方向の溝である。幅0.85ｍ、深さ0.25ｍである。出土遺物から、布留式期の遺構と考えられる。

ＳＸ-1101　第１トレンチ北半で検出した落ち込み状遺構である。幅6.7ｍ以上、深さ0.5ｍである。弥生土器・古式土師器片が出土したほか、円筒埴輪小片が出土した。古墳時代中期以降の遺構と考えられる。

ＳＤ-3111　第３トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。西肩は調査区外のため、幅は不明だが、深さは0.2ｍである。土器小片のみの出土だったため、詳細な時期決定ができないが、須恵器が含まれることから古墳時代後期の遺構と推定される。

中世

ＳＤ-1051　第１トレンチ南部で検出した北東－南西方向の溝である。幅0.4ｍ、深さ0.1ｍである。弥生土器片が出土したが、遺構の検出高から中世の遺構と考えられる。洪水砂とみられる粗砂で埋没していた。

ＳＲ-2051　第２トレンチ南半で検出した東北東－西南西方向の河跡で、深さは0.6ｍである。出土遺物が僅少だったため、時期は不明だが、調査区壁面の観察から、中世の遺構と考えられる。

ＳＸ-3051～3053　第３トレンチ中央部で検出した微低地地形である。古墳時代前期から中世(14世紀ごろ）にかけて徐々に埋没したとみられる。

ＳＤ-3051　第３トレンチ南端で検出した東西方向の大溝である。南肩は調査区外のため幅は不明だが、深さは0.3ｍである。出土遺物はなかったが、埋土が暗灰色粘土だったことから、中世の遺構と考えられる。

写真15-1　完掘全景（南から）

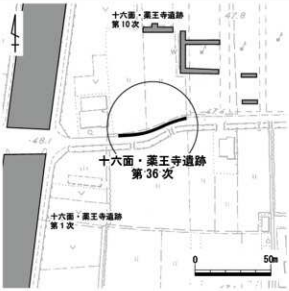
写真15-2　ＳＤ-3112出土状況（南東から）

ＳＤ－3052　第３トレンチ南部で検出した東西方向の溝である。幅 1.4 m、深さ 0.2 mである。遺物が出土しなかったが、埋土がＳＤ－3051と共通することから、中世の遺構と考えられる。

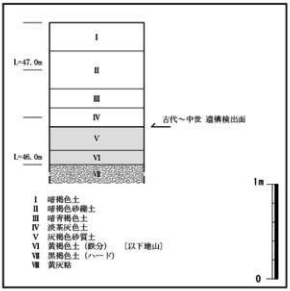
ＳＤ－3101　ＳＸ－3052を掘削後、第３トレンチ北部で検出した北東－南西方向の溝で幅 0.7 m、深さ 0.5 mである。弥生土器小片が出土したが、埋土が灰色粘土であり、前述した古墳時代遺構より高位から掘りこまれていることから、中世の遺構と考えられる。

このほかに、特筆すべき遺物として、浮線網状文土器片（第 50 図－10）及び第２次世界大戦中に米艦載機から発射されたとみられる銃弾が遺物包含層から出土した。

15. 十六面・薬王寺遺跡　第 36 次調査



第 51 図　調査地位置図（Ｓ＝ 1/2,500）



第 52 図　土層柱状図（Ｓ＝ 1/40）

調査成果のまとめ

・保津氏居館跡の南側環濠を検出。

１．調査の概要

遺跡中央部における、道路改良工事に伴う調査。擁壁が設置される部分に東西 37 ×南北 1.2 mの調査区を設定した。

２．調査の成果

古代

いずれの溝も遺物が出土せず、時期は不明だが、埋土に粗砂が堆積しており、周辺の調査成果から古代の遺構と考えられる。

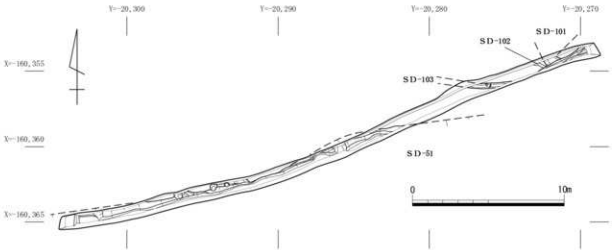
ＳＤ－101　調査区東部で検出した北北西－南南東方向の溝で、幅 0.7 m、深さ 0.1 mである。

ＳＤ－102　調査区東部で検出した北西－南東方向の小溝である。幅 0.17 mで、溝底がわずかに残存する状況であった。

ＳＤ－103　調査区東部で検出した東西方向の小溝である。幅 0.36 m、深さ 0.14 mである。

中世

ＳＤ－51　調査区のほぼ全体で検出した東北東－西南西方向の大溝である。深さ 0.65 mで幅は不明である。その位置から、保津氏居館跡の南側環濠と考えられる。出土土器から、12 世紀の溝と考えられる。



第 53 図　調査区平面図（S＝1/250）

写真 16-1　中世完掘全景（東から）

写真 16-2　ＳＤ-101 完掘状況（南から）

16. 羽子田遺跡　第 40 次調査

第 54 図　調査地位置図（S＝1/2,500）

調査成果のまとめ

- 弥生時代後期頃の落ち込みを確認したが、遺物は僅少で集落城からやや外れた地点。
- 調査地は中世以降耕地となっていた。

1．調査の概要

遺跡東端における携帯電話無線基地局の建設に伴う調査。北西側隣接地での宅地開発に伴う第 12 次調査では古墳時代前期の遺構等を確認しているが、北側隣接地の現天理警察署田原本警察庁舎建築に伴う試掘調査では河跡を確認した程度で顕著な遺構はみられなかった。このことから、本調査地は弥生時代後期～古墳時代前期の集落城の東端となることが予想された。

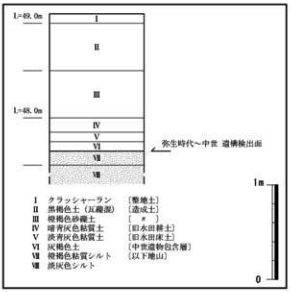
2．調査の成果

弥生時代

落ち込みⅠ　調査区南西部で検出した。北北西－南南東方向の東肩を確認したが、調査区外に拡がるため規模は不明。深さ0.05ｍを測る。弥生時代後期の土器片が少量出土したが、詳細な時期は明らかでない。

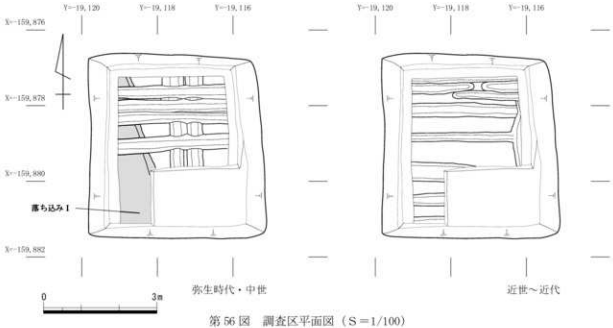
中世

小溝群　東西方向の小溝４条、南北方向の小溝２条を検出した。幅0.4ｍ前後、深さ0.15ｍ前後を測る。堆積土から、中世頃の遺構と考えられる。



第55図　土層柱状図（S＝1/40）

写真17　完掘全景（北から）



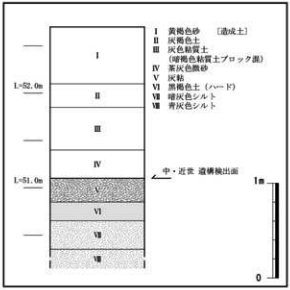
第56図　調査区平面図（S＝1/100）

近世

小溝群　東西方向の小溝７条、南北方向の小溝１条を検出した。幅0.4ｍ前後、深さ0.05ｍ前後を測る。近世頃の耕作に伴う遺構とみられる。

17．多遺跡　第27次調査

第57図　調査地位置図（S＝1/2,500）



第58図　第２トレンチ土層柱状図（S＝1/40）

調査成果のまとめ

・弥生時代中期の溝を検出。

１．調査の概要

遺跡中央部における、下水道工事に伴う調査。多神社東側の里道上の人孔部分に第１トレンチ（２×２ｍ）、多神社境内に第２トレンチ（南北1.5×東西２ｍ）を設定した。

２．調査の成果

弥生時代

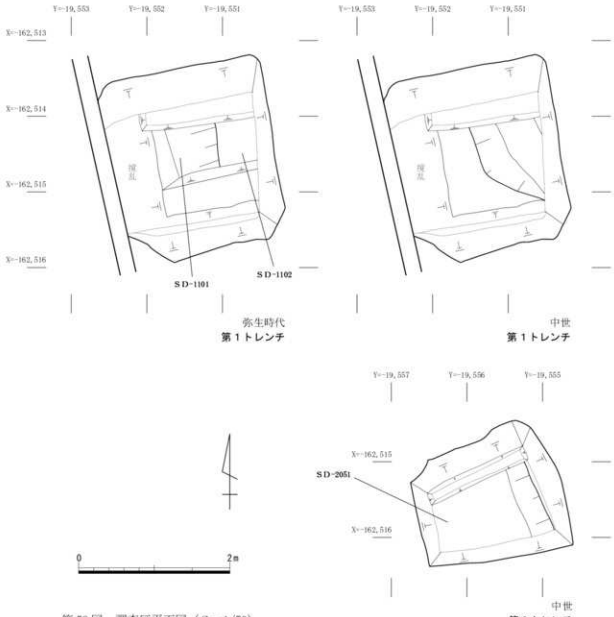
ＳＤ-1101　調査区の西半で検出した北北西－南南東方向の大溝である。第１トレンチの中央部で東肩を検出した。西肩が撹乱により破壊を受けているため幅は不明だが、深さ0.6ｍと考えられる。第１層から庄内式土器が２片出土した。全体的に弥生時代前期土器が混在するも、大和第Ⅲ様式の土器が中心に出土した。遺構の時期としては弥生時代中期である。

ＳＤ-1102　第１トレンチの調査区全体で検出した溝で、東肩は調査区外、西肩はＳＤ-1101に切られる。溝の幅は不明、深さは0.6ｍである。断面形態は底が平らな皿状の溝と想定できる。出土土器が無かったため時期は不明だが、切り合い関係からＳＤ-1101より古い溝と考えられる。

中・近世

ＳＤ-2051　第２トレンチのほぼ全体が、北北西－南南東方向の中世大溝内であった。西肩は調査区外であり、幅は不明。深さは、掘削した範囲では0.4ｍを測る。瓦質土器や羽釜が出土しており、時期は中・近世である。

他に、第１トレンチで溝１条を検出した。

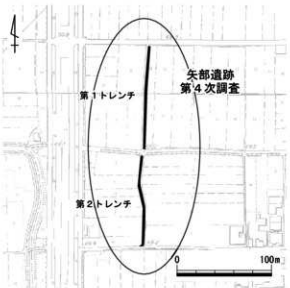


第 59 図　調査区平面図（S＝1/50）

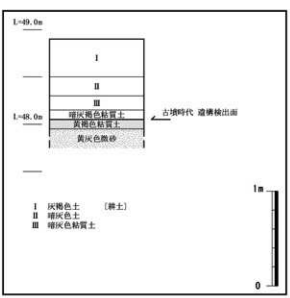
写真 18-1　第 1 トレンチ全景（南から）

写真 18-2　第 2 トレンチ全景（南から）

18．矢部遺跡　第４次調査



第 60 図　調査地位置図（S＝1/2,500）



第 61 図　第１トレンチ土層柱状図（S＝1/40）

調査成果のまとめ

- 古墳時代の溝５条、落ち込み２基、土坑７基、小穴 12 基を検出。
- 第１次調査で検出された墓域が本調査地まで及ばないことを確認。

１．調査の概要

遺跡中央部における道路改良工事に伴う調査。擁壁が設置される部分に第１トレンチ（南北 110 × 東西 1.6 m）、第２トレンチ（南北 98 ×東西 2.4 m）を設定した。

２．調査の成果

古墳時代

出土遺物が僅少であり、時期比定が困難であったが、既往の調査の遺構検出面との対応関係から、古墳時代頃の遺構と考えられる。

ＳＤ -1101　第１トレンチ北端で検出した東西方向の溝で、幅 0.6 m、深さ 0.2 mである。

ＳＤ -1102　第１トレンチ北部で検出した東西方向の小溝で、幅 0.4 m、深さ 0.1 mである。

ＳＤ -1104　第１トレンチの南部で検出した東北東－西南西方向の大溝である。幅 2.0 m、深さ 0.2 mである。出土した土器から、布留式期の溝と考えられる。

ＳＤ -1105　第１トレンチの南部で検出した大溝である。南肩をＳＤ -1104 に切られており、幅 5.0 m以上、深さは 0.1 m以上である。遺構は未掘であり、壁面での断面を一部確認するにとどまった。出土土器が小片だったため詳細な時期は不明である。

ＳＤ -2101　第２トレンチ南部で検出した西北西－東南東方向の溝である。布留式期後半ごろの遺構とみられる。

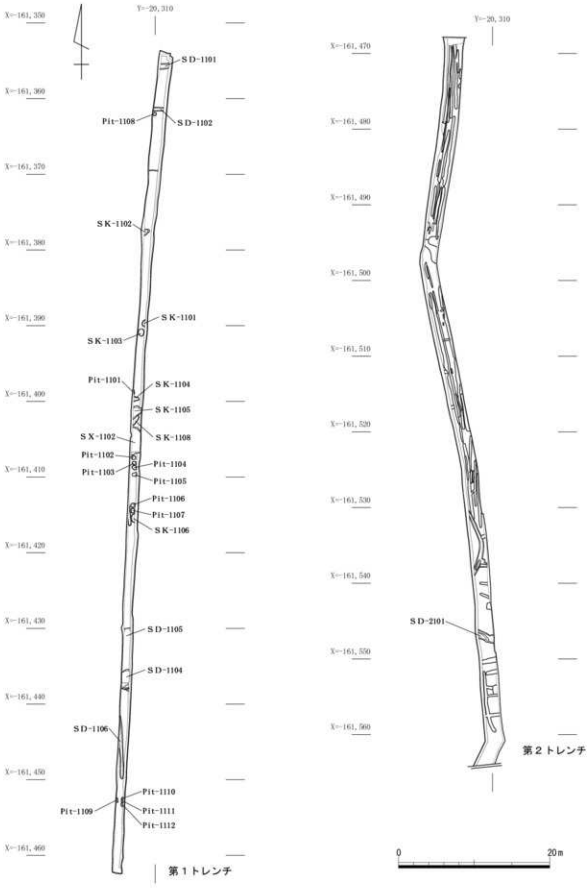
Pit-1101　第１トレンチ中央で検出した方形の小穴で、一辺 0.56 m、深さ 0.05 mである。

Pit-1108　第１トレンチ北部で検出した方形の小穴で、一辺 0.4 m、深さ 0.1 mである。

ＳＫ -1101　第１トレンチ中央で検出した円形土坑で、径 0.9 m、深さ 0.3 mである。

ＳＫ -1102　第１トレンチ北部で検出した円形土坑で、径 0.8 m、深さ 0.3 mである。

ＳＫ -1103　第１トレンチ中央で検出した楕円形土坑で、長軸 1.0 m、短軸 0.7 mである。



第62図　調査地平面図（S＝1/500）

ＳＫ－1104　第１トレンチ中央で検出した不整形土坑で、西半は調査区外である。長軸0.7ｍ以上、短軸 0.7 ｍ、深さ 0.15 ｍである。円筒埴輪片が出土した。

ＳＫ－1105　第１トレンチ中央部で検出した不整形土坑である。長軸 1.1 ｍ以上、短軸 1.2 ｍ、深さ 0.1 ｍである。土器小片が出土したが、時期比定はできなかった。

ＳＫ－1108　第１トレンチ中央部で検出した不整形土坑で、ＳＫ－1105 に切られる。長軸 1.1 ｍ以上、短軸 0.5 ｍ以上、深さ 0.1 ｍである。

ＳＸ－1102　第１トレンチ中央部で検出した落ち込み状遺構で、幅 3.6 ｍ、深さ 0.2 ｍである。

写真 19-1　第１トレンチ完掘全景（北から）

写真 19-2　第２トレンチ完掘全景（北から）

19．佐味遺跡　第３次調査

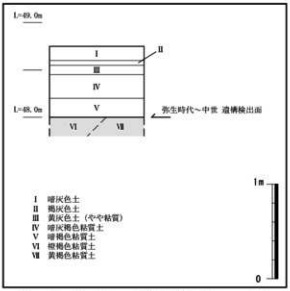
第 63 図　調査地位置図（Ｓ＝1/2,500）

調査成果のまとめ

- 第１トレンチで弥生時代の土坑１基、小穴５基、大溝１条、小溝２条を検出。後述の第４次調査と比較すると遺構・遺物の密度は希薄で、集落外と考えられる。
- 第２～５トレンチでは、全体的に落ち込み状の堆積を確認した。

１．調査の概要

遺跡南東部における、農道整備工事に伴う調査。擁壁が設置される部分に第１トレンチ（南北 27.3 × 東西 1.2 ｍ）、第２トレンチ（南北 8.3 × 東西 1.3 ｍ）、第３トレンチ（南北 95.3 × 東西 1.2 ｍ）、第４トレンチ（南北 2.0 × 東西 1.0 ｍ）、第５トレンチ（南北 2.0 × 東西 1.0 ｍ）の５つの調査区を設定した。このうち、第２～５トレンチでは、古代以前の遺構がほぼみられなかった。



第64図　第2トレンチ土層柱状図（S＝1/40）

2．調査の成果

弥生時代

ＳＤ－1102　第１トレンチ北部で検出した北北東－南南西方向の小溝で、幅0.4ｍ、深さ0.1ｍである。ＳＤ－1103を切る。

ＳＤ－1103　第１トレンチ北部で検出した北東－南西方向の大溝である。北肩は調査区外のため、詳細な規模は不明だが、幅５ｍ以上、深さ0.3ｍを掘削した。遺構の中央部分は一段下がっていた。上層から高坏（第68図－１）が出土しており、弥生時代中期後葉の溝と考えられる。

ＳＤ－1104　第１トレンチ中央で検出した幅0.27ｍ、深さ0.1ｍの北西－南東方向の小溝である。遺物が出土していないため、詳細な時期は不明だが、埋土が暗褐色粘質土だったことから、弥生時代の遺構と考えられる。

ＳＫ－1101　第１トレンチ中央で検出した長軸0.98ｍ以上、短軸0.68ｍ、深さ0.2ｍの方形土坑である。遺物が出土していないため、詳細な時期は不明だが、埋土が暗褐色粘質土だったことから、弥生時代の遺構と考えられる。

Pit-1101・1102　第１トレンチ北部、ＳＤ－1103の南肩で検出した楕円形の小穴である。Pit-1101の東端は調査区外だが、両者とも長軸0.4ｍ、短軸0.3ｍ、深さ0.1ｍと推定できる。これらの小穴は、出土土器が小片のため時期は不明である。

Pit-1103　第１トレンチ中央で検出した長軸0.4ｍ以上、短軸0.28ｍ、深さ0.1ｍの楕円形の小穴である。形状がPit-1101・1102と類似することから、同時期に掘削された可能性が想定できる。

Pit-1104　第１トレンチ北部で、ＳＤ－1103を切って掘削された直径0.18ｍ、深さ0.45ｍの小穴である。柱は残存していなかった。出土土器が小片のため時期は不明である。

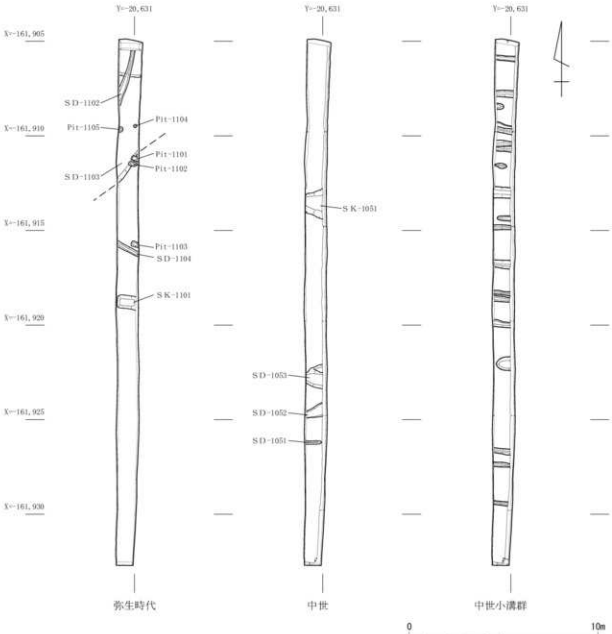
Pit-1105　第１トレンチ北部で、ＳＤ－1103を切って掘削された直径0.26ｍ、深さ0.2ｍの小穴である。遺物が出土しなかったため時期は不明だが、埋土が暗褐色粘質土であり、周囲の状況からPit-1104と同時期と考えられる。

古墳時代

第２～５トレンチ全体で落ち込み状の堆積を確認した。これらの落ち込みが一連のものかは不明である。なお、第３トレンチ南部での排水溝掘削時にTK-10の須恵器坏身（第68図－２）が出土しており、古墳時代後期にはほぼ埋没していたと考えられる。

中世

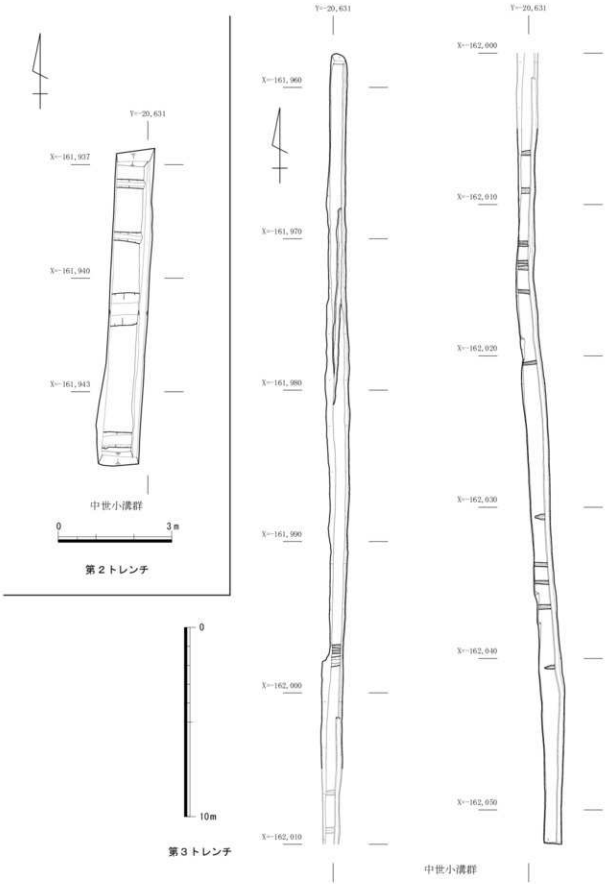
ＳＫ－1051　調査区中央で検出した南北1.6ｍ、東西1.2ｍ以上、深さ0.97ｍの不整形な井戸である。井戸の東半は調査区外のため、正確な規模・形状は不明。井戸枠は残存していなかったが、井戸枠の木材が腐食した痕跡があったことから、井戸と推定した。中層から土師器皿（第68図－３）



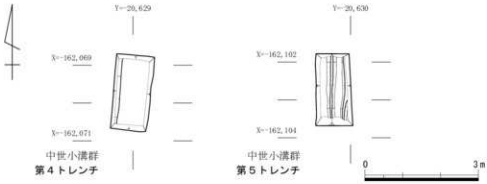
第65図　第1トレンチ調査区平面図（S＝1/200）

が出土している。

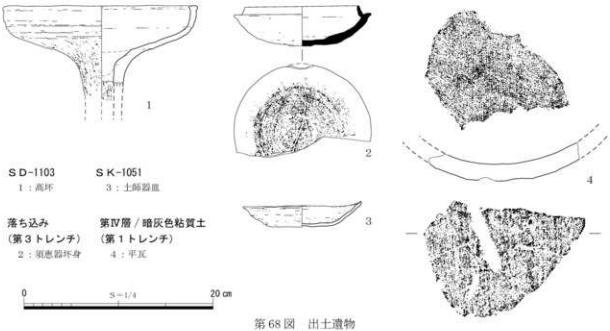
このほか、溝3条（SD-1051～1053）、小溝群を検出した。



第66図　第２・３トレンチ遺構平面図（左上：S＝1/100、右：S＝1/200）



第 67 図　第４・５トレンチ調査区平面図（S＝1/100）

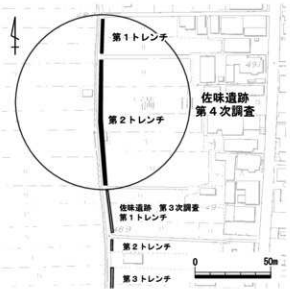


第 68 図　出土遺物

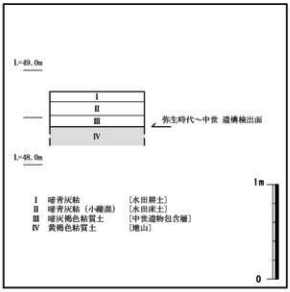
写真 20-1　第１トレンチ完掘全景（南から）

写真 20-2　第３トレンチ完掘全景（南から）

20. 佐味遺跡　第４次調査



第 69 図　調査地位置図（S＝1/2,500）



第 70 図　第２トレンチ土層柱状図（S＝1/40）

調査成果のまとめ

- 第２トレンチ全体で弥生時代中期の遺構を多数検出。南端付近の溝（ＳＤ-2101）からは完形品を含む当該時期の土器がまとまって出土。この溝以南は遺構が希薄で、集落南端を区画する溝の可能性が高い。
- 第１トレンチ～第２トレンチ北半で、古代の遺構を多数検出。両トレンチにまたがる溝状遺構（ＳＤ-1108）は、幅広で池の可能性がある。
- 佐味遺跡でこれまで詳細が不明であった弥生時代の集落を確認。

１．調査の概要

遺跡範囲東側における農道改良工事に伴う調査。改良部分にトレンチ２つを設定し、北から第１トレンチ・第２トレンチとした。第１トレンチは南北 23 ×幅２m、第２トレンチは南北 82 ×幅２mである。

２．調査の成果

弥生時代を中心に非常に多数の遺構を検出し、すべてを掘削することができなかった。ここでは主要な遺構について記述する。

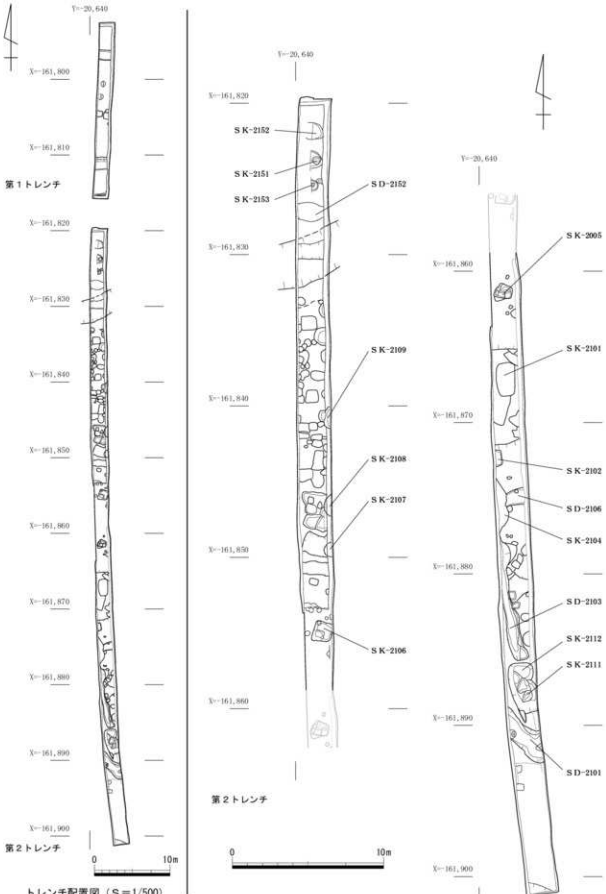
弥生時代中期

ＳＤ-2101　第２トレンチ南端付近で検出した北西－南東方向の溝である。幅 1.4 m、深さ 0.5 mを測る。最上層から水差形土器（第 73 図－３）・高坏（４・５）・台付鉢（６～８）・石庖丁（第 74 図－10・13）などが出土した。本遺構から南側は遺構がほぼ見られず、遺物も僅少であることから、弥生時代集落の南端を区画する溝の可能性がある。時期は大和第Ⅲ-4 様式である。

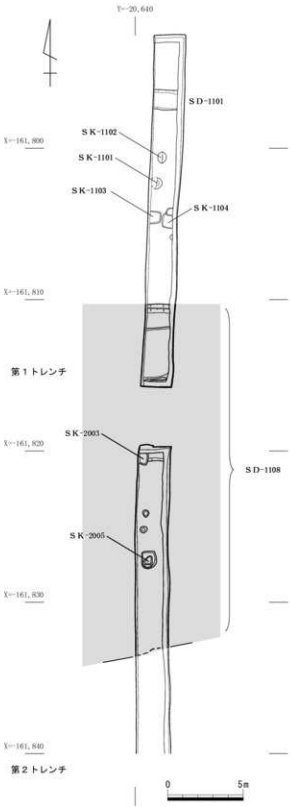
ＳＤ-2103　第２トレンチ南半で検出した北北西－南南東方向の溝である。幅 0.9 m、深さ 0.4 mを測る。広口壺（第 73 図－１）が出土した。時期は大和第Ⅱ-3 様式である。

ＳＫ-2108　第２トレンチ中央で検出した土坑である。東半はトレンチ外に拡がる。径 0.8 m、深さ 1.0 mを測る。生駒西麓産とみられる甕片が出土したほか、下層からは胴部下半が残る甕が出土した。時期は大和第Ⅲ-2 様式である。

ＳＫ-2111・2112　第２トレンチ南端付近、ＳＤ-2101 の北隣で検出した土坑である。当初は単体の遺構としていたが、掘削中に近接した２つの土坑であることが判明した。ＳＫ-2111 は南端に



第 71 図　調査区平面図（弥生～古墳時代）（S＝1/250）

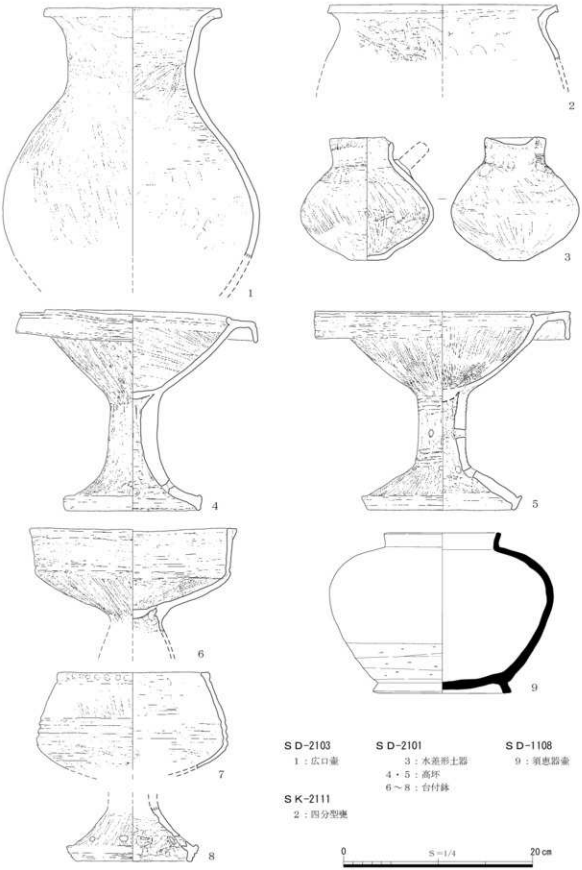


第72図　調査区平面図（飛鳥～奈良時代）（S＝1/250）

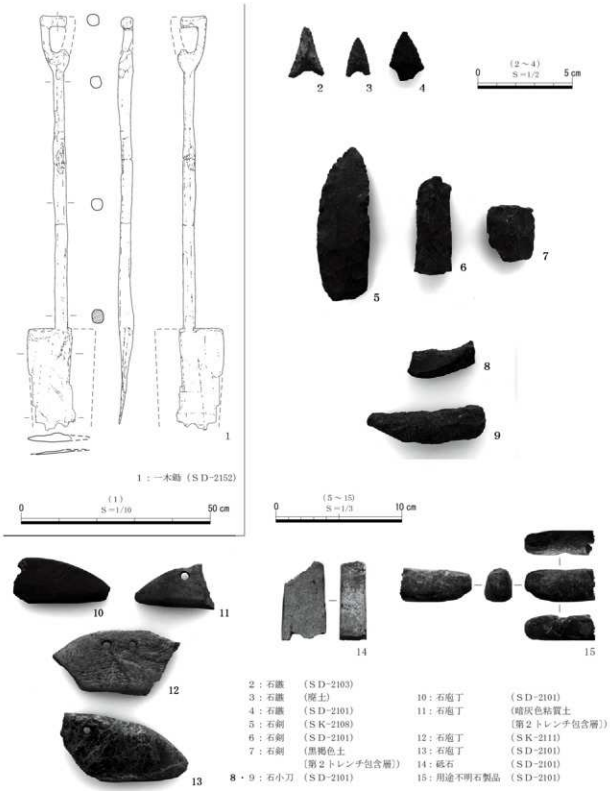
写真21-1　SK-1101・1102完掘状況（北西から）

写真21-2　SD-1108完掘状況（北西から）

写真21-3　SD-1108B甕出土状況（西から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
SD-2103
1：広口壺
SD-2101
3：水差形土器
4・5：高坏
6～8：台付鉢
SD-1108
9：須恵器壺
SK-2111
2：四分型甕
0
S=1/4
20cm

第73図　出土土器



2：石鏃　（SD-2103）
3：石鏃　（廃土）
4：石鏃　（SD-2101）
5：石剣　（SK-2108）
6：石剣　（SD-2101）
7：石剣　（黒褐色土［第2トレンチ包含層］）
8・9：石小刀　（SD-2101）
10：石庖丁　（SD-2101）
11：石庖丁　（暗灰色粘質土［第2トレンチ包含層］）
12：石庖丁　（SK-2111）
13：石庖丁　（SD-2101）
14：砥石　（SD-2101）
15：用途不明石製品　（SD-2101）

第74図　出土木製品・石器

位置し、径約2.1m、深さ0.8m、SK-2112は北端に位置し、径約1.6m、深さ0.7mを測る。SK-2111からは四分型甕（第73図-2）を含む多数の土器が出土した。時期は大和第Ⅲ-2様式である。

古墳時代

ＳＤ－1108B　第１トレンチ南端で検出した溝である。南端はトレンチ外に拡がっており、さらに後にＳＤ－1108が掘削されたため、その規模は明らかでない。下層からほぼ完形の甕が出土した。時期は古墳時代後期である。

ＳＤ－2152　第２トレンチ北端付近で検出した東西方向の溝である。幅1.6ｍ、深さ0.5ｍを測る。溝底から須恵器高坏、一木鋤（第74図－１）が出土した。時期は古墳時代後期である。

ＳＫ－2151～2153　第２トレンチ北端で検出した土坑である。東半のみ掘削した。径1.2～0.9ｍ、深さ0.3～0.4ｍを測る。1.8ｍ間隔で南北に直線的に並ぶため、柱穴の可能性がある。時期は古墳時代初頭～中期である。

奈良時代

ＳＤ－1108　第１トレンチ南端から第２トレンチ北端にかけて検出した東西方向の大溝である。幅約23ｍ、深さ0.6ｍ以上と規模が大きいため、溝ではなく池状の遺構の可能性がある。上層から半完形の須恵器壷（第73図－９）が出土した。時期は奈良時代とみられる。

中世

小溝群　調査区全体で耕作に伴うとみられる小溝を検出した。

写真22-1　第１トレンチ完掘全景（南から）

写真22-2　第２トレンチ北半完掘全景（北から）

写真22-3　ＳＤ－2101出土状況（北から）

写真22-4　ＳＤ－2152出土状況（北から）

調査成果のまとめ

・弥生時代の溝を１条検出。

１．調査の概要

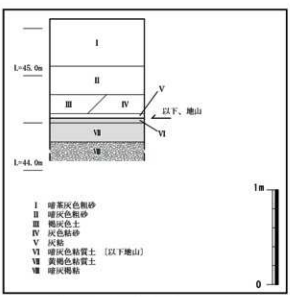
遺跡北部における、農道整備に伴う調査。擁壁が設置される部分に東西 46.5×南北 1.6 mのトレンチを設定した。

２．調査の成果

弥生時代

ＳＤ－101　調査区の東端で北東－南西方向の西肩を検出した河跡である。東肩は調査区外だが、幅 1.5 m以上、深さ 0.5 mを測る。調査区北東隅部分に杭が１本打設されていたが、性格は不明で

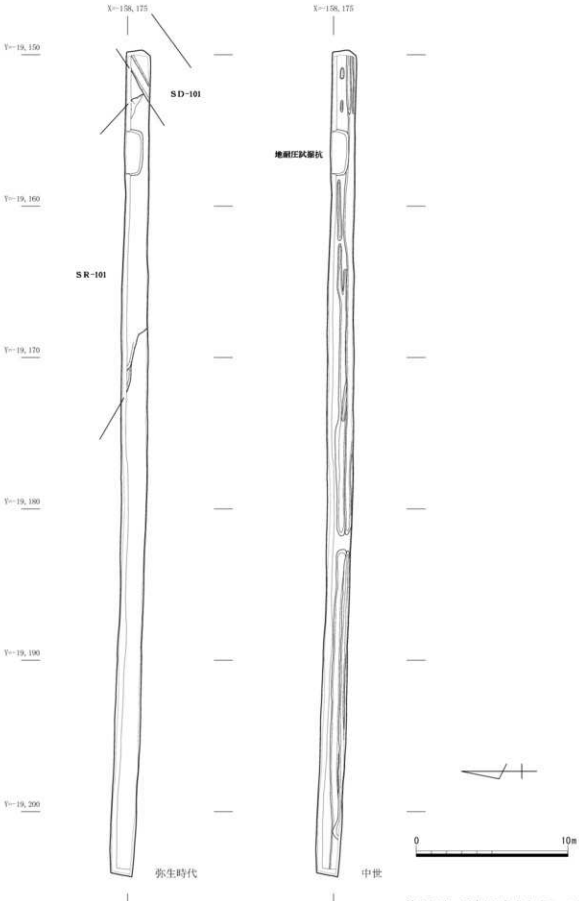
第 75 図　調査地位置図（Ｓ＝1/2,500）



第 76 図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

写真 23-1　完掘全景（東から）

写真 23-2　ＳＤ－101 完掘状況（南西から）



第 77 図　調査区平面図（S＝1/250）

ある。出土した土器片から、弥生時代の遺構と考えられる。

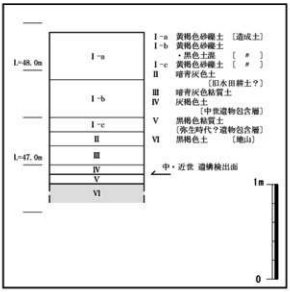
ＳＲ－101　調査区東部で北西－南東方向の西肩を検出した河跡である。東肩は検出できなかった。幅1.4ｍ以上、深さは0.1ｍである。古墳時代頃の遺構と考えられる。

中・近世

主に東西方向の小溝群を検出した。

22. 薬王寺推定地　第２次調査

第78図　調査地位置図（Ｓ＝1/2,500）



第79図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

調査成果のまとめ

- 弥生時代の河跡は、十六面・薬王寺遺跡　第６次調査のものと一連であることが判明。
- 古墳時代後期の溝（ＳＤ－101）は、方墳の周濠の可能性がある。本遺跡に重複する十六面・薬王寺遺跡では、第39・41次調査で古墳時代中・後期の集落遺構が比較的まとまって検出されており、これら集落に対する墓域となる可能性がある。
- 古代寺院「薬王寺」との関連を示す遺構・遺物は見つからなかった。
- 中世は、耕作関連の小溝群を検出。

１．調査の概要

遺跡南東端における宅地分譲に伴う調査。南北方向に幅１ｍ前後の調査区を設定。

２．調査の成果

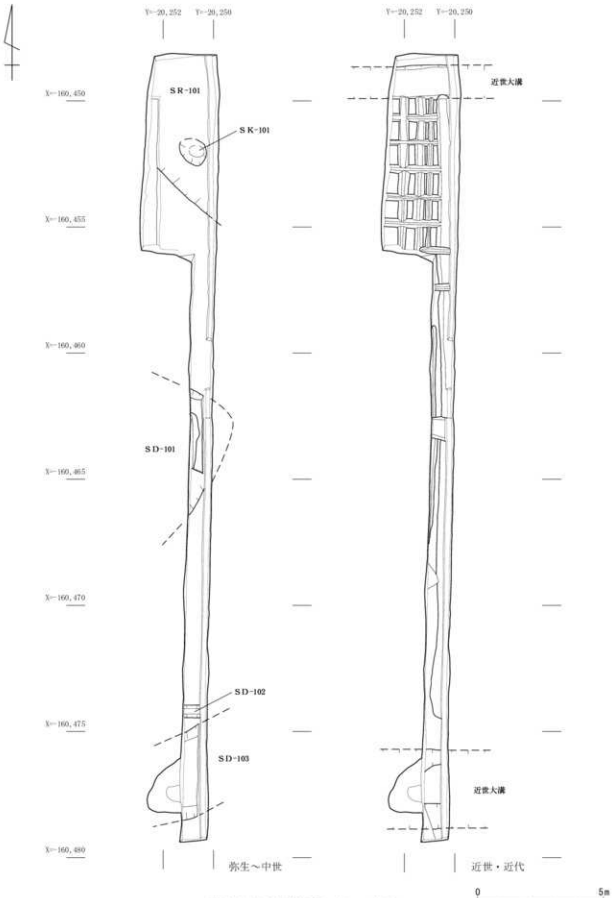
弥生時代

ＳＲ－101　調査区北端で検出した河跡である。北西－南東方向の西肩を確認したが、調査区外に拡がるため幅は明らかでない。また、平面検出にとどまるため深さも不明。顕著な遺物が出土していないが、十六面・薬王寺遺跡第６次調査の河跡から弥生時代後期の遺構とみられる。

ＳＤ－103　調査区南端で検出した幅3.0ｍの大溝である。調査区が狭小のため完掘していない。深さは不明。遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、堆積土などから弥生時代前後の遺構と考えられる。

古墳時代

ＳＤ－101　調査区中央で検出した大溝である。北肩は西北西－東南東方向、南肩は北北東－南



第80図　調査区平面図（S＝1/150）

南西方向となっており、「L」字形に屈曲する溝のコーナー付近と考えられる。溝幅不明、深さ0.2m前後を測る。須恵器片等が出土しており、方墳の可能性がある。

古代

ＳＫ－101　調査区北側で検出した平面円形の土坑である。直径1.0m、深さ0.25m前後を測る。平安時代頃とみられる土師器片が出土した。

中世

小溝群　調査区全体で南北方向３条、東西方向７条の小溝群を検出した。基本的には中世の遺構とみられる。

近世

調査区北端と南端で近世～近代の東西方向大溝をそれぞれ確認したが、調査区外に拡がること、掘削をおこなっていないことで詳細は不明である。

写真24-1　完掘全景（北から）

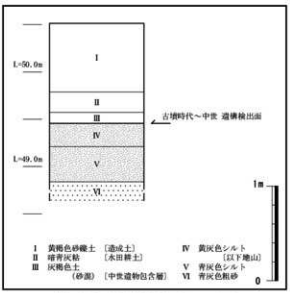
写真24-2　ＳＫ－101半裁状況（南から）

23. 小阪細長遺跡　第３次調査

第81図　調査地位置図（S＝1/2,500）

調査成果のまとめ

- 円墳１基（小阪細長６号墳）を新たに発見。小阪細長古墳群がこれまでより南側にも展開していることが判明。
- 古墳時代初頭頃の伊勢湾岸地方からの搬入土器が出土。
- 平安時代および鎌倉時代の土坑から、完形の瓦器埦や土師皿がまとまって出土。何らかの祭祀がおこなわれていた可能性がある。
- 遺構を確認したことにより、遺跡の範囲が南側に拡がることが判明。



第 82 図　土層柱状図（S＝1/40）

1．調査の概要

遺跡範囲南側における、宅地造成に伴う調査。道路部分に南北 44 ×幅 4 mの調査区を設定した。

2．調査の成果

古墳時代初頭

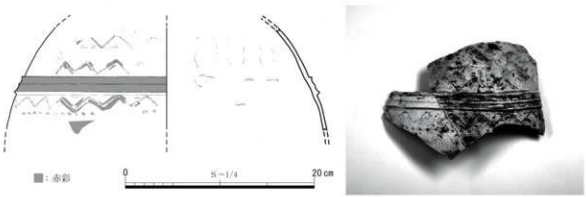
ＳＤ -102　調査区中央で東肩を検出した。調査区外に拡がるため正確な形状・規模は不明で、土坑の可能性もある。検出部で長 4.5 m、幅 1.5 m、深さ 0.3 mを測る。上層から伊勢湾岸地方のパレス・スタイル土器の壺胴部片（第 83 図）が出土した。時期は古墳時代初頭とみられる。

古墳時代後期

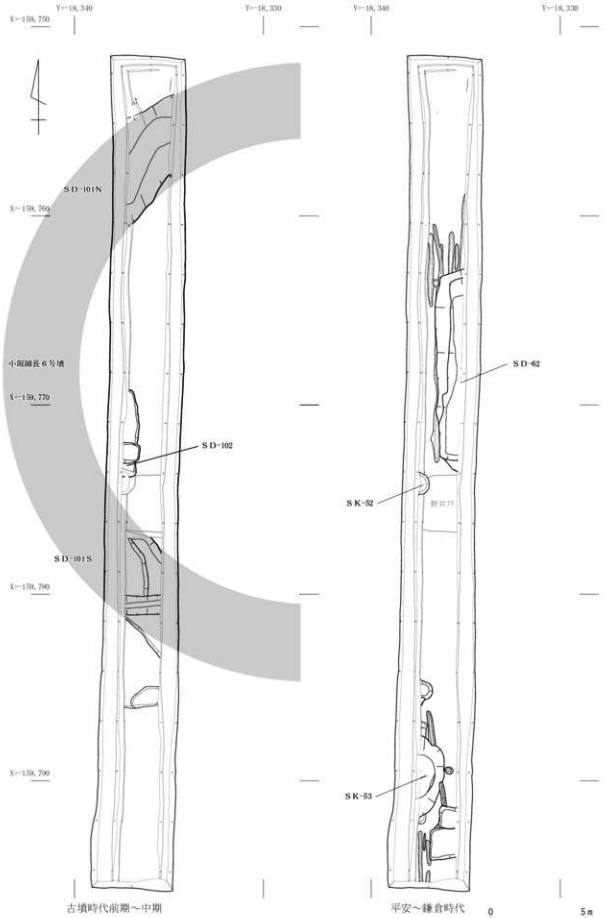
小阪細長６号墳　調査区北端および中央南寄りで古墳周濠とみられる大溝を検出した。北側（ＳＤ -101 Ｎ）は北東－南西方向の溝で、幅 3.6 m、深さ 0.25 ～ 0.3 m、南側（ＳＤ -101 Ｓ）は北西－南東方向の溝で、幅 4 m、深さ 0.2 mを測る。周濠から推定した墳丘は径 25 ～ 30 mで、やや大きめの円墳である。後世の削平を受けたとみられ、周濠は浅く遺物も少ないが、円筒埴輪・朝顔形埴輪片や須恵器が出土した。時期は古墳時代後期で、周辺に展開している小阪細長古墳群と同時期とみられ、一連の古墳として「小阪細長６号墳」として遺跡地図へ登録する予定である。

平安時代

ＳＫ -52　調査区中央で検出した径 1.2 m、深さ 0.5 mの土坑である。西半は調査区外に拡がる。中層から完形品を含む瓦器椀 10 点、瓦器小皿 1 点、土師器皿 7 点などが一括して出土した。祭祀に伴う遺物の可能性がある。時期は平安時代である。



第 83 図　ＳＤ-102 出土搬入土器



第84図　調査区平面図（S＝1/200）

鎌倉時代

ＳＫ -53　調査区南側で検出した径 4.4 m、深さ 0.8 mの土坑である。西半は調査区外に拡がる。下層から完形品を含む瓦器埦 33 点、土師器皿 24 点などが出土した。耕作地に伴う農業用の井戸で、ＳＫ -52 と同様に井戸祭祀に伴う遺物の可能性がある。時期は鎌倉時代である。

近世

ＳＤ -62　調査区中央北寄りで検出した遺構である。東半は調査区外に拡がるため正確な形状は不明で、土坑の可能性もある。検出部で長軸 10.5 m、短軸 1.5 mを測る。出土遺物は僅少である。時期は江戸時代とみられる。

写真 25-1　完掘全景（南から）

写真 25-2　小阪細長 6 号墳（北西から）

写真 25-3　ＳＫ -52 出土遺物

写真 25-4　ＳＫ -53 出土遺物

24. 薬王寺南遺跡　第２次調査（試掘調査 S-201602）

第 85 図　調査地位置図（S＝1/2,500）

調査成果のまとめ

- 弥生時代後期の土坑２基、大溝１条、溝１条、落ち込み１基を検出。
- 検出した遺構はいずれも浅く、遺物も少ないことから集落周辺部と推定される。

１．調査の概要

遺跡南東部における、宅地造成に伴う調査。平成 28 年度の試掘調査（S-201602）において、第１～６トレンチを設定し、調査した。敷地南西端の第６トレンチで弥生時代後期の小穴１基を検出した他は、敷地全体が弥生時代またはそれ以前の落ち込みで、遺構密度が低い土地であることが判明した。

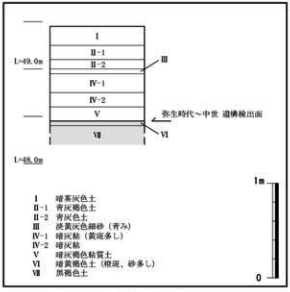
この試掘調査の成果を受け、平成 29 年度に遺構の存在が想定された敷地南西部に南北 11 ×東西４ｍの調査区を設定した。

２．調査の成果

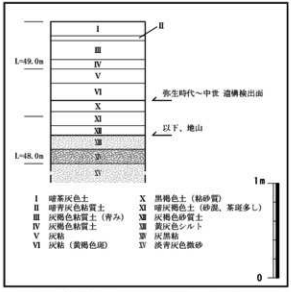
弥生時代後期

ＳＤ -101　調査区中央で西肩を検出した北北西－南南東方向の大溝である。東肩は調査区外のため、全体の規模は不明だが、幅２ｍ以上、深さ 0.24 ｍである。ＳＫ -102 に切られ、後述するＳＸ -101 を切る。出土遺物から、弥生時代後期の遺構と考えられる。

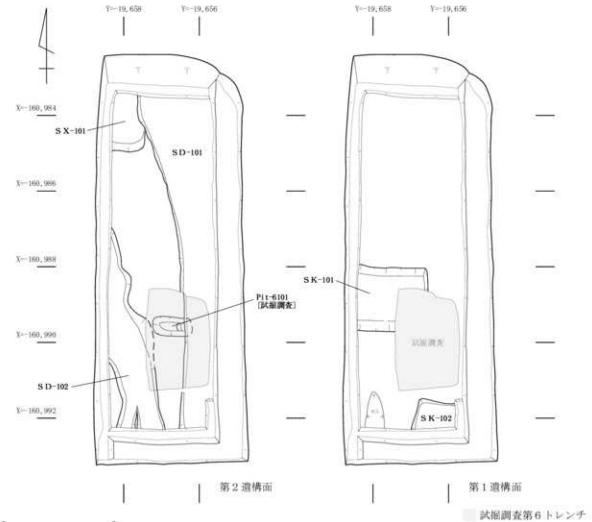
ＳＤ -102　調査区西部で検出した北北西－南南東方向の溝である。幅 0.4 ｍ、深さ 0.1 ｍを測



第 86 図　土層柱状図（S＝1/40）



第 87 図　試掘調査 第６トレンチ土層柱状図（S＝1/40）



第88図　調査区平面図（S＝1/100）

写真26-1　完掘全景（北から）

写真26-2　SX-101出土状況（南から）

る。調査区南端付近で二股に分かれている。ＳＫ-101・102に切られており、さらに走向がＳＤ-101と同一であることから、ＳＤ-101と同時期の溝と考えられる。

ＳＫ-101　調査区の中央で検出した南北1.7×東西1.8ｍ、深さ0.1ｍの方形の土坑である。出土遺物は僅少だが、試掘調査で検出されたPit-6101（弥生時代後期）に切られると考えられ、前述するＳＤ-101を切ることから、弥生時代後期以降の遺構と考えられる。

写真27　試掘調査第６トレンチ完掘全景（東から）

ＳＫ-102　調査区南西隅で検出した土坑で南北1.2ｍ、東西1.2ｍ、深さ0.1ｍを測る。土坑の北西角以外は調査区外である。ＳＫ-101と形状・規模等はほぼ同じとみられる。ＳＤ-101・102を切ることから、ＳＫ-101とほぼ同時期の遺構と考えられる。

ＳＸ-101　調査区北西隅で検出した落ち込み状遺構である。北西方向へ緩やかに傾斜しており、試掘調査第５トレンチ以北で確認した地形的な落ち込みの南端と考えられる。弥生時代後期の土器が出土した。

25. タカツキ古墳　第１次調査

第89図　調査地位置図（S＝1/2,500）

調査成果のまとめ

- 弥生時代前期の溝を検出。また、調査区東半では古墳築造前の基盤層が弥生時代前期の遺物を含む落ち込み状の堆積であることを確認。
- タカツキ古墳の墳丘の可能性がある高まりを検出したが、古墳である確証は得られなかった。
- 遺構・出土遺物共に僅少で、集落域からは外れていた様子。

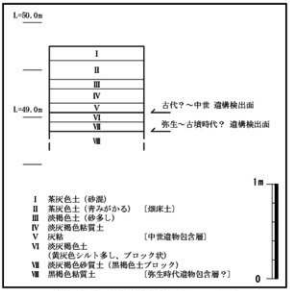
１．調査の概要

水田地帯の中に一段高い島畑が存在しており、これをタカツキ古墳の墳丘として遺跡地図に登録している。この墳丘北側の東西農道の拡幅工事に伴う調査で、東西35ｍ、幅1.7ｍの調査区を設定した。

２．調査の成果

弥生時代前期

ＳＤ-101　調査区西部で検出した北東－南西方向の溝である。断ち割りをいれたのみで、完掘



第 90 図　土層柱状図（S＝1/40）

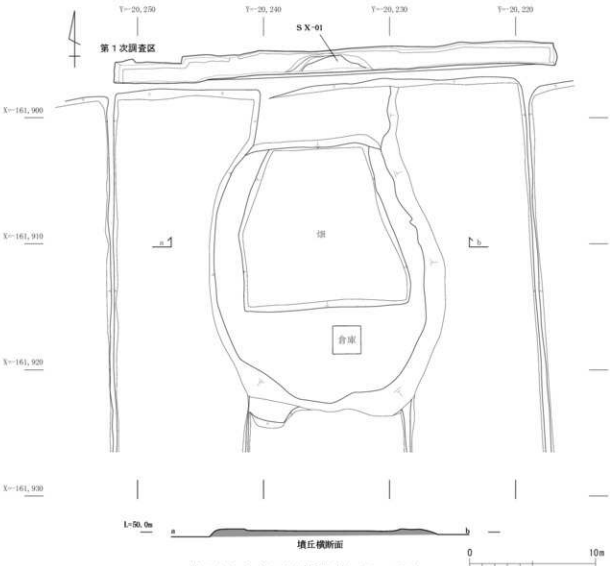
はしていないため、深さは不明。幅 1.2 m を測る。遺物は僅少だが、大和第Ⅰ様式頃の弥生土器壷片が出土している。

古墳時代？

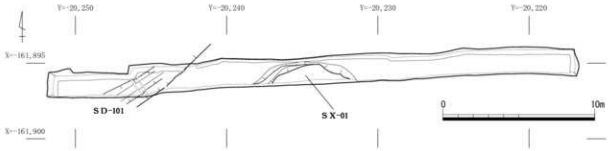
ＳＸ -01　調査区中央で高さ約 0.2 ～ 0.3 m の盛土状遺構を検出した。削平を受けた墳丘の可能性があるが、古墳時代の遺物は僅少で、埴輪も出土しなかったため、詳細な時期は不明。周濠は確認できなかった。

中世

小溝群　調査区全体で東西方向の耕作に伴う小溝群を検出した。



第 91 図　タカツキ古墳測量図（S＝1/300）

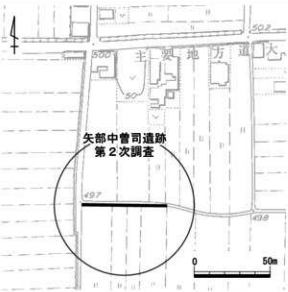


第 92 図　調査区平面図（S＝1/250）

写真 28-1　調査区全景（北西から）

写真 28-2　ＳＸ -01（北東から）

26. 矢部中曽司遺跡　第２次調査



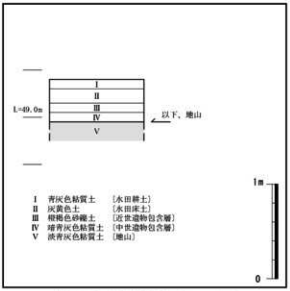
第 93 図　調査地位置図（S＝1/2,500）

調査成果のまとめ

- 弥生時代頃の溝を確認。溝の東側は河跡で、西側も６世紀頃に埋没する落ち込みが拡がり、耕地に掘削されたものか。ただし、周辺の調査成果では古墳時代頃の落ち込みが拡がる地域であり、弥生時代の状況は確認できない。
- 古墳時代の落ち込み状の遺構は、須恵器高坏片など比較的大きな破片が含まれる。古墳が分布する地区であることから、埋没古墳が周辺に存在する可能性がある。

１．調査の概要

遺跡東端付近における農道改良工事に伴う調査。遺跡東端付近での工事であり、遺構面まで掘削が及ばない設計であったため、工事掘削床となる第Ⅳ層上面前後までを重機で掘削し、南壁に掘削した排水溝での遺構確認という実質的には工事立会となった。ただし、調査区東端では、工事掘削床でＳＲ -101 を確認した。なお、



第 94 図　土層柱状図（S＝1/40）

調査区東部の暗褐色土では大和第Ⅱ様式の比較的大きい土器片が出土した。

2．調査の成果

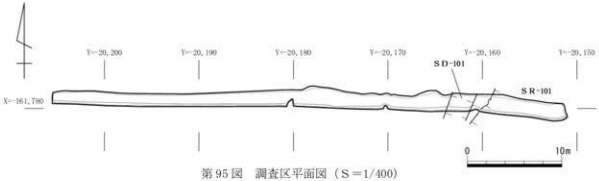
弥生時代

ＳＤ－101　調査区東側で検出した北東－南西方向の溝である。幅 2.5 ｍを測る。排水溝部分のみ掘削し、深さは確認していない。埋土は黒褐色粘質土で、弥生時代中期の土器を含む。

ＳＲ－101　調査区東端で検出した北東－南西方向の河跡である。西肩のみの検出であり、河跡の幅は不明。遺物は出土していないが、ＳＤ－101 と主軸が一致することから、弥生時代頃の遺構となる可能性がある。

古墳時代

落ち込みⅠ　ＳＤ－101 の西側から調査区西端までの調査区の大半が落ち込み状の堆積であった。６世紀頃の須恵器等を含むことから、古墳時代後期頃に埋没したと考えられる。排水溝部分のみの掘削であり、深さは 0.2 ｍまでしか確認していない。



第 95 図　調査区平面図（S＝1/400）

写真 29-1　調査区全景（西から）

写真 29-2　調査区全景（東から）

27. 筋違道　第４次調査

調査成果のまとめ

・筋違道の側溝あるいは、筋違道側溝と並行する別の溝１条を確認。

１．調査の概要

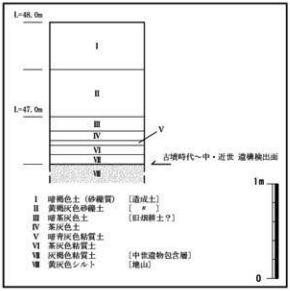
道路想定ラインの西側に隣接する位置での工場建設に伴う調査。南北３×東西４ｍの調査区を設定した。

２．調査の成果

古墳時代～古代

ＳＤ－101　　調査区東半で検出した北北西－南南東方向の大溝である。西肩のみの検出であり、幅は不明。深さ0.2ｍ前後を測る。筋違道側溝、あるいは筋違道と並行する溝とみられる。保津・

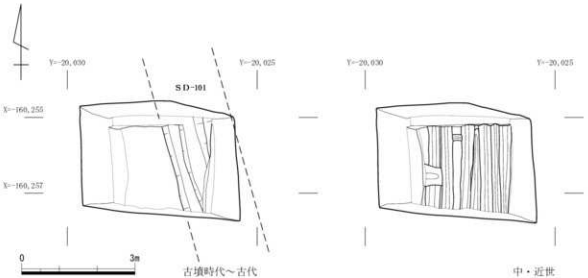
第96図　調査地位置図（Ｓ＝1/2,500）



第97図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

写真30-1　検出状況（南西から）

写真30-2　完掘全景（南東から）



第 98 図　調査区平面図（S＝1/100）

宮古遺跡第 14 次調査等で確認している溝より浅く、他地点より深く削平を受けている可能性もある。遺物は僅少だが須恵器小片などが出土しており、古墳時代後期～古代頃の遺構と考えられる。

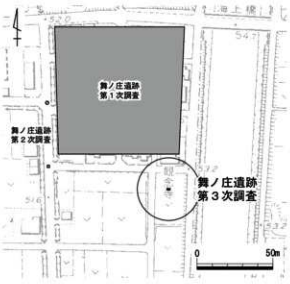
中・近世

小溝群　調査区全体で南北方向を中心とする小溝群を検出した。基本的には中世の遺構とみられる。

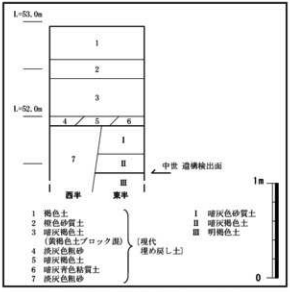
28．舞ノ庄遺跡　第３次調査

調査成果のまとめ

・昭和 57 年の水害に伴う埋め戻し土内の調査に留まった。



第 99 図　調査地位置図（S＝1/2,500）



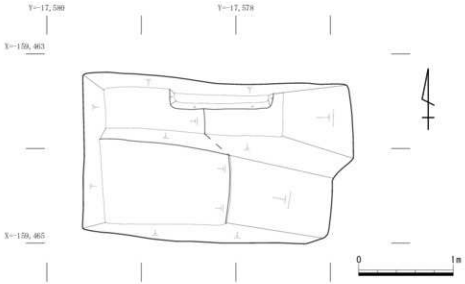
第 100 図　土層柱状図（S＝1/40）

1．調査の概要

遺跡南端部における、個人住宅の建築に伴う調査。南北 1.5 × 東西 3 m の調査区を設定した。現状は畑であった。

2．調査の成果

現地表から 1.0 m程度掘り下げた後、調査区北半を 0.5 mほど掘り下げた。調査区東半では中世遺構検出面に相当する明褐色土を検出したが、西半は堆積土にビニールが混入するなど、現代の盛土が厚く堆積していることが判明した。この撹乱は、昭和 57 年の水害に伴うものと推定される。小規模なため、これ以上の掘削はおこなわなかった。



第 101 図　調査区平面図（S＝1/40）

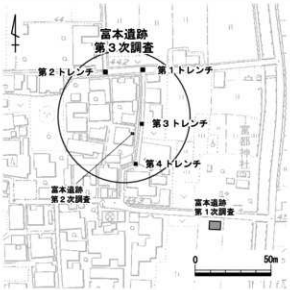
写真 31-1　完掘全景（西から）

写真 31-2　北壁断面（南から）

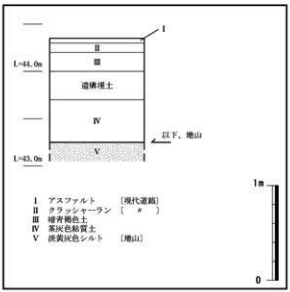
29. 富本遺跡　第３次調査

調査成果のまとめ

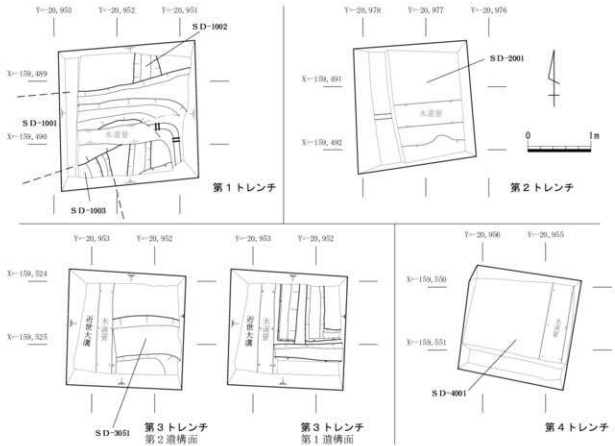
・富本集落の北側及び東側の里道部分は、近世まで環濠状の溝であったことを確認。
・第３トレンチでは、中世遺構を確認したことから、富本集落が中世に遡る可能性がある。



第 102 図　調査地位置図（S＝1/2,500）



第 103 図　第１トレンチ土層柱状図（S＝1/40）



第 104 図　調査区平面図（S＝1/60）

写真 32-1　第１トレンチ完掘全景（西から）

写真 32-2　第２トレンチ完掘全景（東から）

写真 32-3　第３トレンチ完掘全景（北から）

写真 32-4　第４トレンチ完掘全景（北から）

１．調査の概要

遺跡西端での下水道工事に伴う調査。人孔予定部分４ヶ所について第１～４トレンチを設定した。

２．調査の成果

中世

ＳＤ－3051　第３トレンチ南端で検出した東西方向の溝状遺構である。調査区が狭小であるため、土坑の可能性も考えられる。深さ 0.5 m前後、幅は南肩が調査区外に拡がるため不明。室町時代前後の遺物が出土した。

近世

ＳＤ－1001　第１トレンチ全体で検出した東西方向の小溝である。幅１m、深さ 0.4 m前後を測る。調査区東端で南方向に屈曲するとみられる。出土した遺物から、近世～近代頃の遺構と考えられる。

ＳＤ－1002　第１トレンチ中央で検出した南北方向の小溝である。幅 0.5 m、深さ 0.2 mを測る。近世頃の小溝で、耕作に関わる遺構である可能性がある。

ＳＤ－1003　第１トレンチ南西端で検出した溝状遺構である。屈曲部の一端を検出したのみであり、遺構の性格等は不明である。粗砂質の堆積であり、堆積土から近世の遺構となるとみられる。

ＳＤ－2001　第２トレンチ全体が深さ１ｍの東西方向の大溝内であった。溝の堆積は砂質土で、近世頃の遺物が出土した。

ＳＤ－4001　第４トレンチ全体が南北方向の大溝内であった。深さ１ｍ前後を測る。近世の遺物が多く出土した。

30．保津・阪手道　第３次調査

調査成果のまとめ

・現富本集落南部を東西に通る道路が近世までは大溝となっていたことを確認。
・第２トレンチで、耕作地に伴う可能性がある飛鳥時代頃の小溝を確認。
・第３トレンチで、富本集落の前身となる中世集落を囲んだとみられる大溝を確認。

１．調査の概要

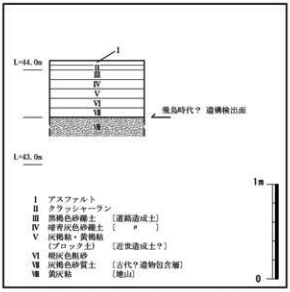
道路推定地の西端（現　富本集落南部）での下水道工事に伴う調査。富本集落南部の東西道路東側に設定した調査区を第１トレンチ、集落南部の東西道路西側に設定した調査区を第２トレンチ、集落内部の道路上に設定した調査区を第３トレンチとする。

２．調査の成果

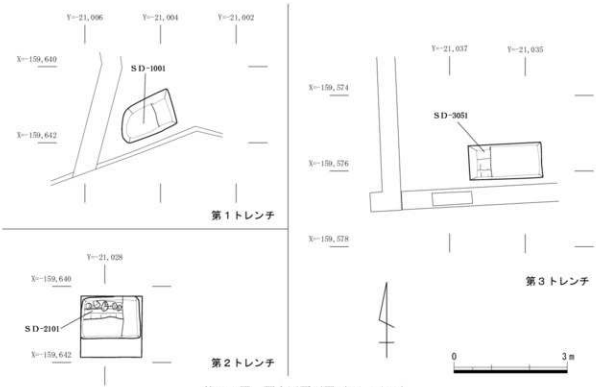
第１トレンチ

ＳＤ－1001　調査区全体が東西方向の大溝内であった。幅不明、深さ0.7ｍを測る。近世～近代の陶磁器等が出土した。

第 105 図　調査地位置図（Ｓ＝1/2,500）



第 106 図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）



第107図　調査区平面図（S＝1/100）

第２トレンチ

ＳＤ-2101　調査区北半で検出した東西方向の小溝である。推定幅0.7ｍ前後、深さ0.2ｍを測る。堆積土は粗砂質で、溝底には足跡状の窪みが残る。遺物は僅少であるが、古代頃とみられる土師器が出土した。

第３トレンチ

ＳＤ-3051　調査区全体が東西方向の中世大溝内であった。調査区外に拡がるため溝幅は不明、深さ0.7ｍを測る。室町時代頃の瓦質土器等が出土した。

写真33　第２トレンチ完掘全景（西から）

31. 保津・阪手道　第４次調査

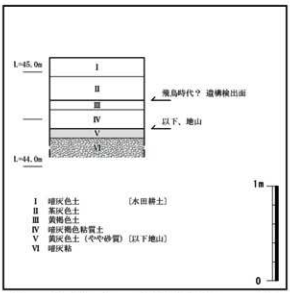
調査成果のまとめ

・飛鳥時代の河跡を検出。南に隣接する十六面・薬王寺遺跡第30次調査で検出した河跡の延長と考えられる。

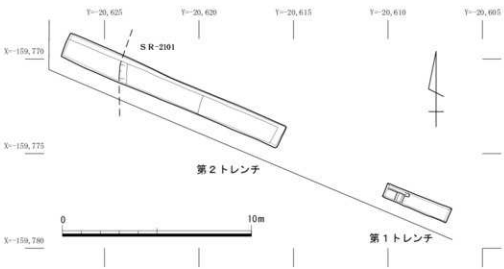
１．調査の概要

保津・阪手道北側での町道拡幅に伴う調査。擁壁が設置される東側を第１トレンチ（延長４×幅0.8ｍ）、西側を第２トレンチ（延長12.5×幅1.2ｍ）とした。

第 108 図　調査地位置図（S＝1/2, 500）



第 109 図　第２トレンチ土層柱状図（S＝1/40）



第110図　調査区平面図（S＝1/200）

写真 34-1　第２トレンチ完掘全景（西から）

写真 34-2　ＳＲ -2101 出土状況（南から）

２．調査の成果

ＳＲ－2101　調査区の西部で西肩を検出したほぼ南北方向の河跡である。本調査では東肩を検出することができず、また、第１トレンチでは小溝のベースが砂層堆積だったことから、東肩は第１トレンチよりも東側にあることが想定され、幅 19 m以上になる。深さ 0.4 mまで確認した。河跡の下層からは飛鳥時代の土師器・須恵器と、古墳時代前期の小形丸底壺が出土している。

その他、第１トレンチで中世の小溝を２条検出した。

32. 東井上遺跡　第２次調査

調査成果のまとめ

・調査地が中世の河跡となることを確認。
・近接する大日塚に関する遺構等は確認できず。

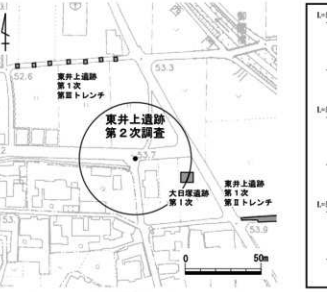
１．調査の概要

「大日塚」の北西に隣接する道路上での下水工事に伴う調査。

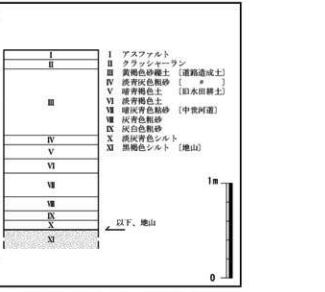
２．調査の成果

中世？

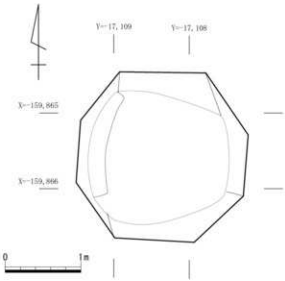
ＳＲ－51　調査区全体が河跡内の堆積であった。深さ 0.6 mまで確認したが、河跡底は確認していない。上層の砂礫層から瓦器小片等が出土したが、下層からは顕著な遺物は出土していない。第１次調査の成果により本調査地周辺が中世頃の河跡内となることが想定されており、本遺構も中世頃の河跡となる可能性が考えられる。



第 111 図　調査地位置図（Ｓ＝1/2, 500）



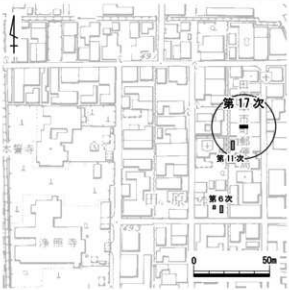
第 112 図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）



第 113 図　調査区平面図（S＝1/50）

写真 35　完掘全景（東から）

33. 寺内町遺跡　第 17 次調査



第 114 図　調査地位置図（S＝1/2,500）

調査成果のまとめ

・中世後期の南北大溝２条を検出。

1．調査の概要

遺跡中央部における、個人住宅に伴う調査。東西４×南北２ｍの調査区を設定した。

2．調査の成果

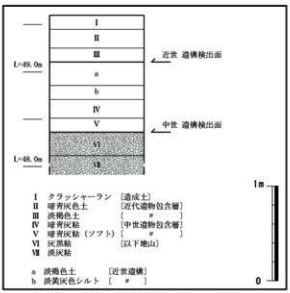
中世

ＳＤ -01　調査区中央やや東よりで東肩を検出したほぼ南北方向の大溝である。西肩は調査区外であり、全体の規模は不明だが、幅３ｍ以上、深さ 0.5 ｍと考えられる。この溝からの出土遺物は少ないが、大形土人形（第 116 図）や染付碗片が出土していること、江戸時代の絵図にこの溝に相当するものが見られないことから、ＳＤ -01 は織豊期から近世初期の遺構と考えられる。

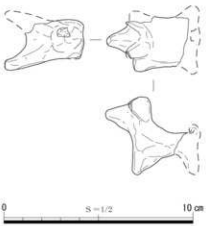
ＳＤ -02　調査区の東端で検出した溝である。ＳＤ -01 に西肩が切られており、また東肩は調査区外のため、北壁断面で確認した。幅は不明で、深さは 0.5 ｍ以上と考えられる。遺構の切り合いと出土土器から、室町時代頃の大溝と考えられる。出土遺物には古墳時代後期頃の須恵器片も含まれており、近隣に当該期の遺構が存在した可能性がある。

近世

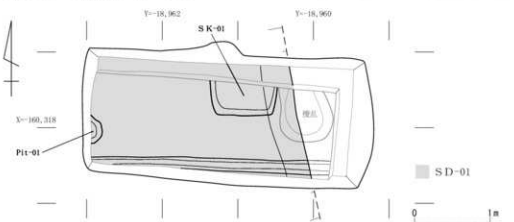
近世の遺構として、小穴１基（Pit-01）、土坑１基（ＳＫ -01）を検出した。いずれも浅く、遺



第 115 図　土層柱状図（S＝1/40）



第 116 図　ＳＤ-01 出土犬形土人形



第 117 図　調査区平面図（S＝1/50）

写真 36-1　完掘全景（東から）

写真 36-2　ＳＤ -01・02 完掘状況（南から）

物も僅少で詳細な時期は不明だが、ＳＤ -01 よりも新しい遺構であることから、近世の遺構と考えられる。

34. 羽子田遺跡　試掘調査（S-201701）

第118図　調査地位置図（S＝1/2,500）

調査成果のまとめ

- ２ヶ所の調査区では顕著な遺構・遺物が確認できなかった。
- 過去に西側隣接地の開発時に実施した工事立会（R-200011）では遺構が南西側に拡がり、北東側は遺構がみられない状況を確認しており、今回の成果で追認した。

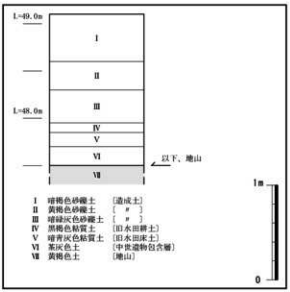
１．調査の概要

遺跡東端での宅地分譲計画に伴う調査。

付近の調査成果から遺構密度が極めて低い可能性が考えられたため、試掘調査により遺跡の拡がりを確認した。調査は２×１ｍの調査区を２ヶ所設定して実施した。

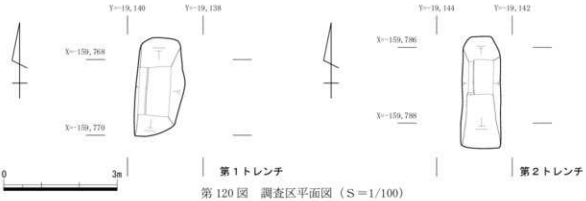
２．調査の成果

顕著な遺構は確認できなかった。



第119図　第２トレンチ土層柱状図（S＝1/40）

写真37　第２トレンチ全景（西から）

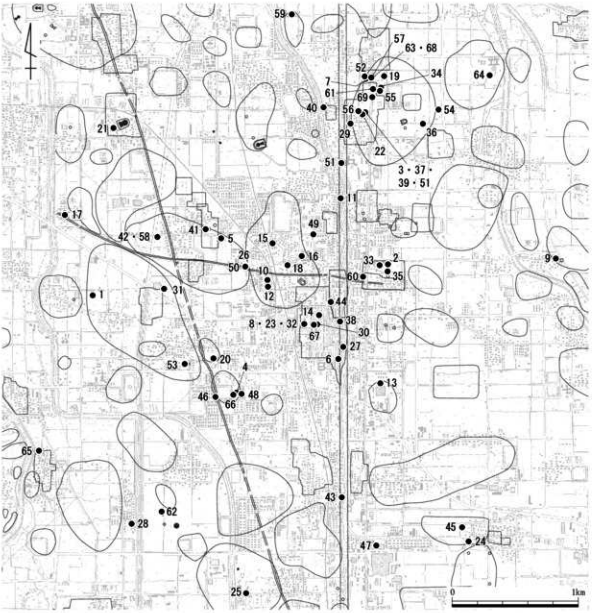


第120図　調査区平面図（S＝1/100）

（2）工事立会の概要

平成 28 年度に実施した工事立会は 42 件、平成 29 年度に実施した工事立会は 27 件である（第 11・12 表）。平成 28 年度は、史跡整備事業に伴う唐古・鍵遺跡の工事立会が 1 件、道の駅建設に伴う唐古・鍵遺跡の工事立会が 1 件、公共上下水道工事に伴う工事立会が 4 件、その他公共事業に伴う工事立会が 3 件、個人住宅建築等に関わる工事立会が 16 件、民間開発に伴う工事立会が 17 件である。平成 29 年度は、史跡整備事業に伴う唐古・鍵遺跡の工事立会が 6 件、道の駅建設に伴う唐古・鍵遺跡の工事立会が 1 件、公共上下水道工事に伴う工事立会が 1 件、その他公共事業に伴う工事立会が 4 件、個人住宅建築等に関わる工事立会が 8 件、民間開発に伴う工事立会が 7 件である。

対象となった遺跡は、唐古・鍵遺跡や寺内町遺跡が多い。



第 121 図　田原本町の遺跡と工事立会地点（S＝1/30,000）

第11表　平成28年度　工事立会一覧

	遺跡名	調査地	原因者	工事の目的	立会者	調査日	内容
1	十六面・薬王寺 (R-201601)	田原本町大字西竹田 小字一丁目16番・17番	㈱祝商	青空駐車場の造成	清水 柴田	2016．4．11	擁壁の基礎掘削および表土改良時に立会。掘削は遺物面に達しない。遺構・遺物なし。
2	阪手北 (R-201602)	田原本町大字阪手小字林垣 208番1・209番1・3	支希住宅㈱	宅地造成	柴田	2016．4．12 ・4．14	入札2ヶ所の掘削時に立会。地山に達するが、遺構密度は低い地点とみられる。遺構・遺物なし。
3	唐古・鍵 唐古池西辺拡幅埋蔵文化財 (R-201603)	田原本町大字鍵小字垣内 311番5・6	一般設換	個人住宅の建築	柴田	2016．4．18	柱状改良工事時に立会。盛土の為状況不明。遺構・遺物不明。
4	薬王寺南 (R-201604)	田原本町大字三笠小字文東 195番	細山商事㈱	宅地造成	柴田	2016．4．25	擁壁工事時に立会。掘削は水田床土内に留まり、地下遺構への影響なし。遺物なし。
5	保津・宮古 (R-201605)	田原本町大字新町小字寺東 141番1	㈱ティーズコーポレーション	宅地造成	清水	2016．5．9 ・5．10	既存建物の解体工事時に立会。GL-2.0mまで発掘による掘削。下層は河川堆積土。遺構密度は低い地点とみられる。遺構不明。
6	寺内町 (R-201606)	田原本町小字南町 36番2外	個人	擁壁の設置	清水	2016．5．16	未証工事を確認したため立会。GL-0.4～1.1mの掘削で、既存ブロック塀基礎の掘削範囲内とみられる。近代頃の造成土か、基礎コンクリートが成されたが故のため詳細不明。近世末～近代頃の陶磁器・瓦を廃土から採取。
7	唐古・鍵 (R-201607)	田原本町大字唐古 小字東平田71番1・2外	田原本町長（観光・まちづくり課）	ボーリング調査	清水 柴田	2016．5．23 ・11．9	ボーリング調査・サウンディング試験時に立会。遺構の確認不可。高構状のため、地下遺構への影響は軽微とみられる。弥生土器が少量出土。
8	寺内町 (R-201608)	田原本町小字茶町584番	宗教法人 浮田寺	墓物の切り廃し	清水	2016．6．1 ・7．12 ・9．12	基礎用の土台設置時に立会。GL-0.1mまでの掘削であり、表層または撹乱層。遺構・遺物なし。ただし、墓地の一部は、明治期とみられる建石外（4基）が残存。うち1基は工事時に動いていた。明治～大正期の陶磁器・丸瓦・青銅製仏具・鉄釘等が出土。
9	東井上 (R-201609)	田原本町大字東井上 小字ミソノ 182番・183番外 北側道路	田原本町長（下水道課）	下水道工事	清水	2016．6．15	入札3ヶ所のうち、2ヶ所の試掘時に立会。GL-1.4～1.5m程度の掘削。全体が河川堆積とみられる。遺物なし。
10	羽子田 (R-201610)	田原本町小字瓜田 403番5外	個人	個人住宅の建築	清水	2016．6．20	柱状改良工事時に立会。柱状改良の為、状況不明。遺構・遺物不明。
11	下ツ道 (R-201611)	田原本町大字八尾小字清水 789番7	タクトホーム㈱	建売住宅の建築	清水	2016．7．4	柱状改良工事予定日より以前に工事着手。遺構・遺物なし。
12	羽子田 (R-201612)	田原本町小字瓜田 403番8・404番9	個人	個人住宅の建築	清水	2016．7．5	柱状改良工事時に立会。盛土の為状況不明。遺構・遺物不明。
13	阪手 (R-201613)	田原本町大字阪手 小字中ノ町630番61	個人	個人住宅の建築	清水	2016．7．6	柱状改良工事時に立会。盛土の為状況不明。遺構・遺物不明。
14	寺内町 (R-201614)	田原本町小字本町 612番の一部・614番1	個人	個人住宅の建築	清水	2016．7．12	布基礎掘削時に立会。最大でGL-0.1mまでの掘削であり、造成土・現代機乱層内に留まる。遺構・遺物なし。
15	羽子田 (R-201615)	田原本町小字池ノ内 92番37	一般設換	分譲住宅の建築	西岡	2016．8．19	ベタ基礎掘削時に立会。GL-0.2m程度の掘削で、造成土層内に留まる。遺構・遺物なし。
16	羽子田 (R-201616)	田原本町大字新町小字上枝 368番5	㈱STTドコモ	基地局移築に伴う事前調査	柴田	2016．8．25	ボーリング調査時に立会。遺構・遺物の確認不可。
17	保津・阪手道 (R-201617)	田原本町大字富本小字角田 228番 南側道路外	田原本町長（下水道課）	下水道工事	清水 西岡	2016．9．2 ・9．5	入札船掘時に立会。中世頃とみられる大溝を確認。遺物なし。
18	羽子田 (R-201618)	田原本町大字新町 小字池ノ内70番9	個人	個人住宅の建築	清水	2016．9．13	基礎掘削時に立会。掘削は造成土層内に留まる。遺構・遺物なし。
19	唐古・鍵 (R-201619)	田原本町大字唐古小字高塚 85番2	個人	擁壁の設置	清水	2016．9．15	布基礎掘削時に立会。GL-0.1mまでの掘削で、遺物包含層までおよばない。遺構・遺物なし。
20	薬王寺東 (R-201620)	田原本町大字薬王寺 小字平都皮安84番6	個人	擁壁の設置	清水	2016．9．23	柱状改良工事時に立会。現状GL-1.1m程から弥生時代後期遺物包含層の堆積色結質土が上がる。弥生土器小片出土。遺構不明。
21	黒田（法楽寺前） (R-201621)	田原本町大字黒田 小字マツノ69番1の一部	個人	個人住宅の建築	西岡	2016．9．27	柱状改良工事後の表土掘削時に立会。GL-0.1m程度のすき取りのみで、掘削は造成土層内に留まる。遺構・遺物不明。
22	唐古・鍵 (R-201622)	田原本町大字鍵小字垣内 389番	エールホーム	宅地造成に伴う下水道工事	清水 柴田 西岡	2016．10．13 ～11．11	別頁で報告。
23	寺内町 (R-201623)	田原本町小字茶町584番	宗教法人 浮田寺	車椅子用スロープ設置	清水	2016．10．26	基礎掘削時に立会。GL-0.15m程度の掘削で、近代以降の工事掘乱土層内に留まるが、一部で近世の盛土層が確認。礎石設置時の柱穴を確認。近世瓦片出土。
24	城関西 (R-201624)	田原本町大字城関 小字西垣内682番1外	個人	個人住宅の建築	清水	2016．10．31	布基礎掘削時に立会。GL-0.5m程度の掘削で、GL-0.25m以下は近世遺物包含層、鍵層な遺物なし。遺構なし。
25	多 (R-201625)	田原本町大字多 270番 北側道路	田原本町長（下水道課）	下水道工事	清水 柴田	2016．11．4 ・11．7 ・11．9 ・11．10	入札の試掘時に立会。GL-1.7mで弥生時代遺物包含層へ。遺構なし。弥生時代の可能性があり土器小片出土。
26	保津・宮古 (R-201626)	田原本町大字新町 小字榎申堪202番4	シティコスモ㈱	集合住宅の建築	清水	2016．11．29	柱状改良工事を確認したため立会。客土上からの工事。遺構・遺物不明。
27	寺内町 (R-201627)	田原本町小字三輪町446番 東側道路	田原本町長（農政土木課）	道路改修	清水 柴田	2016．11．14	擁壁工事時に立会。道路面から-0.3～0.4mの掘削。掘削は堆積盛土内に留まる。遺構・遺物なし。

28	道路外 (R-201628)	田原本町大字濃田 小字浜有田 422 番 北側道路	田原本町長 (下水道課)	下水道工事	清水	2016. 12. 2	下水道掘削を確認したため立会。GL-2.0m程度の掘削、GL-0.6m以下は地山層。道路外であることを確認。遺構・遺物なし。
29	唐古・鍵 唐古南氏宮館跡推定地 下ツ道 (R-201629)	田原本町大字鍵小字五田 356 番 37	個人	個人住宅の建築	清水	2016. 12. 20	柱状改良工事時に立会。擁壁再設置工事に伴う掘削が並行していたが、既存擁壁の視氏層内に留まる。柱状改良工事では、弥生時代の遺構検出の可能性があるとが上がるが、顕著な遺構は確認できず、遺物なし。
30	寺内町 (R-201630)	田原本町小字九軒町 542 番 1	アイデイホーム㈱	分譲住宅の建築	清水	2016. 12. 28	柱状改良工事時に立会。GL-0.2m までが表土、GL-0.5m までが近世遺成土とみられる。遺構・遺物不明。
31	十六面・薬王寺 (R-201631)	田原本町大字保津 小字五ノ坪 197 番 1 北側水路	田原本町長 (農政土木課)	水路改修工事	清水	2017. 1. 21	ゲート設置に伴う水路南側掘削時に立会。GL-1.4m までの掘削に立会。既存コンクリート水路の擁壁工事時の視氏内。遺構・遺物なし。
32	寺内町 (R-201632)	田原本町小字茶町 584 番	宗教法人 浄照寺	厨房の建築	清水	2017. 1. 23 ・1. 30 ・3. 27	配管埋設工事・礎木の抜根・基礎掘削工事時に立会。GL-0.1～0.45m の掘削で、近代遺物包含層内に留まる。一部近世遺構面下まで掘削となるが、視氏内、近世～近代の国産磁器碗・瓦質井戸枠・瓦片・鉄釘等が出土。遺構なし。
33	阪手北 (R-201633)	田原本町大字阪手 小字ヘンビア 203 番 1	個人	共同住宅の建築	清水	2017. 1. 27	擁壁工事時に立会。旧水田面から -0.7m 程度の掘削。全体が中世遺構とみられる落ち込み状の堆積で、掘削床面付近で土師器細片を僅かに確認。
34	唐古・鍵 (R-201634)	田原本町大字唐古 小字ツチ田 99 番 3・100 番	田原本町長 (総合政策課)	遺構展示情報館の建築	柴田	2017. 1. 31	基礎掘削時に立会。GL-0.2m 程度の掘削で、水田耕土層内に留まる。遺構・遺物なし。
35	阪手北 (R-201635)	田原本町大字阪手小字神田 208 番 13	合同会社 スイカ総合研究所	個人住宅の建築	清水	2017. 2. 15	柱状改良工事時に立会。柱状改良の為、状況不明。遺構・遺物不明。
36	唐古・鍵 (R-201636)	田原本町大字鍵小字出落田 208 番 1 外　南側水路	倉橋部地 土地改良区	水路改修工事	清水	2017. 2. 24 ・2. 25	既存水路蓋および掘削工事時に立会。現状GL-0.5m 程度の掘削で、近世期の盛土層内に留まる。遺物なし。
37	唐古・鍵 唐古南氏宮館跡推定地 (R-201637)	田原本町大字鍵小字垣内 311 番 1・3・4	㈱アーネストワン	分譲住宅の建築	清水	2017. 2. 25	鋼管杭打設工事時に立会。杭直径 5 cm程度。掘削を伴わず、遺構・遺物不明。
38	寺内町 (R-201638)	田原本町小字三輪町 461 番 1・2・462 番 1	個人	個人住宅の建築	清水	2017. 2. 27	ベタ基礎施工後に連絡があり立会。掘削は最大 -0.36m で、遺構面には達しない設計。遺構・遺物不明。
39	唐古・鍵 唐古南氏宮館跡推定地 (R-201639)	田原本町大字鍵小字垣内 311 番 7	個人	個人住宅の建築	清水	2017. 2. 28	柱状改良工事時に立会。柱状改良の為、状況不明。遺構・遺物不明。
40	今里の浜 (R-201640)	田原本町大字今里 小字東タノ本 134 番 6・8・135 番 4・5	個人	個人住宅の建築	清水	2017. 3. 6	柱状改良工事後のベタ基礎工事時に立会。GL-0.2m程度の掘削で、表土層内に留まる。遺構・遺物なし。
41	常楽寺推定地 保津・宮古 (R-201641)	田原本町大字宮古 小字寺垣内 270 番 1	田原本町長（観光・まちづくり推進課）	看板の設置	清水	2017. 3. 14	看板設置に伴う掘削時に立会。直径 0.2m、深さ 0.7m の穴 2 基の掘削。-0.5m までが近世盛成土、以下中世遺物包含層。鎌倉時代前後の土師器細片および、近世土師器片・瓦片等が出土。
42	保津・宮古 (R-201642)	田原本町大字宮古 小字芝ノ北 137 番 1	個人	青空駐車場の造成	清水	2017. 3. 27	擁壁工事時に立会。掘削は旧耕土層内に留まる。遺構・遺物なし。

第 12 表　平成 29 年度　工事立会一覧

	遺跡名	調査地	原因者	工事の目的	立会者	調査日	内容
43	下ツ道 (R-201701)	田原本町大字曽我小字川田 572 番 1	個人	個人住宅の建築	清水 柴田	2017. 4. 4	布基礎掘削工事時に立会。GL-0.2 m程度の掘削で、過去の平地造成土層内に留まる。遺構・遺物なし。
44	平野氏居館跡 (R-201702)	田原本町大字唐招内 756 番 2 の一部	個人	賃貸住宅の建設	清水	2017. 4. 14	柱状改良工事時に立会。視氏の為状況不明。遺構・遺物不明。
45	味間西 (R-201703)	田原本町大字味間 小字大ミノクキ 236 番 1	個人	個人住宅の建築	清水 柴田	2017. 4. 14 ・5. 1	柱状改良工事と布基礎工事が併行しておこなわれていた所を立会。柱状改良工事は視氏の為状況不明。布基礎部分は GL-0.2 m前後の掘削で、客土内に留まる。遺構・遺物なし。後日、浄化槽設置工事時に再度立会。GL-1.9 m の掘削で、旧水田面から -0.4 m以下は時期不明の落ち込みとみられる。遺物なし。
46	薬王寺南 (R-201704)	田原本町大字薬王寺 小字小ッ町 150 番 36	個人	個人住宅の建築	清水	2017. 4. 19	柱状改良工事時に立会。視氏の為、状況不明。遺構・遺物不明。
47	道路外 (R-201705)	田原本町大字千代 小字下田 76 番 1 ・小字コエ田 95 番 1・1246 番	㈱有基建設	施設の解体	柴田	2017. 5. 26	周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、開発面積が 10,000 ㎡ を超えるため、協議(T-201701) と工事立会を実施。基礎の抜き取り工事時に立会。2 ～ 3 m の盛土層で、遺物包含層にはおよばない。遺構・遺物なし。
48	薬王寺南 (R-201706)	田原本町大字三笠小字文東 193 番 4	個人	個人住宅の建築	柴田 西岡	2017. 6. 2 ・6. 5	柱状改良工事時に立会。視氏の為、状況不明。後日、ベタ基礎工事時に再度立会。掘削は造成土層内に留まるとみられる。遺構・遺物なし。
49	道路外 (R-201707)	田原本町大字新町小字下桜 16 番 1　北側道路	田原本町水道事業 管理者（水道課）	水道工事	柴田	2017. 6. 16	試掘溝香時に立会。既設管敷設時の埋め戻し土内の掘削。遺構・遺物なし。

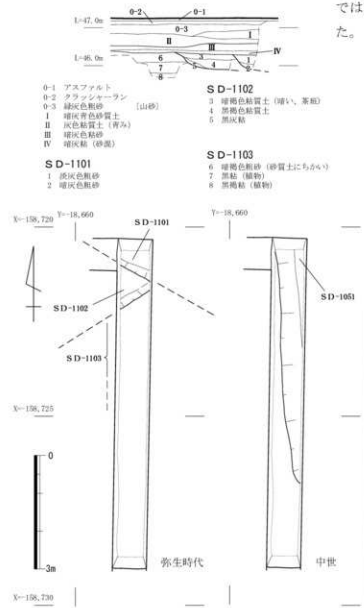
50	保津・宮古 保津・阪手遺 (R-201708)	田原本町大字新町 小字蓮申橋 203 番 2・203 番 5	田原本町長 (農政土木課)	道路拡幅工事	柴田	2017. 6. 26	擁壁立ち上げに伴う基礎掘削時に立会。GL-0.2～0.6 m 程度の掘削で、遺土内に留まる。遺構・遺物なし。
51	唐古・鍵 唐古南氏辺都跡推定地 (R-201709)	田原本町大字鍵小字垣内 311 番 11 の一部	㈱アーネストワン	分譲住宅の建築	柴田	2017. 8. 23	鋼管杭打設時に立会。遺構・遺物なし。
52	唐古・鍵 (R-201710)	田原本町大字唐古小字高塚 75 番 3	田原本町長（環境・まちづくり推進課）	道の駅建設（災害用便槽設置工事）	清水 柴田	2017. 8. 29	唐古・鍵遺跡第 119 次調査と同一敷地内で、GL-1.8～2.0 m の掘削。中世以降の包含層と弥生時代後期の遺構面を検出。中世溝最小深さ 8・第 119 次調査第 1 トレンチの第 101 の続きとみる溝 1 条・新規溝 1 条を確認。遺物なし。
53	十六面・薬王寺 小字祝口 357 番 10・358 番 11	田原本町大字薬王寺 小字祝口 357 番 10・358 番 11	個人	個人住宅の建築	柴田	2017. 9. 1	改良杭工事時に立会。遺構・遺物なし。
54	唐古・鍵 遺跡外 (R-201712)	田原本町大字唐古 小字ビリ箱 153 番・154 番 ・大字法貴寺小字溝田 1134 番 1	田原本町長 (総合政策課)	公園の造成	清水 柴田	2017. 6. 30 ・9. 22 ・11. 6 ・11. 8	唐古・鍵遺跡史跡公園内の多目的広場および駐車場の工事に伴う掘削時に立会。・9.22 で弥生時代遺構面まで掘削がおよぶ。・11.6 古墳時代頃の粗砂埋積や弥生時代溝後の河跡を検出した。弥生土器・土師器片等が出土。
55	唐古・鍵 (R-201713)	田原本町大字唐古 小字ソオ出 100 番外	田原本町長 (総合政策課)	史跡公園整備	清水 柴田	2017. 9. 22 ・10. 16 ・10. 27 ・10. 30 ・10. 31 ・2018. 1. 12	唐古・鍵遺跡史跡公園内の設備設置工事に伴う掘削時に立会。基本的に遺成土内。また旧私有地までの掘削に留まるが、唐古池西側の北水口付近では 10 箇程度の遺物が出土しており、遺物包含層と逆じていた可能性がある。唐古池周辺黄ではコンクリート層を検出しており、一昨年度に確認した高角射砲台座と同様の砲台基礎の可能性があるが、大半は既に破壊されている様子。周囲から弥生土器小片数点が出土。
56	唐古・鍵 唐古南氏辺都跡推定地 (R-201714)	田原本町大字鍵小字垣内 389 番 3	一建設㈱	分譲住宅の建築	清水	2017. 9. 25	ベタ基礎掘削工事時に立会。掘削は客土内に留まる。遺構・遺物なし。
57	唐古・鍵 (R-201715)	田原本町大字唐古 小字東平田 75 番 1 東側道路	国土交通省 近畿地方整備局 奈良国道事務所	交差点改良工事に伴う道路拡幅工事	清水	2017. 10. 10	管理庁に伴う掘削時に立会。GL-0.94 m まで の掘削で、道路建設時の盛土内に留まる。遺構・遺物なし。
58	保津・宮古 (R-201716)	田原本町大字宮古 小字八反切田 135 番 5	個人	個人住宅の建築	柴田	2017. 10. 16	杜状改良工事時に立会。現式の為状況不明。遺構・遺物不明。
59	西代西 (R-201717)	田原本町大字西代 小字ツク出 173 番 1 外	田原本町長 (農政土木課)	道路拡幅工事	清水 柴田 西岡	2017. 11. 20 ・11. 25 ・11. 27 ・11. 28	道路拡幅に伴う路盤水路部の撤去および基礎掘削時に立会。東西方向の丁区で、東寄りでは GL-0.5 m 程で流水堆積とみられる砂層を確認。丁区西寄りでは礫混じの砂層を確認した。丁区中央では確認できず、同じ深度で中近世の遺物包含層とみられる粘質土層等がみられた。その他顕著な遺構なし。遺物なし。
60	阪手北 阪手北環濠 (R-201718)	田原本町大字阪手 小字ベンビク 187 番 1	スギ薬局	看板の設置	清水	2018. 1. 26	掘削工事を確認した為立会。GL-1.4 m の掘削。GL-1.1 m 以下は岩盤粘質層の可能性があるが、コンクリート殻破じ込まれており、確認不可。遺構・遺物なし。
61	唐古・鍵 (R-201719)	田原本町大字唐古 小字ソオ出 98 番 4 外	国土交通省 近畿地方整備局 奈良国道事務所	歩道設置工事	清水	2018. 1. 26	歩道の縁石埋設工事時に立会。GL-0.64 m までの掘削で、道路建設時の盛土内に留まる。遺構・遺物なし。
62	タカツキ古墳 (R-201720)	田原本町大字矢部小字西印出 485 番 南側道路	田原本町長 (農政土木課)	農道改良工事	柴田 西岡 清水	2018. 1. 30	タカツキ古墳第 1 次調査に先立ち、一連の工事の道路外部分で立会。水田面 -0.4 m 程度の掘削で、包含層・遺構面には達しない。遺構・遺物なし。
63	唐古・鍵 (R-201721)	田原本町大字唐古小字高塚 80 番 6 西側道路	国土交通省 近畿地方整備局 奈良国道事務所	交差点改良工事に伴う道路拡幅工事	清水	2018. 2. 13	橋設置工事該分で立会。GL-1.32 m の掘削で、国道造成時の盛土および現代埋積層内に留まるとみられる。遺構・遺物なし。
64	法貴寺北 (R-201722)	田原本町大字法貴寺 小字四条ノ内 1316 番 2 の一部外	一般社団法人 奈良県 サッカー協会	サッカー場の整備および関係建物の建築	清水	2018. 2. 21	サッカー場関係建物の立会工事時および下水桝設置該分で立会。GL-1.2 m 掘長の掘削で、旧水田の床土層まで に留まる。遺構・遺物なし。
65	広域垣内 (R-201723)	田原本町大字広域小字垣内 23 番 2 南側道路	関西電力㈱	電柱支線の取替工事	西岡	2018. 2. 22	電柱設置の掘削工事時に立会。GL-1.8 m までの掘削で、流路内の堆積層の可能性がある。その他顕著な遺構なし。土器片 1 点出土。
66	薬王寺南 (R-201724)	田原本町大字三笠小字文東 196 番 1・196 番 2 の各一部	㈱アーネストワン	分譲住宅の建築	西岡	2018. 2. 26	杜状改良工事時に立会。現式の為状況不明。遺構・遺物不明。
67	寺内町 (R-201725)	田原本町小字本町 574 番・575 番 3	個人	個人住宅の建築	清水	2018. 3. 7	杜状改良工事時に立会。現式の為状況不明。遺構・遺物不明。
68	唐古・鍵 (R-201726)	田原本町大字唐古小字高塚 63 番 1 南側道路	田原本町長 (農政土木課)	道路拡幅工事	清水	2018. 3. 6	側溝等設置工事時に立会。GL-0.3～0.7 m 程後の掘削で、客土内に留まる。遺構・遺物なし。
69	唐古・鍵 (R-201727)	田原本町大字唐古小字ヤツマ 50 番 2 外	田原本町長 (総合政策課)	安全柵設置工事	清水	2018. 3. 23	基礎の埋め込み工事時に立会。GL-0.5 m 程後の掘削で、遺土内に留まる。遺構・遺物なし。

第 122 図　調査地位置図（S＝1/5,000）

1．立会の概要

唐古・鍵遺跡西部での宅地分譲に伴い、既存里道の下水管埋設部分で発掘調査を実施した（扱いは工事立会）。調査の結果、弥生時代の大溝３条、中世大溝１条、近世小溝１条を検出した。出土遺物から、ＳＤ-1101 は弥生時代後期初頭頃、ＳＤ-1102 は弥生時代中期後半、ＳＤ-1103 は弥生時代中期中頃～後半と考えられる。

調査後、一度埋め戻した上で改めて引き込み工事を含め立会で対応した。宅地予定部分の東端（現水路付近）では南北方向の中世～近世の大溝を確認した。



第 123 図　調査区平面図および西壁北端断面図（S＝1/100）

写真 38　弥生時代調査全景（北から）

Ⅱ．資料の整理と活用・普及

１．文化財資料の整理・保管

（１）埋蔵文化財の整理・保管

平成 28 年度調査分　平成 28 年度の発掘調査と試掘調査、工事立会に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ 70 箱とナイロン袋他である。遺物量は前年度に比較し約 170 箱少ないが、これは平成 27 年度に実施した唐古・鍵遺跡第 116 次調査と第 118 次調査の遺物が 200 箱ほどあったことが原因で、それらを除くと遺物量は例年どおりの少量である。平成 28 年度の内訳は下表のとおりである。なお、唐古・鍵遺跡の調査は３件実施したが、環濠より外側の調査であったため少ない。

平成 29 年度調査分　平成 29 年度の発掘調査と工事立会に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ 83 箱とナイロン袋である。遺物量は前年度に比較し 10 箱程度多いが、これは平成 28 年度より調査件数が多いことと佐味遺跡の調査が弥生集落であったためである。それらを除くと遺物量は例年どおりの少量である。平成 29 年度の内訳は下表のとおりである。

【埋蔵文化財保管数】

平成 28 年度

調査番号	遺跡名	調査次数	遺物明細	遺物量	
				現場後	洗浄後（土器・瓦）
H28-01	舞ノ庄遺跡	第３次調査	土師器・近世陶磁器・瓦等	１箱	１袋（中）
H28-02	保津・宮古遺跡	第 44 次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・木製品等	１箱	1/2 箱
H28-03	東井上遺跡	第２次調査	土師器・瓦器・瓦等	３袋（小）	１袋（小）
H28-04	唐古・鍵遺跡	第 119 次調査	弥生土器・土師器・須恵器・中世陶器・近世陶磁器・木製品・石器・銭貨等	13 箱	３箱
H28-05	宮古北遺跡	第 21 次調査	弥生土器・土師器・須恵器等	27 箱	36 箱
H28-06	保津・宮手遺	第３次調査	土師器・瓦質土器・近世陶磁器等	１箱	１袋（H）
H28-07	保津・宮古遺跡	第 45 次調査	土師器・須恵器・瓦器等	１箱	１袋（中）
H28-08	多遺跡	第 27 次調査	弥生土器・瓦器・瓦質土器・瓦・石器等	２箱	1/2 箱
H28-09	佐味遺跡	第５次調査	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦等	３箱	１・2/3 箱
H28-10	唐古・鍵遺跡	第 120 次調査	弥生土器・土師器・近世陶磁器・瓦等	３箱	２箱
H28-11	宮古北遺跡	第 22 次調査	弥生土器・土師器等	１箱	１袋（G）
H28-12	西代西遺跡	第１次調査	土師器・須恵器・近世陶磁器・瓦等	１箱	１袋（中）
H28-13	唐古・鍵遺跡	第 121 次調査	弥生土器・土師器・須恵器・近世陶磁器・瓦・木製品・石器等	７箱	７箱
H28-14	宮古北遺跡	第 23 次調査	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・中世陶器・近世陶磁器・瓦・埴輪・石器等	８箱	６・1/3 箱
H28-15	羽子田遺跡	第 40 次調査	弥生土器・土師器・瓦質土器・近世陶磁器等	１箱	１袋（中）
S-201601	唐古・鍵遺跡	試掘調査	唐古・鍵遺跡　第 120 次調査と一括		１箱
S-201602	薬王寺南遺跡	試掘調査	弥生土器・瓦等	３袋（小）	１袋（F）
R-201606	寺内町遺跡	工事立会	近世磁器・瓦	３点	１袋（F）
R-201607	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器・瓦質土器・瓦	１袋（中）	１袋（F）
R-201608	寺内町遺跡	工事立会	近世陶磁器・瓦・金属器等	１袋（中）	１袋（F）
R-201620	薬王寺東遺跡	工事立会	弥生土器	３点	１袋（D）
R-201622	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器・土師器・瓦質土器・中世陶器・近世陶磁器・瓦等	６箱	３箱
R-201623	寺内町遺跡	工事立会	瓦等	１袋（中）	１袋（G）
R-201625	多遺跡	工事立会	土師器	１点	１袋（A）
R-201632	寺内町遺跡	工事立会	近世陶磁器・瓦・金属器等	２箱	１箱
R-201641	保津・宮古遺跡 霊園等推定地	工事立会	土師器・瓦器・瓦等	２袋（小）	１袋（F）

平成 29 年度

調査番号	遺跡名	調査次数	遺物明細	遺物量	
				現場後	洗浄後（土器・瓦）
H29-01	保津・宮古遺跡	第 46 次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・輸入磁器・瓦等	２箱	１箱
H29-02	筋違道	第４次調査	弥生土器・土師器・須恵器等	３袋（中）	１袋（H）
H29-03	薬王寺南遺跡	第２次調査	弥生土器等	１箱	1/4 箱
H29-04	保津・宮古遺跡	第 47 次調査	弥生土器・土師器・須恵器・中世陶器・瓦・木製品・石器等	24 箱	17 箱
H29-05	保津・宮古遺跡	第 48 次調査	土師器・須恵器・瓦器・中世陶器・近世陶磁器・瓦等	１箱	１箱

H29-06	富本遺跡	第3次調査	土師器・瓦器・近世陶磁器・瓦等	1箱	1箱
H29-07	薬王寺推定地	第2次調査	土師器・須恵器・近世陶磁器・木製品・瓦・銭貨等	1箱	2/3箱
H29-08	唐古・鍵遺跡	第122次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・中世陶器・瓦・石器等	6箱	6箱
H29-09	保津・宮古遺跡	第49次調査	土師器・瓦器・瓦等	1箱	1箱
H29-10	十六面・薬王寺遺跡	第36次調査	土師器・瓦器・瓦質土器・中世陶器・瓦等	1箱	1箱
H29-11	佐味遺跡	第4次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦・木製品・石器・銭貨等	32箱	13箱
H29-12	矢部中勝司遺跡	第2次調査	土師器・須恵器・瓦等	1箱	1袋（中）
H29-13	唐古・鍵遺跡	第123次調査	弥生土器・土師器・瓦等	2箱	1箱
H29-14	矢部遺跡	第4次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・中世陶器・近世陶磁器・瓦・軟骨等	1箱	1箱
H29-15	タカツキ古墳	第1次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・近世陶磁器・瓦・石器・軟骨等	1箱	2/3箱
H29-16	寺内町遺跡	第17次調査	土師器・中世陶器・近世陶磁器・瓦・木製品・土製品等	2箱	1箱
H29-17	小阪御長遺跡	第3次調査	土師器・須恵器・瓦器・中世陶器・近世陶磁器・瓦・碁盤・土製品等	5箱	3箱
H29-18	保津・宮ノ下遺	第4次調査	弥生土器・土師器・須恵器等	1箱	1/2箱
R-201712	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器・土師器・須恵器・近世陶磁器・土製品	1箱	1袋（中）
R-201713	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器	10箱	10箱
R-201723	佐味坂内遺跡	工事立会	須恵器	1点	1袋（D）

※遺物量の表記の箱とは、長56cm、幅36cm、深15cmの容量を標準として換算している。
　また、袋（小・中・A・D・F・G・H）は、ナイロン袋の大きさを表している。

【土器以外の遺物のサンプルと保管数量（該当次数のみ）】

平成28年度

調査番号	遺跡名	調査次数	土製品	焼土塊	木製品	石製品	骨製品	金属器	銭貨	ガラス	木	石	軟骨・貝類	種子	炭化米
H28-02	保津・宮古遺跡	第44次調査	－	－	7	1	－	－	－	6	－	2	－	1	－
H28-04	唐古・鍵遺跡	第119次調査	3	－	11	16	3	4	1	－	29	6	虫2	74 ＋㊀	4
H28-05	宮古北遺跡	第21次調査	2	29	1	62	2	1	－	－	9	－	12	1	－
H28-07	保津・宮古遺跡	第45次調査	－	－	－	－	10	－	－	－	－	1	－	－	－
H28-08	多遺跡	第27次調査	－	－	－	9	－	－	－	－	－	1	－	－	－
H28-09	佐味遺跡	第3次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	2	－	－
H28-10	唐古・鍵遺跡	第120次調査	－	－	－	47	－	－	－	－	1	3	－	－	－
H28-12	西代西遺跡	第1次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5	1	－	－
H28-13	唐古・鍵遺跡	第121次調査	－	－	3	43	－	1	－	1	－	2	－	3	－
H28-14	宮古北遺跡	第23次調査	－	－	5	27	－	1	－	－	－	－	4	2	－
H28-15	浜手出遺跡	第40次調査	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
S-201601	唐古・鍵遺跡	試掘調査	－	－	－	38	－	1	－	－	－	5	－	－	－
S-201602	薬王寺南遺跡	試掘調査	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－
R-201608	寺内町遺跡	工事立会	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－
R-201622	唐古・鍵遺跡	工事立会	1	－	3	71	－	－	－	1	5	1	2	17	6
R-201631	寺内町遺跡	工事立会	－	－	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－
計			6	28	30	315	15	13	1	8	45	29	23	99 ＋㊀	10

平成29年度

調査番号	遺跡名	調査次数	土製品	焼土塊	木製品	石製品	骨製品	金属器	銭貨	ガラス	木	石	軟骨・貝類	種子	炭化米
H29-01	保津・宮古遺跡	第46次調査	－	1	4	2	－	－	－	－	6	6	－	3	－
H29-02	熊逢遺	第4次調査	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
H29-04	保津・宮古遺跡	第47次調査	1	8	4	28	－	1	－	－	2	38	－	2	－
H29-05	保津・宮古遺跡	第48次調査	－	1	－	－	－	－	1	－	－	2	－	－	－
H29-06	富本遺跡	第3次調査	－	－	2	2	－	1	－	1	－	2	－	－	－
H29-07	薬王寺推定地	第2次調査	－	－	1	－	－	－	1	1	1	3	1	1	－
H29-08	唐古・鍵遺跡	第122次調査	－	－	23	－	－	－	－	－	1	5	6 ＋①	2	－
H29-09	保津・宮古遺跡	第49次調査	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
H29-10	十六面・薬王寺遺跡	第36次調査	－	－	2	－	－	－	－	－	－	27	－	－	－
H29-11	佐味遺跡	第4次調査	1	2	13	237	－	3	1	－	3	25	－	17 ＋①	－
H29-12	矢部中勝司遺跡	第2次調査	－	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－
H29-13	唐古・鍵遺跡	第123次調査	－	－	－	8	－	－	－	－	2	－	－	－	－
H29-14	矢部遺跡	第4次調査	－	4	1	4	－	－	1	1	1	6	1	－	－

H29-15	タカツキ古墳	第1次調査	－	－	4	4	－	－	－	－	－	4	6	－	－	
H29-16	寺内町遺跡	第17次調査	3	－	4	1	－	－	－	－	2	4	－	2	－	
H29-17	小阪細長遺跡	第3次調査	2	4	13	2	－	1	－	－	5	16	1	2	－	
H29-18	保津・宮平遺	第4次調査	－	－	1	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	
R-201712	唐古・鍵遺跡	工事立会	1	－	－	2	－	－	－	－	－	1	－	－	－	
R-201713	唐古・鍵遺跡	工事立会	－	－	－	192	－	－	－	－	－	－	3	8	2	
R-201723	寺内町遺跡	工事立会	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	
計			8	20	72	485	1	2	2	2	24	140	18 +①	37 +①	2	

※少量遺物は、複数次数あるいは複数遺跡をまとめて分別収納しているため、コンテナ数で表すことができないので、有（○）無（－）で示した。
また、点数の丸括弧アラビア数字は、20点以上を1件としてカウントしたものである。

【Pickup した土器・形象埴輪の数量（該当次数のみ）】

平成28年度

調査番号	遺跡名	調査次数	編年土器	搬入土器	絵画土器	記号土器	文様土器	特殊土器	土器製作・使用痕	縄文土器	古墳時代土器	古代土器	中世土器	近世土器	形象埴輪	瓦当等
H28-02	保津・宮古遺跡	第44次調査	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
H28-04	唐古・鍵遺跡	第119次調査	－	－	－	－	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－
H28-05	宮古遺跡	第21次調査	－	19	－	－	10	1	－	－	－	－	－	－	－	－
H28-08	多遺跡	第27次調査	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	2
H28-09	氏城遺跡	第3次調査	－	－	－	－	－	1	－	4	－	－	－	－	－	－
H28-10	唐古・鍵遺跡	第120次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	1
H28-12	西代西遺跡	第1次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
H28-13	唐古・鍵遺跡	第121次調査	－	1	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	1
H28-14	宮古遺跡	第23次調査	－	2	－	－	－	1	－	4	－	－	－	－	5	1
S-201601	唐古・鍵遺跡	試掘調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
R-201608	寺内町遺跡	工事立会	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
R-201622	唐古・鍵遺跡	工事立会	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
計			0	22	0	0	11	7	2	87	0	0	0	0	7	9

平成29年度

調査番号	遺跡名	調査次数	編年土器	搬入土器	絵画土器	記号土器	文様土器	特殊土器	土器製作・使用痕	縄文土器	古墳時代土器	古代土器	中世土器	近世土器	形象埴輪	瓦当等
H29-01	保津・宮古遺跡	第46次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
H29-04	保津・宮古遺跡	第47次調査	－	1	1	1	－	2	1	－	－	－	－	－	－	－
H29-06	富本遺跡	第3次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
H29-08	唐古・鍵遺跡	第122次調査	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
H29-10	十六面・薬王寺遺跡	第36次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
H29-11	氏城遺跡	第4次調査	－	6	－	1	1	5	1	1	－	－	－	－	－	－
H29-13	唐古・鍵遺跡	第123次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
H29-04	矢部遺跡	第4次調査	－	2	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1
H29-15	タカツキ古墳	第1次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
H29-16	寺内町遺跡	第17次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
H29-17	小阪細長遺跡	第3次調査	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－
R-201712	唐古・鍵遺跡	工事立会	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－
R-201713	唐古・鍵遺跡	工事立会	1	5	－	－	－	5	－	－	－	－	－	－	－	－
計			1	16	1	2	2	13	3	1	0	0	0	0	2	8

再整理事業分　再整理事業では、既に収納している土器を再整理し、重要と思われる遺物をPickupするとともに、再収納することにより遺物箱を減らすことを目的におこなっている。平成28年度では唐古・鍵遺跡第42・44～46次調査の全てと第47次調査の一部、平成29年度は第47次調査の残部と第48次調査の一部（第48次調査分は次年報で報告）の土器等の447箱分を実施し

た。これらの整理によって、下記項目の遺物を Pickup した。今回の再整理で注目されるのは、唐古・鍵遺跡第 44 次調査において多量の搬入土器を抽出したことで、他の地区より出土密度が高いことが判明した。特に生駒山西麓産や近江、紀伊産の土器が多い。

【再整理事業に伴い Pickup した遺物数量（該当次数のみ）】

遺跡名	調査次数	縄文土器	弥生土器	搬入土器	絵画土器	記号土器	文様土器	異形土器	ミニチュア土器	その他特殊土器	赤色顔料内蔵	土器製作・使用痕	土製品	他土塊
唐古・鍵遺跡	第 42 次調査	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	◎
	第 44 次調査	10	5	230	0	2	19	5	14	4	5	25	52	6
	第 45 次調査	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	第 46 次調査	1	1	17	1	0	4	2	0	1	0	1	3	3
	第 47 次調査	2	32	195	11	16	32	15	37	26	9	47	49	1

※数量が多くカウントが難しいものは◎で表した。

（2）木製品の樹種同定と保存処理

平成 28 年度においては、一般社団法人　文化財科学研究センターおよび株式会社　吉田生物研究所に委託して唐古・鍵遺跡第 118 次調査、平野氏陣屋跡第 3 次調査等の木製品の樹種同定 56 点を実施するとともに、保存処理事業として唐古・鍵遺跡他出土木製品を 49 点保存処理した。保存処理法としては、吉田生物研究所に委託した高級アルコール法 18 点、町直営の PEG 含浸法および PEG・真空凍結乾燥法 31 点である。

平成 29 年度においては、一般社団法人　文化財科学研究センターおよび株式会社　吉田生物研究所に委託して唐古・鍵遺跡第 118 次調査、保津・宮古遺跡第 47 次調査等の木製品の樹種同定 68 点を実施するとともに、保存処理事業として唐古・鍵遺跡他出土木製品を 39 点保存処理した。保存処理法としては、大阪文化財協会委託のトレハロース含浸法 11 点、文化財科学研究センター委託のトレハロース含浸法 12 点、町直営の PEG 含浸法およびラクチトール含浸法 16 点である。

【樹種同定一覧表】

平成 28 年度

No.	遺跡名	次数	製品コード	製品名	遺構名	層位	結果（学名／和名）		同定機関
1	平野氏陣屋跡	2	跡J-002-00002※	下駄	SD-07		*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
2	平野氏陣屋跡	3	跡J-002-00003※	下駄	SX-02	第 6 層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
3	平野氏陣屋跡	3	跡J-003-00008※	下駄	SD-01	第 2 層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
4	平野氏陣屋跡	3	跡J-003-00009※	下駄	SD-01	第 2 層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ	文化財科学研究センター
5	平野氏陣屋跡	3	跡J-003-00010※	下駄	SD-01	第 2 層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
6	平野氏陣屋跡	3	跡J-003-00011※	下駄	SD-01	第 2 層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
7	平野氏陣屋跡	3	跡J-003-00012※	曲物栓行	SD-01	第 2 層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
8	平野氏陣屋跡	3	跡J-003-00013※	用途不明品	SD-01	第 2 層	*Prunus*	サクラ属	文化財科学研究センター
9	平野氏陣屋跡	3	跡J-003-00014※	桶底板	SD-01	第 2 層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
10	平野氏陣屋跡	3	跡J-003-00015※	桶底板	SD-01	第 2 層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
11	平野氏陣屋跡	5	跡J-005-00002※	桶底板	SD-51	第 3 層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター

12	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00001W	用途不明品	SD-1001	第３層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
13	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00002W	用途不明品	SD-1001	第３層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
14	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00004W	用途不明品	SD-1001	第２-ｂ層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
15	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00019W	桶底板			*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
16	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00024W	横杙子	SD-1001	第２-ｂ層	broad-leaved tree	広葉樹	文化財科学研究センター
17	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00054W	用途不明品	SD-1001	第３層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
18	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00056W	用途不明品	SD-1001	第３層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
19	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00066W	用途不明品	SD-1001	第３層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
20	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00067W	用途不明品	SD-1001	第３層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
21	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00068W	用途不明品	SD-1001	第３層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
22	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00069W	用途不明品	SD-1001	第３層	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	文化財科学研究センター
23	平野氏陣屋跡	7	HKJ-007-00070W	用途不明品	SD-1001	第３層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
24	保津・宮古遺跡	22	HTW-022-00011W	柱	P11-4108	第１層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
25	保津・宮古遺跡	22	HTW-022-00012W	柱	P11-4103	第１層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
26	保津・宮古遺跡	31	HTW-031-00003W	円形曲物（井戸枠）	SK-2052	第５層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
27	保津・宮古遺跡	31	HTW-031-00004W	円形曲物（井戸枠）	SK-2052	第４層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
28-1	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00001W	円形曲物底板	SD-01	第１層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
28-2	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00001W	円形曲物側板	SD-01	第１層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
29	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00002W	櫛	SD-01	第１層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
30	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00003W	柱	SD-01	第１層	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	クリ	文化財科学研究センター
31	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00004W	不明建築材	SD-01	第１層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
32	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00005W	用途不明品	SD-01	第１層	*Abies*	モミ属	文化財科学研究センター
33	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00006W	不明建築材	SD-01	第１層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
34	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00007W	用途不明品	SD-01	第１層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
35	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00008W	用途不明品	SD-01	第２層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
36	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00009W	用途不明品	SD-01	第１層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
37	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00011W	用途不明品	SD-01	第１層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
38	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-00019W	板Ａ	SD-01	第１層	*Abies*	モミ属	文化財科学研究センター
39	唐古・鍵遺跡	47	KEK-047-00014W	不明建築材	SD-2101	第８層	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	クリ	文化財科学研究センター
40	唐古・鍵遺跡	47	KEK-047-00016W	不明建築材	SD-2101	第８層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	文化財科学研究センター
41	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00001W	弓	SR-201	第６層	*Podocarpus macrophyllus* Sweet	マキ科マキ属イヌマキ	吉田生物研究所
42	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00009W	赤巻き	SD-01	第２-ｂ層	*Abies* sp.	マツ科モミ属	吉田生物研究所
43	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00010W	櫛	SK-01	第５層	*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.	マンサク科イスノキ属イスノキ	吉田生物研究所
44	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00043W	箱	SD-01	第１層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
45	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00045W	不明建築材	SD-01	第１層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ科スギ属スギ	吉田生物研究所
46	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00046W	不明建築材	SD-01	第１層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
47	唐古・鍵遺跡	72	KEK-072-00001W	盾	SD-105	第２層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
48	唐古・鍵遺跡	85	KEK-085-00008W	不明建築材	SD-102	第６層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
49	唐古・鍵遺跡	85	KEK-085-00009W	不明建築材	SD-102	第６層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター

50	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00003B	柵（井戸枠）	SK-27	第10層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	文化財科学研究センター
51	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00004B	柵（井戸枠）	SK-27	第8層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	文化財科学研究センター
52	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00005B	紙武板	SD-71	第5層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ	文化財科学研究センター
53	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00006B	円形曲物底板	SK-27	第5層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
54	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00016B	井戸構成部材	SK-27	第9層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
55	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00017B	井戸構成部材	SK-27	第9層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
56	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00019B	井戸構成部材	SK-27	第9層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター

平成29年度

No.	遺跡名	次数	製品コード	製品名	遺構名	層位	結果（学名／和名）		同定機関
1	羽子田遺跡	38	BGT-038-00002B	方形曲物	SD-51	第2層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	吉田生物研究所
2	羽子田遺跡	38	BGT-038-00001B	板A	SD-103	第3層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
3	羽子田遺跡	38	BGT-038-00002B	板A	SD-103	第2層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
4	羽子田遺跡	38	BGT-038-00003B	板A	SR-101	第4層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
5	羽子田遺跡	38	BGT-038-00004B	棒A	SR-101	第4層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
6	羽子田遺跡	38	BGT-038-00005B	板A	SK-52	第3層	*Pseudotsuga japonica* Beisson.	マツ科トガサワラ属トガサワラ	吉田生物研究所
7	保津・宮古遺跡	47	HTW-047-00002B	柱	P11-107	第2層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
8	保津・宮古遺跡	47	HTW-047-00001B	柱	P11-105	第2層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	吉田生物研究所
9	保津・宮古遺跡	47	HTW-047-00003B	礎板	P11-106	第2層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
10	保津・宮古遺跡	47	HTW-047-00004B	礎板	P11-106	第2層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
11	保津・宮古遺跡	47	HTW-047-00005B	礎板	P11-106	第2層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
12	黒田大塚古墳	1	KDO-001-00009B	用途不明品	SD-4101	第3層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	吉田生物研究所
13	唐古・鍵遺跡	66	KRK-066-00003B	柱	SR-201	第9層	*Salix* sp.	ヤナギ科ヤナギ属	吉田生物研究所
14	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00030B	柱	SD-1109	第6層	Sect. Prinus Loudon syn. *Diversipilosae, Dentatae*	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節	吉田生物研究所
15	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00041B	柱	SD-1109	第5(下)層	*Morus* sp.	クワ科クワ属	吉田生物研究所
16	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00042B	柱	SD-1110	第3層	*Morus* sp.	クワ科クワ属	吉田生物研究所
17	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00050B	不明建築材	SD-1109	第6層	*Abies* sp.	マツ科モミ属	吉田生物研究所
18	唐古・鍵遺跡	66	KRK-066-00063B	用途不明品	SD-91	第1層	*Pinus* sp.	マツ科マツ属［二葉松類］	吉田生物研究所
19	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00008B	原材	SD-1109	第6層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	吉田生物研究所
20	唐古・鍵遺跡	72	KRK-072-00001B	盾	SD-105	第2層	Chamaecyparis sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
21	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00045B	柱	P11-130		*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	吉田生物研究所
22	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00069B	棒B	SB-102C	第8層	*Zelkova serrata* Makino	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	吉田生物研究所
23	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00070B	棒B	SB-101B	第13層	Sect. Prinus Loudon syn. *Diversipilosae, Dentatae*	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節	吉田生物研究所
24	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00071B	棒B	SB-101B	第12層	*Celtis* sp.	ニレ科エノキ属	吉田生物研究所
25	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00008B	曲物底板	SK-27	第5層	Chamaecyparis obtusa Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
26	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00009B	板材	SK-27	第9層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	文化財科学研究センター
27	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00010B	桶側板	SK-27	第9層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	文化財科学研究センター
28	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00011B	井戸枠部材	SK-27	第9層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター
29	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00012B	井戸枠部材	SK-27	第9層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財科学研究センター

30	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00130	井戸枠部材	SK-27	第９層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財学研究センター
31	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00140	井戸枠部材	SK-27	第９層	*Abies*	モミ属	文化財学研究センター
32	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00150	井戸枠部材	SK-27	第９層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財学研究センター
33	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00160	井戸枠部材	SK-27	第９層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財学研究センター
34	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00170	井戸枠部材	SK-27	第９層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財学研究センター
35	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00180	井戸枠部材	SK-27	第９層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財学研究センター
36	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00190	井戸枠部材	SK-27	第９層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ	文化財学研究センター
37	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00020	円形曲物底板	SK-27	第３層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
38	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00021	井戸構成部材	SK-27	第７(下)層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ科スギ属スギ	吉田生物研究所
39	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00022	井戸構成部材	SK-27	第７(下)層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	吉田生物研究所
40	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00023	用途不明品	SK-27	第７(下)層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
41	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00024	円形曲物底板	SD-64	第４層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ科スギ属スギ	吉田生物研究所
42	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00025	桶	SD-70	第４層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ科スギ属スギ	吉田生物研究所
43	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00026	丸太杭	SD-70	第４層	*Diospyros* sp.	カキノキ科カキノキ属	吉田生物研究所
44	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00027	用途不明品	SD-71	埃土	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
45	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00028	曲物断片	SD-71	埃土	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
46	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00029	円形曲物底板	SD-71	第２層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
47	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00030	丸太杭	SD-71	第４層	*Aphananthe aspera* Planchon	ニレ科ムクノキ属ムクノキ	吉田生物研究所
48	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00054	木錘	SD-71	第６-b層	*Cinnamomum* sp.	クスノキ科クスノキ属	吉田生物研究所
49	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00055	鍬	SD-71	第６-b層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	吉田生物研究所
50	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00057	鍬	SD-71	第５層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	吉田生物研究所
51	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00070	井戸構成部材	SK-27	第７(下)層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ科スギ属スギ	吉田生物研究所
52	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00079	井戸構成部材	SK-27	第７(下)層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	吉田生物研究所
53	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00093	板A	SK-27	第５層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
54	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00094	板A	SK-27	第５層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ科スギ属スギ	吉田生物研究所
55	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00095	板A	SD-70	第６層	*Pinus* sp.	マツ科マツ属［二葉松類］	吉田生物研究所
56	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00096	板A	SD-70	第６層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ科スギ属スギ	吉田生物研究所
57	唐古・鍵遺跡	119	KRK-119-00001	板B	SD-1101C	第10層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
58	唐古・鍵遺跡	119	KRK-119-00002	板B	SD-1101	第５層	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ科スギ属スギ	吉田生物研究所
59	唐古・鍵遺跡	121	KRK-121-00001	棒A	SD-104	第７層	*Phellodendron amurense* Ruprecht	ミカン科キハダ属キハダ	吉田生物研究所
60	小阪里中遺跡	1	KSS-001-00022	柱（祭祀具）	SD-102	第２層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
61	小阪里中遺跡	1	KSS-001-00023	柱（祭祀具）	SD-102	第２層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
62	小阪里中遺跡	1	KSS-001-00024	柱（祭祀具）	SD-102	第２層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
63	小阪里中遺跡	1	KSS-001-00025	柱（祭祀具）	SD-102	第２層	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	吉田生物研究所
64	小阪里中遺跡	1	KSS-001-00026	柱（祭祀具）	SD-102	第２層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
65	小阪里中遺跡	1	KSS-001-00027	柱（祭祀具）	SD-102	第２層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
66	佐味遺跡	2	SAR-002-10001	板A	SD-1051	第３層	*Chamaecyparis* sp.	ヒノキ科ヒノキ属	吉田生物研究所
67	佐味遺跡	2	SAR-002-10002	棒A	SD-1051	第３層	*Diospyros* sp.	カキノキ科カキノキ属	吉田生物研究所
68	佐味遺跡	4	SAR-004-00001	一木鞘	SD-2152	第３層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	吉田生物研究所

【保存処理木製品一覧表】

平成 26 年度

No.	遺跡名	次数	製品コード	製品名	樹種	台帳No.	遺構名	層位	取上番号	保存処理機関	保存処理方法
1	唐古・鍵遺跡	47	KEK-047-00026W	盤	広葉樹	464	SD-2105	第4層	その2	町富資	PEG・真空凍結乾燥法
2	唐古・鍵遺跡	47	KEK-047-00028W	不明容器	広葉樹	471	SD-2105	第5層	その2	町富資	PEG 含浸法
3	唐古・鍵遺跡	61	KEK-061-00018W	刺突具	モミ属	1506	SD-151BS	第10層		町富資	PEG 含浸法
4	唐古・鍵遺跡	61	KEK-061-00020W	盾	モミ属	1125	SK-118	第6層		町富資	PEG 含浸法
5	唐古・鍵遺跡	61	KEK-061-00034W	不明容器	ヤマグワ	1513	SD-151BN	第8層	W-803	吉田生物研究所	高級アルコール
6	唐古・鍵遺跡	61	KEK-061-00065W	不明建築材	ヒサカキ属	1498	SD-151CS	第8(下)層		吉田生物研究所	高級アルコール
7	唐古・鍵遺跡	61	KEK-061-00066W	不明建築材	スダジイ	1542	SD-151CS	第8(下)層		町富資	PEG・真空凍結乾燥法
8	唐古・鍵遺跡	61	KEK-061-00067W	不明建築材	スダジイ	1522	SD-151CS			町富資	PEG 含浸法
9	唐古・鍵遺跡	61	KEK-061-00072W	ほぞ棒	サカキ	1629	SD-102B			町富資	PEG・真空凍結乾燥法
10	唐古・鍵遺跡	61	KEK-061-00085W	有頭棒	環孔材	1555	SD-151BN	第8(下)層	W-861	町富資	PEG 含浸法
11	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00001W	弓	マキ科マキ属イヌマキ	50	SK-201	第6層		吉田生物研究所	高級アルコール
12	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00009W	糸巻き	マツ科モミ属	90	SD-01	第2-b層		吉田生物研究所	高級アルコール
13	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00010W	櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ	27	SK-01	第5層		吉田生物研究所	高級アルコール
14	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00014W	箱	ヒノキ科ヒノキ属	2	SD-01	第1層		吉田生物研究所	高級アルコール
15	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00045W	不明建築材	スギ科スギ属スギ	2	SD-01	第1層		吉田生物研究所	高級アルコール
16	唐古・鍵遺跡	66	KEK-066-00046W	不明建築材	ヒノキ科ヒノキ属	4	SD-01	第1層		吉田生物研究所	高級アルコール
17	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00031W	柱	ケヤキ	848	SD-1109	第6層	W-630	吉田生物研究所	高級アルコール
18	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00032W	柱	コナラ属コナラ節	848	SD-1109	第6層	W-647	吉田生物研究所	高級アルコール
19	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00033W	柱	ヤマグワ	848	SD-1109	第6層	W-650	吉田生物研究所	高級アルコール
20	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00034W	柱	ヤマグワ	848	SD-1109	第6層	W-651	吉田生物研究所	高級アルコール
21	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00035W	柱	コナラ属クヌギ節	848	SD-1109	第6層	W-660	吉田生物研究所	高級アルコール
22	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00036W	柱	コナラ属クヌギ節	848	SD-1109	第6層	W-661	吉田生物研究所	高級アルコール
23	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00037W	柱	コナラ属クヌギ節	848	SD-1109	第6層	W-662	吉田生物研究所	高級アルコール
24	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00038W	柱	コナラ属コナラ節	1003	SD-1109	第6層	W-664	吉田生物研究所	高級アルコール
25	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00039W	柱	ツブラジイ	1003	SD-1109	第6層	W-670	吉田生物研究所	高級アルコール
26	唐古・鍵遺跡	69	KEK-069-00040W	柱	コナラ属コナラ節	1003	SD-1109	第6層	W-673	吉田生物研究所	高級アルコール
27	唐古・鍵遺跡	85	KEK-085-00007W	加工棒材	環孔材	54	SK-52	Sec. 第4層		町富資	PEG・真空凍結乾燥法
28	唐古・鍵遺跡	91	KEK-091-10002W	棒A	ケヤキ	1031	SK-2204	第4層		町富資	PEG 含浸法
29	唐古・鍵遺跡	91	KEK-091-10003W	棒A	ケヤキ	1031	SK-2204	第4層		町富資	PEG 含浸法
30	唐古・鍵遺跡	91	KEK-091-10004W	棒A	ケヤキ	1031	SK-2204	第4層		町富資	PEG 含浸法
31	唐古・鍵遺跡	99	KEK-099-00002W	盤未成品	広葉樹	11	SD-7101			町富資	PEG・真空凍結乾燥法
32	唐古・鍵遺跡	116	KEK-116-00001W	横行子未成品	ヤマグワ	356	SD-201	第3層		町富資	PEG 含浸法
33	唐古・鍵遺跡	116	KEK-116-00002W	不明容器	ケヤキ	372	SD-201	第3層	W-309	町富資	PEG 含浸法
34	唐古・鍵遺跡	116	KEK-116-00003W	用途不明品	ケヤキ	402	SK-201	第4層		町富資	PEG 含浸法
35	唐古・鍵遺跡	116	KEK-116-00004W	鍬	コナラ属アカガシ亜属	372	SD-201	第3層	W-314	町富資	PEG 含浸法
36	唐古・鍵遺跡	116	KEK-116-00005W	丸太杭	コナラ属アカガシ亜属	393	SK-201	第4層		町富資	PEG 含浸法

37	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00006R	用途不明品	ハンノキ属ハンノキ節	363	SD-201	第3層	W-307	町直宮	PEG含浸法
38	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00007R	不明容器	ケヤキ	327	SK-151	第2層	W-201	町直宮	PEG含浸法
39	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00008W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	372	SD-201	第3層	W-312	町直宮	PEG含浸法
40	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00009R	櫛	サカキ	169	SK-52	第1層	W-106・109	町直宮	PEG・真空凍結乾燥法
41	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00010R	容器未成品	ケヤキ	373	SK-152	第3層	W-301	町直宮	PEG含浸法
42	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00011W	鍬	コナラ属アカガシ亜属	360	SD-201	第3層		町直宮	PEG含浸法
43	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00012R	不明農具	ケヤキ	359	SD-201	第2層		町直宮	PEG含浸法
44	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00015W	下駄	モクレン属	122	SD-52	第5層	W-503	町直宮	PEG含浸法
45	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-1000IW	板A	コナラ属アカガシ亜属	376	SK-201	第2層	W-201	町直宮	PEG含浸法
46	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-1000ZR	棒A	コナラ属クヌギ節	390	SD-201	第3層		町直宮	PEG含浸法
47	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-1000ZW	板A	サカキ	169	SK-52	第1層	W-108	町直宮	PEG含浸法
48	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-1000ER	板A	ヒノキ	98	SD-51	第4層		町直宮	PEG含浸法
49	唐古・鍵遺跡	立会	R-201516-001R	鍬	コナラ属アカガシ亜属	2	SD-201	第3層		町直宮	PEG含浸法

平成29年度

No.	遺跡名	次数	製品コード	製品名	樹種	台帳No.	遺構名	層位	取上番号	保存処理機関	保存処理方法
1	保津・宮古遺跡	27	HTW-027-0000W	棒杭	マツ属複維管束亜属	83	SK-51	第8層	W-806	町直宮	ラクチトール含浸法
2	保津・宮古遺跡	27	HTW-027-0001R	不明建築材	マツ属複維管束亜属	88	SK-51	第8層	W-823	町直宮	ラクチトール含浸法
3	保津・宮古遺跡	27	HTW-027-1000IR	板B	コナラ属クヌギ節	65	SK-51	第8層	W-803	町直宮	ラクチトール含浸法
4	保津・宮古遺跡	31	HTW-031-0000ZW	円形曲物（井戸枠）	ヒノキ	22	SK-2052	第5層	W-501	大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
5	保津・宮古遺跡	31	HTW-031-0000ER	円形曲物（井戸枠）	ヒノキ	20	SK-2052	第4層	W-401	大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
6	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0001R	円形曲物	スギ	4	SD-01	第1層	W-101	大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
7	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0002R	蓋	ヒノキ	4	SD-01	第1層	W-102	町直宮	PEG含浸法
8	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0003W	柱	クリ	4	SD-01	第1層	W-104	町直宮	PEG含浸法
9	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0004R	不明建築材	ヒノキ	3	SD-01	第1層		町直宮	PEG含浸法
10	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0005R	用途不明品	モミ属	3	SD-01	第1層		町直宮	PEG含浸法
11	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0006R	不明建築材	スギ	3	SD-01	第1層		町直宮	PEG含浸法
12	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0007W	用途不明品	ヒノキ	4	SD-01	第1層	W-103	町直宮	PEG含浸法
13	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0008R	用途不明品	スギ	5	SD-01	第2層		町直宮	PEG含浸法
14	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0009R	用途不明品	ヒノキ	3	SD-01	第1層		町直宮	PEG含浸法
15	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-0001IR	用途不明品	ヒノキ	3	SD-01	第1層		町直宮	PEG含浸法
16	保津・宮古遺跡	43	HTW-043-1000IR	板A	モミ属	3	SD-01	第1層		町直宮	PEG含浸法
17	寺内町遺跡	8	JKC-008-0000ZW	円形曲物（井戸枠）	未同定	52	SK-51	第10層	W-1004	町直宮	PEG含浸法
18	唐古・鍵遺跡	47	KRK-047-0001ER	不明建築材	クリ	225	SD-2101	第8層	W-965	大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
19	唐古・鍵遺跡	47	KRK-047-0001OR	不明建築材	コナラ属アカガシ亜属	389	SD-2101	第8層	W-873	大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
20	唐古・鍵遺跡	47	KRK-047-0000OW	結縛車	同定不可	412	SD-2104B	第13層		大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
21	唐古・鍵遺跡	76	KRK-076-0000OR	櫛	ケヤキ	447	SK-1113	第5層		大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
22	唐古・鍵遺跡	85	KRK-085-0000IR	不明建築材	ヒノキ	129	SD-102	第6層		町直宮	PEG含浸法

23	唐古・鍵遺跡	85	KRK-085-00009#	不明建築材	ヒノキ	121	SD-102	第6層		町並資	PEG含浸法
24	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00002#	円形曲物	未同定	136	SD-71	第5-b層	#-551	大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
25	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00003#	栓（井戸枠）	コウヤマキ	241	SK-27	第10層	#-1001	大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
26	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00004#	栓（井戸枠）	コウヤマキ	236	SK-27	第8層	#-801	大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
27	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00005#	組底板	スギ	124	SD-71	第5層	#-501	大阪文化財研究所	トレハロース含浸法
28	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00006#	円形曲物底板	ヒノキ	238	SK-27	第5層	#-501	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
29	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00008#	井戸構成部材	コウヤマキ	237	SK-27	第9層	#-901	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
30	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00010#	井戸構成部材	コウヤマキ	237	SK-27	第9層	#-902	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
31	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00011#	井戸構成部材	ヒノキ	237	SK-27	第9層	#-903	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
32	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00012#	井戸構成部材	ヒノキ	237	SK-27	第9層	#-904	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
33	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00013#	井戸構成部材	ヒノキ	237	SK-27	第9層	#-905	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
34	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00014#	井戸構成部材	モミ属	237	SK-27	第9層	#-906	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
35	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00015#	井戸構成部材	ヒノキ	237	SK-27	第9層	#-907	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
36	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00016#	井戸構成部材	ヒノキ	237	SK-27	第9層	#-908	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
37	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00017#	井戸構成部材	ヒノキ	237	SK-27	第9層	#-909	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
38	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00018#	井戸構成部材	ヒノキ	237	SK-27	第9層	#-910	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法
39	唐古・鍵遺跡	118	KRK-118-00019#	井戸構成部材	ヒノキ	237	SK-27	第9層	#-911	文化財科学研究センター	トレハロース含浸法

（3）図面・写真の保管と資料撮影、写真のデジタル化、図書の受領

発掘調査に伴う現場写真と図面の点数については、下表のとおりである。

写真撮影は、企画展用の遺物、保存処理用木製品、重要考古資料目録の作成に伴う土器等の遺物の撮影をおこなった。

また、過去に撮影収蔵している唐古・鍵遺跡の出土品のカラーポジフィルムについてデジタル化をおこなった。

図書の受領は、平成28年度は801冊、平成29年度は778冊の寄贈を受けた。

【図面・写真の保管数量】

平成28年度

調査番号	遺跡名	調査次数	図面		35mm				デジタル	
					カラーポジ		モノクロネガ			
			現場	遺物	シート数	コマ数	シート数	コマ数	コンパクト	一眼
H28-01	舞ノ庄遺跡	第3次調査	2	0	1	12	1	12	12	28
H28-02	保津・宮古遺跡	第44次調査	8	0	4	67	2	66	57	59
H28-03	東井上遺跡	第2次調査	2	0	1	9	1	9	14	8
H28-04	唐古・鍵遺跡	第119次調査	137	8	30	589	17	592	581	196
H28-05	宮古北遺跡	第21次調査	20	7	8	154	5	156	171	0
H28-06	保津・城手逃	第3次調査	4	0	1	20	1	20	23	0
H28-07	保津・宮古遺跡	第45次調査	4	0	1	19	1	18	34	19
H28-08	多遺跡	第27次調査	4	0	1	14	1	14	35	27
H28-09	佐味遺跡	第3次調査	21	3	11	207	6	205	250	76
H28-10	唐古・鍵遺跡	第120次調査	11	0	4	68	2	68	65	0
H28-11	宮古北遺跡	第22次調査	7	0	3	57	2	56	70	0
H28-12	西代西遺跡	第1次調査	8	0	0	0	2	61	3	91
H28-13	唐古・鍵遺跡	第121次調査	33	0	0	0	7	253	493	0
H28-14	宮古北遺跡	第23次調査	30	7	17	325	9	324	262	282

H28-15	羽子田遺跡	第 40 次調査	5	0	0	0	1	31	43	0
S-201602	薬王寺南遺跡	試掘調査	5	0	0	0	1	35	5	25
R-201622	唐古・鍵遺跡	工事立会	5	0	0	0	1	18	0	60
計			306	25	82	1,541	60	1,938	2,118	871

平成 29 年度

調査番号	遺跡名	調査次数	図面		35 mm				デジタル	
					カラーポジ		モノクロネガ			
			現場	遺物	シート数	コマ数	シート数	コマ数	コンパクト	一眼
H29-01	保津・宮古遺跡	第 46 次調査	7	1	3	60	2	60	64	0
H29-02	箱海道	第 4 次調査	4	0	1	16	1	16	18	0
H29-03	薬王寺南遺跡	第 2 次調査	5	0	1	19	1	19	15	15
H29-04	保津・宮古遺跡	第 47 次調査	15	2	8	144	4	141	0	123
H29-05	保津・宮古遺跡	第 48 次調査	6	0	2	36	1	36	52	0
H29-06	富本遺跡	第 3 次調査	4	0	3	47	2	47	66	53
H29-07	薬王寺指定地	第 2 次調査	6	0	3	60	2	60	72	65
H29-08	唐古・鍵遺跡	第 122 次調査	25	0	9	165	5	179	91	0
H29-09	保津・宮古遺跡	第 49 次調査	2	0	0	0	0	0	13	12
H29-10	十六面・薬王寺遺跡	第 36 次調査	6	0	3	43	2	43	10	37
H29-11	佐味遺跡	第 4 次調査	23	8	13	245	10	330	0	322
H29-12	矢部中勝司遺跡	第 2 次調査	4	0	0	0	1	19	4	0
H29-13	唐古・鍵遺跡	第 123 次調査	5	0	0	0	1	29	22	0
H29-14	矢部遺跡	第 4 次調査	41	0	4	70	5	148	143	183
H29-15	タカツキ古墳	第 1 次調査	14	0	0	0	3	97	90	138
H29-16	寺内町遺跡	第 17 次調査	2	1	0	0	1	34	34	32
H29-17	小泉城兵遺跡	第 3 次調査	14	1	4	64	4	127	90	238
H29-18	保津・宮子遺	第 4 次調査	4	0	0	0	2	50	36	39
S-201701	羽子田遺跡	試掘調査	3	0	0	0	1	15	16	11
計			190	13	54	969	48	1,450	839	1,268

【写真撮影一覧】

平成 28 年度

種類	資料名・内容	仕様	カット数	媒体	備考
考古遺物	唐古・鍵遺跡　弥生土器・土製品・石器・木製品・骨角牙製品ほか	デジタル 645RAW デジタル 35RAW	53 247	DVD-R 11 枚	重要考古資料目録作成
	保津・宮古遺跡　第 27・43 次調査　木製品	デジタル 645RAW	6	DVD-R 1 枚	保存処理用
	平野氏屋敷跡　第 3 次調査ほか　木製品	デジタル 645RAW	32	DVD-R 1 枚	保存処理用
	唐古・鍵遺跡　第 3 次調査　弥生土器ほか 第 116 次調査　弥生土器・中世土器ほか	デジタル 645RAW	3	DVD-R 1 枚	秋季企画展用
	唐古・鍵遺跡　第 3 次調査　絵画土器・搬入土器・異形高坏ほか	デジタル 645RAW デジタル 35RAW	4 52	DVD-R 2 枚	春季企画展用
建造物	江戸時代　建造物（竹材部）	デジタル 35RAW	33	DVD-R 2 枚	報告書用

平成 29 年度

種類	資料名・内容	仕様	カット数	媒体	備考
考古遺物	唐古・鍵遺跡　土器文様・搬入土器・木製品ほか	デジタル 645RAW デジタル 35RAW	24 13	DVD-R 2 枚	重要考古資料目録作成ほか
	唐古・鍵遺跡ほか　木製品	デジタル 645RAW	13	DVD-R 1 枚	保存処理用
	唐古・鍵遺跡　展示品	デジタル 645RAW デジタル 35RAW	67 13	DVD-R 4 枚	常設展示図録用ほか
	唐古・鍵遺跡　展示品	デジタル 645RAW	51	DVD-R 2 枚	常設展示図録用
史跡公園	唐古・鍵遺跡史跡公園　遺構展示情報館ほか	デジタル 35RAW	21	DVD-R 2 枚	リーフレット用
	唐古・鍵遺跡史跡公園　空中撮影（動画含）	デジタル 35RAW ほか	9	DVD-R 2 枚	リーフレット用
古文書	寺川筋今里問屋場絵図	デジタル 645RAW	2	DVD-R 1 枚	町指定文化財

【デジタル化一覧】

平成 28 年度

内容	カラーポジ（4×5）	カラーポジ（6×4/6×7）	成果品
唐古・鍵遺跡　木製品（第 13・40 ～ 61 次）	33 枚	11 枚（うち 10 枚 淡色補正）	DVD-R 1 枚
唐古・鍵遺跡　木製品（第 61 ～ 93 次）	38 枚	12 枚	DVD-R 1 枚

平成 29 年度

内容	カラーポジ（4×5）	カラーポジ（6×4/6×7）	成果品
唐古・鍵遺跡　木製品・金属器・土製品	45 枚	4 枚	DVD-R 1 枚
唐古・鍵遺跡　鋳造関連遺物（石製鋳型・土製鋳型外枠）	26 枚	3 枚	DVD-R 1 枚

（４）埋蔵文化財センターの設置

平成 28 年７月、田原本町の埋蔵文化財行政における調査・研究・展示公開の機能を集約・一元化し、これまで蓄積してきた町内の埋蔵文化財を整備充実させることを目的として「田原本町埋蔵文化財センター」を設置するための条例を制定した。文化財保存課の事務をおこなう田原本町分庁舎を調査・研究の拠点とする「田原本町埋蔵文化財センター」、展示公開する唐古・鍵考古学ミュージアムと出土品を保管する収蔵庫を「分室」とした。また、田原本町埋蔵文化財センター２階には後述する特別収蔵庫を設置した。

これに伴い、唐古・鍵考古学ミュージアムは田原本青垣生涯学習センター条例の中に位置づけられていたが、これから削除し、田原本町埋蔵文化財センター設置条例に移行させた。

田原本町埋蔵文化財センター設置条例

（設置）

第１条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第３０条及び地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第２４４条の２第１項の規定に基づき、埋蔵文化財（出土品を含む。以下同じ。）の保護及び活用を図り、もって町民の教育、文化等の向上に資するため、田原本町埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）を設置する。

（名称及び位置）

第２条　センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名　称	位　置
田原本町埋蔵文化財センター	田原本町大字阪手３４７番地の１

（分室）

第３条　センターに埋蔵文化財を展示し、及び収蔵するための分室を置く。

２　前項の分室の名称及び位置は、次のとおりとする。

名　称	位　置
唐古・鍵考古学ミュージアム	田原本町大字阪手２３３番地の１
埋蔵文化財収蔵庫	田原本町９２６番地の１

（事業）

第４条　センターは、次に掲げる事業を行う。

(1) 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。

(2) 出土品、資料等の整理、保存及び収蔵に関すること。

(3) 埋蔵文化財に係る資料及び情報の収集、交換等に関すること。

(4) 出土品、資料等の展示及び公開に関すること。

(5) 埋蔵文化財の保護に係る理念の普及及び啓発に関すること。

(6) 前各号に掲げるもののほか、田原本町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認めること。

（職員）

第５条　センターに事務職員その他必要な職員を置くことができる。

（ミュージアムの休館日）

第６条　唐古・鍵考古学ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、臨時に開館し、又は休館することができる。

(1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日（以下「休日」という。）である場合は、その日後において、その日に最も近い休日でない日）

(2) １月１日から同月４日まで及び１２月２８日から同月３１日まで

（ミュージアムの開館時間等）

第７条　ミュージアムの開館時間は、午前９時から午後５時までとする。ただし、入館は、午後４時３０分までとする。

２　前項の規定にかかわらず、教育委員会は、必要であると認めるときは、開館時間及び入館時間を変更することができる。

（観覧料）

第８条　センターが展示する展示物の観覧料は、別表のとおりとする。

（観覧料の免除）

第９条　町長は、規則で定める要件に該当すると認めるときは、前条の観覧料を免除することができる。

（観覧料の還付）

第１０条　既納の観覧料は、還付しない。

（ミュージアムの入館の制限）

第１１条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑となる物品を携帯する者

(2) 動物類（身体障害者補助犬法（平成１４年法律第４９号）に

規定する身体障害者補助犬及び教育委員会が必要と認める動物類を除く。）を携帯する者

(3) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗者しくは公益を害するおそれがあると認める者

(4) 前３号に掲げる者のほか、ミュージアムの管理運営上支障があると認める者

（損害賠償）

第１２条　ミュージアムを利用する者は、その責めに帰すべき事由により、施設等又は資料を汚損し、損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。

（資料の特別利用の許可）

第１３条　学術研究等のため、センターの資料の撮影、模写、模造、熟覧等（以下「特別利用」という。）をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

２　教育委員会は、前項の許可にセンターの管理及び資料の保全のため必要な範囲において条件を付けることができる。

３　教育委員会は、特別利用が次の各号のいずれかに該当する場合は、特別利用を許可しないものとする。

(1) 資料の保全上支障があるとき。

(2) センターの管理上支障があるとき。

(3) 前２号に掲げるもののほか、教育委員会が特別利用をすることが適当でないと認めるとき。

（委任）

第１４条　この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、平成２８年７月１日から施行する。

（田原本青垣生涯学習センター条例の一部改正）

２　田原本青垣生涯学習センター条例（平成１６年９月田原本町条例第１１号）の一部を次のように改正する。

［次のよう］略

別表（第８条関係）

区　分		観覧料	
		常設展示の場合	特別展示の場合
個　人	高校生、大学生等	100 円	町長が別に定める額
	一　般	200 円	
団体（20 人以上）	高校生、大学生等	50 円	
	一　般	150 円	

備考

１　高校生、大学生等とは、高校生、大学生及びこれらに準ずる者をいう。

２　中学生（これに準ずる者を含む。）以下は、無料とする。

（５）特別収蔵庫の設置

田原本町埋蔵文化財センターでは、唐古・鍵遺跡出土遺物を重要文化財に指定する準備の一環として重要文化財の収蔵に対応するための特別収蔵庫の設置工事をおこなった。工事は、田原本町埋蔵文化財センター２階の１室を改修するもので、鉄製防火扉と耐火性のある二次壁を備えた前後２室構成とした。

【特別収蔵庫　前室】

【特別収蔵庫　後室】

後室（約 20.5 ㎡）は調湿機器・エアタイト扉を備えた木器収蔵室とし、前室（約 16.6 ㎡）は木製品以外の土器・石器等を収納するものである。また、不使用となっていた埋蔵文化財センター２階の身体障害者用トイレ等のスペースを収蔵室に改修した。

これらの工事は、平成 28 年度の国庫補助事業として実施し、平成 29 年３月 16 日に竣工した。

（６）唐古・鍵遺跡の遺物の移管

唐古・鍵遺跡の初期の調査は、田原本町に調査体制が整っておらず、奈良県立橿原考古学研究所に委託して唐古・鍵遺跡第３～ 12 次調査を実施したもので、遺物は調査後、研究所によって整理が進められていた。田原本町では、唐古・鍵遺跡の出土品の重要文化財指定に向けた遺物選定と調査を平成 25 年度から進めており、研究所とは「唐古･鍵遺跡出土品等資料に関する協約書」と「唐古・鍵遺跡出土品等資料の利用に関する取扱要領」を交わし、該当次数分の遺物 1,241 箱の返却を平成 29 年３月に受けた。遺物は大半が弥生土器で、このほか石器・木製品・獣骨・植物サンプル・土壌サンプル等がある。また、第３次調査の遺物が 840 箱で、全体の 2/3 を占めた。遺物は、田原本町 926-1 にある埋蔵文化財収蔵庫（弥生土器はＣ棟１階、それ以外はＢ棟）に収蔵した。またこれに伴い、地震対策として、遺物箱はアングルキャリーに載せるように収蔵方法を変更した。

【移管遺物箱数】

調査次数	通常遺物（箱数）	有機遺物（箱数）	金属遺物（箱数）	計
第３次	810	30	0	840
第４次	4	2	0	6
第５次	88	13	0	101
第６次	0	1	0	1
第７次	18	1	0	19
第８次	147	11	0	158
第９次	10	0	0	10
第 10 次	1	1	0	2
第 11 次	92	1	1	94
第 12 次	9	1	0	10
計	**1,179**	**61**	**1**	**1,241**

２．遺跡・文化財の保護

（１）町指定文化財

平成 29 年度において、田原本町 今里自治会が所有する絵図１件を田原本町文化財保護審議会に諮問した。当審議会の答申を受け、町の指定文化財として台帳に登録した。本件の指定により、町の指定文化財は８件となった。また、指定の周知・紹介のため田原本町立図書館においてミニ展示を開催した（第Ⅲ部　P.142 参照）。なお、指定した絵図は今里自治会から平成 30 年１月 18 日付で寄託申込があり、同年２月１日から田原本町埋蔵文化財センター２階特別収蔵庫で保管している。

【田原本町文化財保護審議会　委員】

分　野	氏　名	備　考
考　古	寺澤　薫	委員長
彫　刻	狩木 新博	

分　野	氏　名	備　考
民　俗	溝西　勉	
歴　史	谷山 正道	

分　野	氏　名	備　考
建造物	清水 重敦	

【町指定文化財一覧】

台帳番号	種別	名称及び員数	所有者	時代	指定年月日
1	有形文化財（考古資料）	「楕鬼」が描かれた土器片　3点 唐古・鍵遺跡第47・77次調査出土	田原本町	弥生時代（中期）	平成20年3月24日
2	有形文化財（考古資料）	翡翠製勾玉と鳴石容器（赤付）一式 唐古・鍵遺跡第90次調査出土 1、翡翠製勾玉　2点 1、鳴石容器　1点 1、容器蓋（土器壺形）1点	田原本町	弥生時代（中期）	
3	有形文化財（彫刻）	木造十一面観音立像　一軀	法貴寺自治会	室町時代（天文10年／1541年）	
4	有形文化財（古文書）	平野権衡（長善）寛豊臣秀吉感状 1、平野権衡宛羽柴秀吉判物（天正十一年六月九日）折紙1通 2、平野権衡宛豊臣秀吉朱印状（文禄四年八月十七日）折紙1通 附　収納箱 内箱・外箱　包紙（2は2枚有り）	籠岡洋介	1、安土桃山時代（天正11年／1583年） 2、安土桃山時代（文禄4年／1595年）	平成20年12月17日
5	有形文化財（古文書）	寶陀山補巌禅寺納帳 1、寶陀山補巌禅寺納帳　その1 2、寶陀山補巌禅寺納帳　その2 3、寶陀山補巌禅寺納帳　その3 4、寶陀山補巌禅寺納帳　その4 附　補巌禅寺開山支状	補巌寺	1、室町時代（明応7年／1498年） 2、室町時代（大永末年頃） 3、室町時代（永禄末年頃） 4、室町時代（元亀3年／1572年） 附　江戸時代	平成22年12月22日
6	有形文化財（古文書）	小林家文書　1,132点 附　諸書納入木箱　1点	小林敏良	桃山～江戸時代 附　江戸時代（天保8年／1837年）	平成24年9月27日
7	無形文化財（民俗）	矢部の「鋼踊」	矢部自治会	明治以前～現代	平成27年11月17日
8	有形文化財（古文書）	寺川筋今里問屋場絵図　1鋪	今里自治会	江戸時代（天保10年／1839年）	平成30年1月12日

寺川筋今里問屋場絵図

種別	有形文化財（古文書）
名称及び員数	寺川筋今里問屋場絵図　1鋪
所在地	磯城郡田原本町大字今里
所有者	今里自治会
所有者の住所	磯城郡田原本町大字今里
寸法	縦　63.6 cm・横　39.7 cm
時代	江戸時代（天保10年／1839年）
品質・形状	紙本墨書・淡彩
補修・損傷等	一部虫喰・欠損
説明	江戸時代において、大和川の舟運は、「天下の台所」となった大坂と大和とを結ぶ物資輸送の大動脈として重要な役割を果たしていた。河内と大和の国境付近に位置する亀の瀬を境に、河内側には剣先船、大和側に魚梁船が就航しており、大坂から上り荷物（干鰯・油粕といった金肥や塩など）と、大和からの下り荷物（綿をはじめとする「所々産物之品」）の輸送にあたっていた。 魚梁船は、剣先船よりもやや小型（長8間半・幅5尺）の平底の船で、その支配権は、慶長15（1610）年に公認されて以降、一時期を除いて平群郡立野村の安村喜右衛門が握っていた。江戸時代中・後期の絵図の記載によれば、魚梁船は、

【寺川筋今里問屋場絵図】

立野村の船着場から、初瀬川筋では５里、寺川筋では４里半、飛鳥川筋では４里、曽我川筋では５里半、佐保川筋では３里半の地点までそれぞれ遡上しており、天神・板屋ケ瀬・川合（初瀬川筋）、今里（寺川筋）、松本（飛鳥川筋）、筒井（佐保川筋）などに荷継問屋が存在していたことが知られる。これらのうち、取引荷物の量が最も多かったのが、今里の荷継問屋であった。

今里の問屋について、享保９（1724）年の式下郡石見村の「諸色明細帳」（三宅町石見区有文書）には、「寺川東岸舟問屋　石見村領　今里村庄兵衛　是ハ舟六，七拾艘、但壱船ニ付拾駄より拾五駄積、大坂より登り船賃壱駄ニ付弐匁弐分、井ニ大坂へ下り船賃壱駄ニ付壱匁六分、但石見村より問屋迄道法五町」という記載が見られ、当時、今里村の庄兵衛が「寺川東岸」の「石見村領」で「舟問屋」（荷継問屋）を営んでいたことが知られる。

それから１世紀余の後、天保10（1839）年９月30日に今里村で作成された本絵図は、当地に存在した問屋場などが描かれた彩色の絵図である。

問屋場は、「石見村領字庵ノ口」にあり、寺川筋の東側、今里橋を通る道筋の南側に位置する。そのエリアは、黄色で着色されており、寺川筋東岸に存在した「荷揚場」と、そこから階段をのぼった平地に設けられた「弐間四方」の「帳場」、「庇」付きの大きな「土蔵」と小さな「土蔵」、計11ヶ所の「牛馬繋杭」の位置が、それぞれ示されている。また、「此黄色之処荷揚場共一圓貸地　此坪数合弐百七拾六坪　但石見村領字庵ノ口」という記載が見られることから、石見村「字庵ノ口」の土地を借りる形で、「今里問屋」が営業していたことがうかがえる。

このほか、本絵図には、当時荷継問屋を営んでいたと考えられる今里村の権兵衛の屋敷地や居宅なども描かれている。（『田原本町史』本文編では、「舟がつくつく権兵衛さんのかどに」という当地の里謡が紹介され、「権兵衛さんは吉原氏で浜の問屋であった」と指摘されている）。

今里の荷継問屋の取引荷物の量は、他の川筋の荷継問屋のそれを大きく凌駕しており、田原本と中街道で結ばれた当地の浜は、物資の集散地として栄えた田原本の外港として、大きな役割を果たしていた。その後、大和川の舟運は、明治中期の鉄道の開通に伴って廃絶の運命を余儀なくされ、さらに寺川筋の改修などによって景観も変貌するようになってしまったが、本絵図を通して、賑わいを呈していた時期の当地の姿をよくうかがうことができる。

以上のように、本絵図は、本町にとってまことに貴重なものであり、こうした問屋場の構成がうかがえる絵図が、他の川筋については見つかっていないことからも、価値の高いものであるということができる。

〔備考〕

（１）　当地の浜は、これまで一般に「今里浜」と称されてきたが「石見領内」に存在したことから「岩見浜」と記した史料も見られる（「広告」『新訂王寺町史』本文編359頁掲載）。

（２）　剣先船は、正保３（1646）年に公認された古剣先船211艘と、延宝３（1675）年に追加公認された100

艘とからなり、魚梁船は約70艘を数えた。

（3） 初瀬川・寺川・飛鳥川などの川筋の荷継問屋は、奈良盆地における綿作をはじめとする商業的農業の進展、商品流通の進展に対応して、17世紀の中頃から形成されるようになったと考えられる。ちなみに、元文3（1738）年の「南都御番所江差上候書物写」には、「（葛下郡）藤井村庄兵衛義ハ、慶安年中和州長谷寺御再興之材木大坂より大和川筋を引登セ申候、其節は未タ川筋ニ問屋と申義無御座候」という記載が見られる（『新訂王寺町史』資料編737頁）。

（4） 今里の正福寺には、昭和48（1973）年の時点で、「今里村問屋庄兵衛」から「享保十三戌申正月吉日」に寄進された石灯籠が存在していた（吉田茂行氏『旧磯城郡川東村金石銘文集（その二）』）。同61（1986）年に刊行された『田原本町史』本文編785頁にもこれに関する記述が見られるが、この灯籠は現存していない。

（5） 今里の問屋は、平群郡立野村の安村氏が支配していた魚梁問屋の傘下の荷継問屋として営業しており、天保9（1838）年9月の史料（「約定書之事」）には、「魚梁荷捌所今里問屋」という表記が見られる（『田原本町史』史料編第2巻108頁）。これとは別に、「徒本鍵屋七兵衛」が今里村で「亀瀬藤井庄兵衛」からの「送り荷物」の「取次問屋」を営むようになったことを示す文政4（1821）年12月の史料（『証文事』）も存在しており（廣瀬瑞弘氏『田原本郷土史』106～107頁）、葛下郡藤井村の問屋庄兵衛は、大坂から藤井浜に積み登せられてきた荷物を陸送していたとされてきたが、この当時、川船も輸送手段とするようになっていたのではないかと思われる。

（6） 今里区には、天保5（1834）年から慶応2（1866）年にかけての「浜余内銀割合帳」が計7冊伝存しており、問屋の収益の一部が「浜余内銀」として今里の村人に分配されていたことがうかがえる。

（7） 幕末から明治前期にかけて、川船を田原本まで遡航させようとする動きも見られた。嘉永5（1852）年には、飛鳥川筋の竹田村（現西竹田）から水路を開削して田原本まで魚梁船を遡航させようとする企てがあり（『田原本町史』史料編第2巻152～153頁）、明治6（1873）年と同16（1883）年には、寺川筋の田原本に新浜を拵えて当地まで川船を遡上させようとする計画が立てられたが（同756頁）、いずれも実現しなかった。

（2）史跡公園開園準備

○復元楼閣の修理

平成6年6月に唐古池西南隅に楼閣を復元し、平成9年と18年には差茅や棟飾りの一部修理を実施したが、築23年が経過し傷みが激しくなったことから、史跡公園の開園に併せて全面的な補修工事を実施した。修理期間は平成29年12月1日～平成30年3月30日まで、修理内容は下記のとおりである。

1．2層の屋根の茅葺を除去し、新たに茅を葺き直す作業。さらに屋根四隅の茅に厚みをもたせ、反りのあるような形態にちかくする作業。これは、復元楼閣の元になった絵画土器について第4の破片が発見され、軒先に反りがあることが判明したため、それに合わせるようにした。

2．1階の網代壁を新たに作成し、取り付ける作業。

3．躯体全体を新たに古色塗りする作業。

【修理中の復元楼閣】

【最上層の修理】

【修理後の復元楼閣】

【復元楼閣見学会】

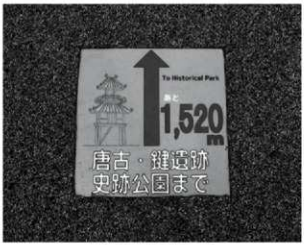
4．その他、窓や扉の傷んだ箇所（板材のひび割れ、歪み等）の修理。

また、この修理期間中の平成 30 年 3 月 17・18 日には、「復元楼閣見学会」を開催して、467 名の見学者が訪れた。

○路面案内板等の設置

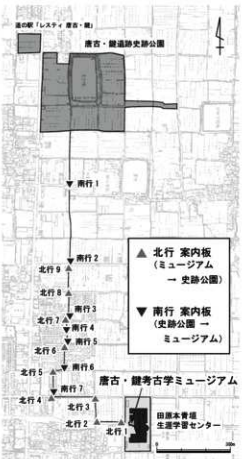
唐古・鍵考古学ミュージアムと唐古・鍵遺跡史跡公園の連携を図れるように、徒歩ルートの設定と路面案内板の設置工事をおこなった。ミュージアムと史跡公園の距離は、徒歩ルートにして約 1.8 kmあり、徒歩での安全な道の確保が課題となっていた。ミュージアムがある「阪手北」と史跡公園がある「鍵」との間には「小阪」集落があり、住宅街の中を抜けていくコースとなった。住宅街は曲がり角が多く、往復で設置する路面案内板は計 16 ヶ所となった。案内板のデザインは、唐古・鍵遺跡出土品や田原本青垣生涯学習センターをアレンジし、目的地までの距離を示すようにした。

また、これまで復元楼閣の駐車場への案内として利用していた国道 24 号に設置していた国道標識についても、唐古・鍵遺跡史跡公園・道の駅の案内板に変更した。



【路面案内板（北行 1）】

【路面案内板（南行 7）】



【路面案内板設置位置】

○体験学習・イベント用用品の製作

唐古・鍵遺跡史跡公園での体験学習や各種イベントで使用する貫頭衣や石斧等を製作した。貫頭衣は、白ベースの大 25 着・中 30 着・小 40 着と、紫や赤など彩色の特別仕様 5 着を製作した。また、石斧は、太型蛤刃石斧と柱状片刃石斧、扁平片刃石斧（柄とも）各 2 本を製作した。

【石斧復元品】

○わらアートの試作

唐古・鍵遺跡史跡公園開園後に開催予定の「弥生のムラまつり In 唐古・鍵」での内容を検討し、実施可能かどうか検討するため、唐古・鍵遺跡史跡公園ボランティアとともにわらアートの制作実験をおこなった。必要資材（わらや骨材・道具）や意匠、規模、制作日数と労力等の検討をおこなった。１グループ７名前後で、高床倉庫やシカ、イノシシを制作した。規模は最大2.5ｍで、ほぼ１日で制作できることを確認した。

【わらアート（高床倉庫・シカ・イノシシ）】

○副読本の製作

町内小学校児童が唐古・鍵遺跡史跡公園で校外学習するにあたり、参考とするための副読本を「地方創生推進交付金」の採択を受け作成した（総合政策課）。作成にあたっては、町内５小学校の教諭から担当者を選任し、中心に進めた。内容は、小学校の中・高学年を対象とし、唐古・鍵遺跡史跡公園の概要（マップ）と、中学年での自然観察・写生、高学年での歴史学習・総合的な学習に利用できるものとした。また、ミュージアムとも関連づけられるように展示品も掲載した。冊子は、上記内容を全て網羅したものと、自然観察・写生編、歴史学習編の３種を作成した。

【小学校副読本】

○柱建て体験の試行

唐古・鍵遺跡史跡公園の開園前に、弥生時代大型建物を想定した立柱体験が可能かどうか検討するため、唐古・鍵遺跡南側にある町立北小学校６年生（32人、２班で対応）を対象に実施した。柱は唐古池で伐採した直径25㎝・長さ４ｍのものを２本、柱穴も２つ用意した。各班それぞれ１本の柱をロープで曳き、柱穴に落とし込み、立柱した。また、大型建物の大きさを実感するため、柱配置図を参考に直径30㎝・長さ50㎝程度の柱を寸法どおりに並べる体験や、復元した石斧での伐採体験を実施した。

【柱建て体験】

【柱並べ体験】

唐古・鍵遺跡史跡公園条例

（設置）

第１条　唐古・鍵遺跡を町民の誇るべき歴史遺産として次世代に確実に引き継ぐこと並びに地域の歴史学習の場及び町民の憩いの場を提供することを目的として、唐古・鍵遺跡史跡公園（以下「史跡公園」という。）を設置する。

（名称及び位置）

第２条　史跡公園の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
唐古・鍵遺跡史跡公園	田原本町大字唐古５０番地の２

（施設）

第３条　史跡公園には、次に掲げる施設を設ける。

（1）遺構展示情報館

（2）休憩所

（3）復元楼閣

（4）屋外遺構展示施設

（5）弥生の建物広場

（6）生活体験広場

（7）多重環濠エリア

（8）弥生の林エリア

（9）多目的広場

（管理）

第４条　史跡公園は、田原本町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が管理する。

２　前項の規定にかかわらず、史跡公園の全部又は一部の管理は、地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第２４４条の２第３項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）に行わせることができる。

（開園時間及び休園日）

第５条　史跡公園の開園時間及び休園日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

開園時間	午前９時から午後５時まで。ただし、入園することができる時間は、午前９時から午後４時３０分までとする。
休園日	（１）毎週月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日（以下「休日」という。）である場合は、その日後において、その日に最も近い休日でない日） （２）１月１日から同月４日まで及び１２月２８日から同月３１日まで

２　前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て開園時間及び休園日を変更することができる。

（指定管理者が行う業務）

第６条　指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

（1）史跡公園の維持管理及び運営に関する業務

（2）史跡公園の利用の促進に関する業務

（3）史跡公園の使用に係る行為の許可等に関する業務

（4）前３号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務

（行為の制限）

第７条　史跡公園において次に掲げる行為をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。許可された事項を変更しようとするときも、同様とする。

（1）物品の販売、募金その他これらに類する行為をすること。

（2）業として写真の撮影又はこれに類する行為をすること。

（3）興行を行うこと。

（4）競技会、展示会、集会その他これらに類する催しのため、史跡公園の全部又は一部を独占して使用すること。

（5）前各号に掲げるもののほか、教育委員会が史跡公園の管理上特に必要があると認める行為

２　教育委員会は、前項各号に掲げる行為が次の各号のいずれかに該当するときは、許可をしないものとする。

（1）公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがあると認められるとき。

（2）風致を害するおそれがあると認められるとき。

（3）暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成３年法律第７７号）第２条第２号に規定する暴力団の財産上の利益となり、又はその活動を助長するおそれがあると認められるとき。

（4）前３号に掲げるもののほか、史跡公園の管理に支障があると認められるとき。

３　教育委員会は、史跡公園の管理上必要があると認めるときは、第１項の許可に条件を付することができる。

（許可の取消し等）

第８条　教育委員会は、前条第１項の許可を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、許可を取り消し、若しくは同条第３項の規定により許可に付した条件を変更し、又は行為の中止若しくは退去を命ずることができる。

（1）この条例又はこの条例に基づく規則等の規定に違反したと認められるとき。

（2）前条第２項各号のいずれかに該当することとなったとき。

（3）前条第３項の規定により許可に付した条件に違反したと認められるとき。

（4）偽りその他不正の手段により許可を受けたと認められるとき。

（5）災害その他の事故により許可された行為の中止等の必要があると認められるとき。

(行為の禁止)

第９条　何人も、史跡公園においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、教育委員会の許可を受けた場合は、この限りでない。

(1) 史跡公園を損傷し、又は汚損すること。

(2) 竹木を伐採し、又は植物をみだりに採取すること。

(3) 土地の形質を変更すること。

(4) 鳥獣類及び魚類を捕獲し、又は殺傷すること。

(5) はり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。

(6) 立入禁止区域に立ち入ること。

(7) 指定された場所以外の場所へ車両を乗り入れ、又は止め置くこと。

(8) 史跡公園を第１条の目的以外に使用すること。

(9) ごみその他の汚物又は廃物を捨て、又は放置すること。

(10) 火気の使用その他危険な行為をすること。

(11) 前各号に掲げるもののほか、史跡公園の管理に支障があると認められる行為をすること。

(行為の中止又は退去)

第１０条　教育委員会は、第７条第１項各号又は前条各号に掲げる行為を許可なく行う者に対し、行為の中止又は退去を命ずることができる。

(使用の禁止又は制限)

第１１条　教育委員会又は指定管理者は、次に掲げるときは、区域を定めて史跡公園の使用を禁止し、又は制限することができる。

(1) 史跡公園の損傷その他の理由により、その使用が危険であると認められるとき。

(2) 史跡公園に関する工事等のため、やむを得ないと認められるとき。

(3) 前２号に掲げるもののほか、史跡公園の管理上必要と認められるとき。

(使用料)

第１２条　第７条第１項の許可を受けて史跡公園を使用する者は、町長に対し、使用料を町長が定める期日までに支払わなければならない。

２　前項の使用料の額の算定に関しては、田原本町都市公園条例（平成５年４月田原本町条例第９号）第９条の規定による使用料の額の算定の例による。

(使用料の減免)

第１３条　町長は、規則で定めるところにより、使用料を減額し、又は免除することができる。

(使用料の不還付)

第１４条　既に支払った使用料は、還付しない。ただし、規則で定めるところにより、使用料の全部又は一部を還付することができる。

(原状回復の義務)

第１５条　史跡公園を使用する者は、その使用を終了したとき、又は第８条の規定により許可を取り消されたときは、直ちに史跡公園を原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会が原状に回復する必要がないと認めるときは、この限りでない。

(損害賠償)

第１６条　故意又は過失により、史跡公園を損傷し、若しくは汚損し、又は滅失した者は、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

(秘密保持義務)

第１７条　指定管理者若しくは指定管理者であった者又は史跡公園の業務に従事している者若しくは従事していた者は、その業務に関して知り得た秘密を他に漏らし、又は不当な目的のために利用してはならない。

(読替規定)

第１８条　第４条第２項の規定により史跡公園の全部又は一部の管理を指定管理者に行わせる場合は、第７条から第１０条まで及び第１５条中「教育委員会」とあるのは「指定管理者」と読み替えるものとする。

(委任)

第１９条　この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

(施行期日)

１　この条例は、規則で定める日から施行する。

（平成３０年規則第４号で平成３０年４月１７日から施行）

(準備行為)

２　指定管理者の指定に関する手続その他この条例を施行するために必要な準備行為は、この条例の施行前においても、行うことができる。

○唐古・鍵遺跡史跡公園の条例制定と指定管理者の指定

平成 29 年 8 月に唐古・鍵遺跡史跡公園の条例を制定し、施行を翌年開園の 4 月 17 日とした。

史跡公園は、国・県の補助による公園整備区域と、整備地の東側に隣接する町単独で整備した多目的広場・駐車場からなる。この中で、教育委員会の所管であるが、管理運営については指定管理者に委託できることとした。指定管理者には京阪園芸株式会社を選定し、5 年間の委託とした。

また、教育委員会では、唐古・鍵遺跡史跡公園の活用基本方針を定めた。この中でこの公園を唐古・鍵遺跡の「弥生力」を地域文化として活かす公園として位置づけ、目標実現のための 5 つの柱をつくり、どのような方向性で取り組んでいくかという方針を策定した。

【唐古・鍵遺跡史跡公園活用基本方針】

― 唐古・鍵遺跡史跡公園の目標 ―

唐古・鍵遺跡の「弥生力」を地域文化として活かす公園

唐古・鍵遺跡史跡公園は、これまでの発掘調査の成果に基づく整備により、地域の中で長年営まれてきた遺跡の歴史・文化・自然を知り、またそれを体験する公園である。
唐古・鍵遺跡の「弥生力」を、本町の地域文化として活かしていくことを基本とする。また、唐古・鍵考古学ミュージアムや史跡公園に隣接する道の駅との相乗効果による観光拠点を創出するとともに、来園者に親しまれる憩いの場、コミュニティの場として、住民とともに賑わいと活力のあるまちづくりを推進する。

目標実現のための5つの柱	1．歴史・文化・自然を知る・体験できる公園	(1)・(2)・(3)・(4)
	2．継続的な発掘調査による遺跡情報を発信する公園	(1)・(4)
	3．弥生の風景を再現する公園	(1)・(2)・(3)・(4)
	4．地域住民やボランティア等が参画する公園	(1)・(2)・(3)・(4)
	5．賑わいを創出する公園	(2)・(4)

活用基本方針

(1)	教育的・社会教育的活用	唐古・鍵遺跡は、弥生時代を代表する弥生時代一の史跡であり、この遺跡がもつ歴史的・文化的な価値をテ子どもから大人まで知ってもらえるように活用。
(2)	地域コミュニティーとしての活用	唐古・鍵遺跡は、初が国を定め史的資源であり、その一部である史跡公園は地域住民らの地域アイデンティティーを形成する場として活用。
(3)	歴史的景観（まちづくり）としての活用	唐古・鍵遺跡は、先人たちが現在まで残してきた遺産で あり、公園用地を含め、そこにある歴史的な景観の維持と弥生の風景の再現を目指しながら活用。
(4)	観光的（地域資源）活用	唐古・鍵遺跡は、桜井市纒向遺跡とともに邪馬台国所在地論争の１遺跡であり、古代史ファンが訪れる重要遺跡として地域連携を図りながら活用。

3．シンポジウム

（1）桜井市・田原本町共催シンポジウム

田原本町 唐古・鍵遺跡と、桜井市 纒向遺跡を活用し、多くの人々に両遺跡や市町を知ってもらい現地を訪れ、その歴史を学んでいただくことを目的とし、平成 29 年度に田原本町と桜井市の共催によるシンポジウムを開催した。シンポジウムは事前予約制で、当日の聴講者数は約 200 名であった。

桜井市・田原本町共催シンポジウム
「卑弥呼のクニを探る
―考古学が発信するまちづくり―」

開催日：平成 30 年 1 月 21 日（日）
会　場：東建ホール・丸の内（愛知県名古屋市）
主　催：桜井市・田原本町
後　援：読売新聞社

【シンポジウム　資料】

プログラム

10:00	開　場
10:55～	開会挨拶
11:00～	記念講演会 「日本の遺跡活用と観光」 五頭和男氏（国土交通省観光政策審議官兼観光庁長官）
12:00～	昼　食
13:00～	基調報告 「弥生研究最前線 ―唐古・鍵遺跡―」 藤田三郎（加茂市教育委員会事務局　次長）
13:50～	基調報告 「纒向遺跡における調査研究と活用の今」 橋本雅豊（奈良県教育委員会事務局 文化財課長）
14:40～	休　憩
15:00～	シンポジウム 「遺跡を活かしたまちづくり ―唐古・鍵、纒向の未来―」 司会・進行　朝光新聞大阪本社地方部次長　梨口和俊氏 パネリスト　広瀬和雄 石井克己：松原芸術 田原本町長：森　哲也 藤田三郎・橋本雅豊
16:00～	閉会挨拶

【シンポジウム　プログラム】

【シンポジウム　会場】

4．講座

平成 28・29 年度では、小中学生向け講座としてチャレンジ子ども弥生探検隊、一般向け講座として唐古・鍵考古学ミュージアム講座をそれぞれ開催した。

【チャレンジ子ども弥生探検隊】

平成 28 年度

実施日		内容		会場	参加者数
7月28日（木）	午前	体験講座	ミニ銅鐸づくり	工作室	5名
	午後				3名
8月10日（水）	午前				8名
	午後				7名
8月5日（金）	午前		網代編みのコースターづくり	美術室	9名
	午後				3名
3日間		6講座			35名

平成 29 年度

実施日		内容		会場	参加者数
8月3日（木）	体験講座	ミニ銅鐸づくり		工作室	9名
8月4日（金）		組紐ストラップづくり		工作室	23名
2日間		2講座			32名

【平成 28 年度　網代編みのコースターづくり】

【平成 29 年度　ミニ銅鐸づくり】

【唐古・鍵考古学ミュージアム講座】

実施日		内容	講師	受講者数
平成28年度	2月25日（土）	「弥生時代の土器製作―民族考古学的研究から―」	立命館大学 大学院 長友 朋子 氏	59名
平成29年度	7月23日（日）	「弥生・古墳時代の炊飯方法」	北陸学院大学 小林 正史 氏	45名

5．学校教育等への支援

（1）小学校出前授業

町内小学校から依頼を受け、総合的学習の時間として、以下内容の出前授業をおこなった。これらの児童の作品や学習成果は、各年度の１月下旬頃に開催した「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」にて公開した。

【出前授業】

平成28年度

実施日	学校・学年	児童数	内容
5月11日（水）	北小学校 6年	1クラス（32名）	ミュージアム見学・勾玉づくり
5月25日（水）			火熾し・赤米炊飯・板殺
7月6日（水）			土器づくり
10月5日（水）			柱立て体験
10月13日（木）			土器の野焼き
7月7日（木）	東小学校 6年	1クラス（16名）	ミュージアム見学・勾玉づくり
9月29日（木）			土器づくり
10月21日（金）			土器の野焼き
11月24日（木）			火熾し・赤米炊飯
7月12日（火）	南小学校 6年	3クラス（76名）	勾玉づくり
10月4日（火）			土器づくり
10月25日（火）			火熾し・赤米炊飯
5月8日（金）	平野小学校 6年	2クラス（60名）	勾玉づくり
6月30日（木）			土器づくり
10月6日（木）			土器の野焼き
10月20日（木）			火熾し・赤米炊飯
5月24日（火）	田原本小学校 6年	4クラス（106名）	ミュージアム見学
6月2日（木）			火熾し・赤米炊飯
6月17日（金）			勾玉づくり
6月23日（木）・24日（金）			土器づくり
21日間	**11クラス（延べ1,116名）**		**メニュー延べ28**

平成29年度

実施日	学校・学年	児童数	内容
4月28日（金）	北小学校 6年	2クラス（41名）	ミュージアム見学・勾玉づくり
5月16日（火）			柱立て体験
5月26日（金）			火熾し・赤米炊飯・板殺
6月29日（木）			土器づくり
11月2日（木）			土器の野焼き
7月7日（金）	東小学校 6年	1クラス（14名）	ミュージアム見学・勾玉づくり
10月6日（金）			土器づくり
10月31日（火）			土器の野焼き
11月17日（金）			火熾し・赤米炊飯
7月14日（金）	南小学校 6年	2クラス（64名）	勾玉づくり
10月13日（金）			土器づくり
10月27日（金）			火熾し・赤米炊飯
11月16日（木）			土器の野焼き
5月8日（月）	平野小学校 6年	2クラス（55名）	勾玉づくり
6月8日（木）			火熾し・赤米炊飯
6月30日（金）			土器づくり
11月7日（火）			土器の野焼き
5月23日（火）	田原本小学校 6年	4クラス（103名）	ミュージアム見学
5月30日（火）			勾玉づくり
6月12日（月）・13日（火）			土器づくり
6月27日（火）			火熾し・赤米炊飯
11月26日（日）			土器の野焼き
23日間	**11クラス（延べ1,611名）**		**メニュー延べ30**

（2）中学校職場体験学習

中学生の職場体験学習として、田原本中学校・北中学校の生徒を受け入れ、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムで体験学習を実施した。

【体験学習】

平成28年度

期　間	学　校　名	内　容	人　数
11月8・9・10日	田原本中学校	土器洗浄・遺物選別・石器の整理・土器拓本・ミュージアム受付	4名
11月15・16・17日	北中学校		3名
6日間	**2学校**	**延べ10メニュー**	**延べ7名**

平成29年度

期　間	学　校　名	内　容	人　数
11月7・8・9日	田原本中学校	土器洗浄・遺物選別・石器の整理・土器拓本	3名
11月14・15・16日	北中学校		2名
6日間	**2学校**	**延べ8メニュー**	**延べ5名**

（3）大学の学外授業

奈良大学の通信教育の課外授業として、平成28年度は3回、平成29年度は4回受け入れ、下記内容の授業をおこなった。

【学外授業】

平成28年度

実施日	内　容	人　数
8月20日（土）	奈良大学　通信教育課程「文化財学概説Ⅱ」 唐古・鍵遺跡の現地説明 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要説明・展示品解説	75名
2月11日（土）		54名
2月25日（土）		36名
3日間		**計165名**

平成29年度

実施日	内　容	人　数
8月2日（土）	奈良大学　通信教育課程「文化財学概説Ⅱ」 唐古・鍵遺跡の現地説明 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要説明・展示品解説	111名
9月7日（日）		26名
1月11日（日）		31名
2月28日（土）		27名
4日間		**計195名**

（4）講師の派遣

前記以外に、教育委員会等の事業として下記のとおり職員を派遣した。

【講師の派遣】

平成28年度

実施日	講座名等	講　師
7月16日（土）	桜井市纒向学研究センター「第7回　纒向学セミナー」	藤田
8月1日（土） 8月2日（日）	奈良まほろば館「日本の国づくりの源流「ヤマト」特別講演」	藤田
8月6日（土）	大阪府立弥生文化博物館「開いてなっとく弥生の世界」	柴田
9月30日（金）	橿原市まほろば大学校「奈良を掘る」	清水
11月2日（水）	かなえ会「秋講座」	藤田
11月12日（土）	「下之郷遺跡まつり2016」実行委員会「第1回「関西弥生の環濠遺跡交流会」	藤田
11月14日（月）	奈良県遺跡発掘調査概況調査課「第3回「生きがい」講演会」	清水
11月18日（金）	奈良県図画工作・美術教育研究会「記念講演会」	藤田
11月19日（土）	静岡市登呂博物館「遺跡からみる　弥生集落のかたち」	藤田
11月27日（日）	奈良県歴史教育者協議会「近畿ブロック集会」	西岡
1月20日（金）	橿原ロータリークラブ「例会卓話」	藤田
2月5日（日）	和泉市いずみの国歴史館「同盟　池上曽根遺跡のいま・むかし」	藤田
2月13日（月）	田原本町立北中学校「ゲストティーチャー事業」	藤田
3月4日（土）	奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会「発掘調査報告会」	柴田

平成29年度

実施日	講座名等	講　師
5月21日（日）	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館「新作発見！弥生絵画―人・動物・風景―」	藤田
6月11日（日）	枚方古代史友会「研修会」	清水
7月14日（金）	奈良ファン倶楽部　解説付き特別拝観「国中の弥生集落　唐古・鍵遺跡」	藤田
7月27日（木）	橿原市まほろば大学校「奈良を掘る」	清水
2月13日（月）	田原本町立北中学校「ゲストティーチャー事業」	藤田

6．刊行物一覧

平成 28・29 年度は、それぞれ下記の書物を印刷した。

【刊行物名】

平成 28 年度

書　籍　名	発行日	部　数	内　容
唐古・鍵考古学ミュージアム 春季企画展図録 『弥生遺産Ⅳ～唐古・鍵遺跡の土製品・ガラス etc.～』	2016 年　4 月	2,500 部	唐古・鍵遺跡出土の土製品やガラス、金属製品、骨角牙製品や土製品について、その素材の活かし方や使用法などに注目した展示
唐古・鍵考古学ミュージアム 秋季企画展図録 『小林家文書展―庄屋に伝わる 350 年の歴史―』	2016 年 10 月	1,000 部	田原本村の庄屋であった小林家に伝わる古文書をもとに、江戸時代はじめから明治までの人々の生活に注目した展示
『唐古・鍵遺跡　考古資料目録Ⅲ ―木器・木製品・石器・石製品編―』	2017 年　3 月	800 部	唐古・鍵遺跡出土資料の解説目録、木器・木製品・石器・石製品を掲載
『田原本町文化財調査年報 25　2015 年度』	2017 年　3 月	750 部	平成 27 年度の文化財事業の報告
小林家文書目録	2017 年　3 月	500 部	田原本村の庄屋であった小林家に伝わる古文書の目録

平成 29 年度

書　籍　名	発行日	部　数	内　容
唐古・鍵考古学ミュージアム 春季企画展図録 『弥生遺産Ⅴ　唐古・鍵遺跡 初期調査の遺物～補遺～』	2017 年　4 月	2,000 部	唐古・鍵遺跡の初期の調査で出土した遺物を展示。同時に、田原本町と天理市（大和まほろば広域定住自立圏事業）の発掘遺構として出土遺物を展示
桜井市・田原本町共催シンポジウム資料集 『埴輪呼のクニを探る―考古学が発信するまちづくり―』	2018 年　1 月	500 部	桜井市・田原本町共催シンポジウム資料

7．資料の活用

（1）資料の貸出

平成 28 年度は、2 機関に延べ 4 遺跡 63 点の遺物を貸出した。平成 29 年度は、7 機関に延べ 8 遺跡 106 点の遺物等を貸出した。貸出内容は、唐古・鍵遺跡の出土品が多い。

【資料貸出の一覧】

平成 28 年度

貸出先／展覧会名／期間	遺　跡　名	資　料　名	点数
生駒ふるさとミュージアム／平成 28 年度生駒ふるさとミュージアム秋季企画展『生駒山をめぐる東と西の交流 ―古墳時代の馬からみた奈良と大阪―』 平成 28 年 10 月 15 日～11 月 13 日	唐古・鍵遺跡	ウマ骨 1	1 点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館／春季特別展『新作発見！弥生絵画―人・動物・風景―』 平成 29 年 4 月 22 日～6 月 18 日	唐古・鍵遺跡	絵画土器 50・文様土器 4・銅鐸形土製品 3	62 点
	清水風遺跡	絵画土器 4	
	八尾九原遺跡	絵画土器 1	
2 機関／延べ 4 遺跡	**延べ 4 遺跡**		**63 点**

平成 29 年度

貸出先／展覧会名等／期間	遺　跡　名　等	資　料　名	点数
奈良県立橿原考古学研究所／唐古・鍵遺跡出土土器・木製品・骨角器の赤色顔料および漆の科学的分析 平成 29 年 5 月 31 日～平成 30 年 3 月 20 日	唐古・鍵遺跡	弥生土器 25・木製品 6・骨角器 2	33 点
橿城市歴史博物館第 18 回特別展／『大和の陵墓・陵墓町と寺内町』 平成 29 年 9 月 26 日～12 月 8 日	小林家文書	田原本村絵図 1・土族至近住地取調絵図 1・田原本郭内絵図 1・返答書控 1・黙所分并毛利紙制物生高　南新墓入門町絵制取米帳 1・八幡町新町道地子免除覚 1・沿ヶ年貢米書上帳 1・陵墓敷蓮鼠弁敷社寺　敷村弁高引仕分け帳 1・土族順番代張制録 1・郭内順番帳 1	10 点
島根県立島根県立八雲立つ風土記の丘／企画展『古代人の皮』 平成 29 年 9 月 16 日～11 月 19 日	羽子田 1 号墳	盾持人物埴輪 2	4 点
	飯銅山 2 号墳	1 号馬牽き人物埴輪 1・1 号馬形埴輪 1	
奈良県立橿原考古学研究所／連報展『大和を掘る 35』 平成 29 年 7 月 15 日～9 月 3 日	唐古・鍵遺跡	土師質羽釜 2・土師器 5・輸入磁器 2・美濃系陶器系碗 1・漆器 3・鉢 1・水差形土器 1	15 点
第 32 回関西文化祭・第 17 回陶器老芸術文化祭陶市実行委員会／企画展『弥生時代の住まいと田んぼ』 平成 29 年 11 月 3 日～11 月 12 日	唐古・鍵遺跡	弥生土器 9・石鎌 4・石小刀 1・石剤 1・扁平片刃石斧 1・石製紡錘車 1・紡石 1	18 点
兵庫陶芸美術館／『弥生の美―土器に宿る造形と意匠』 平成 30 年 3 月 10 日～5 月 27 日	唐古・鍵遺跡	弥生土器 9・文様土器 17	26 点
6 機関／延べ各期等期間日数 583 日	**延べ 7 遺跡等**		**106 点**

継続貸出は、平成 28・29 年度ともそれぞれ 3 機関に 18 点の遺物を貸出した。

【資料の継続貸出】

平成 28 年度

貸出先／展覧会名／期間	遺　跡　名	資　料　名	点数
大阪府立弥生文化博物／常設展示 【貸出期間】平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	唐古・鍵遺跡	土偶	2 点
香芝市二上山博物館／常設展示 【貸出期間】平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	唐古・鍵遺跡	弥生土器・壷・高坏・槍先形石器	4 点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　常設展示 【貸出期間】平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	唐古・鍵遺跡	石製銅鐸鋳型・土製銅鐸鋳型外枠・土製武器鋳型外枠・土製不明鋳型外枠・高坏形土製品・送風管	12 点
3 件	**延べ 3 遺跡**		**18 点**

平成 29 年度

貸出先／展覧会名／期間	遺　跡　名	資　料　名	点数
大阪府立弥生文化博物／常設展示 【貸出期間】平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日	唐古・鍵遺跡	土偶	2 点
香芝市二上山博物館／常設展示 【貸出期間】平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日	唐古・鍵遺跡	弥生土器・壷・高坏・槍先形石器	4 点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　常設展示 【貸出期間】平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日	唐古・鍵遺跡	石製銅鐸鋳型・土製銅鐸鋳型外枠・土製武器鋳型外枠・土製不明鋳型外枠・高坏形土製品・送風管	12 点
3 件	**延べ 3 遺跡**		**18 点**

（2）写真掲載・撮影

写真の貸出及び掲載（転載含む）は平成 28 年度が 50 件 107 点、平成 29 年度が 50 件 133 点であった。写真掲載の内容は、唐古・鍵遺跡の出土遺物の利用度が高い。

【写真掲載・撮影】

平成28年度

貸出先	掲載書籍等	名称（遺跡名）	資料名	点数
㈱エディット	『向川学習まんが　日本の歴史　歴史まるわかりずかん』	唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉	1点（転載）
	新聞（地方紙 北日本新聞他）「日本の歴史」特集記事	唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉	1点（転載）
㈱ぽる制作室	平成版　おとなの歴史『謎多き古代史をめぐる』	笹鉾山２号墳	馬乗き人物埴輪・馬形埴輪	2点
㈱アクト	『夏の生活　社会　歴史Ⅰ』H28	唐古・鍵遺跡	弥生土器	1点
	『夏の生活　社会　歴史Ⅰ』H29	唐古・鍵遺跡	弥生土器	1点（転載）
㈱三猿舎	別冊宝島『古代史再検証　卑弥呼と魏志倭人伝』	唐古・鍵考古学ミュージアム	唐古・鍵考古学ミュージアム風景写真	1点
㈱ランズ	『日本歴史』	唐古・鍵遺跡	柱状片刃石斧・復元楼閣・楼閣が描かれた土器片	3点
㈱勉永社	『城大全』	平野氏城址遺跡	平野氏城址現況写真	1点
㈱紀行社	『発見・検証日本の古代』第１巻	羽子田１号墳	琴持人物埴輪	1点
東大阪市立郷土博物館	平成28年度東大阪市立郷土博物館特別展示「山陰古墳群のあゆみ」関連印刷物	笹鉾山２号墳	１号馬乗き人物埴輪・２号馬乗き人物埴輪（2）・２号馬形埴輪	4点
唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会	会報『からこかぜ』第14号	唐古・鍵遺跡	埋材	1点（転載）
	会報『からこかぜ』第15号	唐古・鍵遺跡	第20次調査出土遺物	1点（転載）
	会報『からこかぜ』第16号	唐古・鍵遺跡	第74次調査大型建物跡遺構平面図・翡翠製勾玉・鳥獣紋容器模型	3点（転載）
㈱オフィス・イディオム	『ヒストリカ』	唐古・鍵遺跡	復元楼閣・まつりの風景模型・勾玉・機織の風景模型・楼閣が描かれた絵画土器（復元）・卜骨（2）	7点（転載）
静岡市教育委員会（登呂博物館）	平成28年度登呂博物館印刷物	唐古・鍵遺跡	鍬（2）・土器（2）	4点
㈱小学館	入試問題過去問演習・テキスト『落南高等学校附属中学校』	唐古・鍵遺跡	一本鉾・石庖丁	2点
	『有名中学合格事典2017』	唐古・鍵遺跡	一本鉾・石庖丁	2点
学校法人　河合塾	『2016年度第２回センターレーニングテスト地理歴史』（高校生対象）	唐古・鍵遺跡	復元楼閣・楼閣が描かれた土器片	2点（転載）
㈱ブルームーン	『甲南大学 2016入試過去問題集』	唐古・鍵遺跡	平鍬	1点（転載）
㈱ブレイル	別冊宝島『新解釈　日本書紀』（仮）	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	1点
桜井市教育委員会	桜井市纒向学研究センター東京フォーラムV「卑弥呼発見「鬼道を事とし，能く衆を惑わす」―卑弥呼の鬼道―」当日資料	唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉（2）・翡翠製勾玉収納復元図・鳥獣紋容器と翡翠製勾玉・翡翠製勾玉を納めた鳥獣紋容器	5点
㈱第一学習社	高等学校用地学図説資料集『スクエア最新図説地学』	唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉	1点
クラブツーリズム㈱	『おとなの寺旅』９月10日号	安養寺	木造阿弥陀如来立像	1点（転載）
公共財団法人　協局東文化振興財団	平成28年度「主任ろん15周年体験フェスタ」および平成28年度歴史再発見事業企画展（仮）関連印刷物	唐古・鍵遺跡	翼出土状況	1点
	平成28年度歴史再発見事業資料展「手仕事ふくしまー編み紐技術のルーツを現在へ（仮）」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	翼出土状況	1点（転載）
「天理山の辺の道の歴史遺産を学ぶ」実行委員会	『天理の古墳文化を学ぶ』	羽子田１号墳	琴持人埴輪	2点
		笹鉾山２号墳	馬乗き人物埴輪と馬形埴輪集合	
㈱中川政七商店	ウェブサイト「工芸クロニクル」	唐古・鍵遺跡	サヌカイト原石（2）・石鏃集合・玉造器と石鏃	4点
㈱新泉社	シリーズ「遺跡を学ぶ」114『宮本田遺跡』	唐古・鍵遺跡	土製銅鐸鋳型外枠	1点
	『弥生時代のモノとムラ』	唐古・鍵遺跡	唐古・鍵ムラに選ばれたものイラスト・唐古・鍵ムラ島瞰図	2点
㈱進学塾・受験研究社	『（小6社会）入試直前特訓問題集』	唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉	1点
尼崎市教育委員会	第46回尼崎市立田能資料館特別展「弥生のガラス―二千年前の装飾品―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	青銅器鋳造関連遺物集合・ガラス製勾玉・ガラス原材・炉跡状遺構	4点
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	『An Illustrated Companion to Japanese Archaeology』	唐古・鍵遺跡	唐古・鍵遺跡調査成果図・第74次調査大型建物跡・環濠・楼閣が描かれた土器片・絵画土器・石器集合・打製石剣・土製鋳型・土製銅鐸鋳型・弥生土器・卜骨	12点（転載）
		清水風遺跡	絵画土器	
しんぶん赤旗	『しんぶん赤旗』	唐古・鍵遺跡	勾玉形土製品	1点
㈱小学館 クリエイティブ	『はじめて出会う日本美術』（仮）２巻	唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉（2）	2点
㈱天夢人	週刊『ビジュアル江戸三百藩』第70号	小林家文書	田原本村絵図（元禄17年）	1点
個人	『卑弥呼の太陽祭祭』酒転石	唐古・鍵遺跡	絵画土器・鳥装のシャーマン模型	2点

中央公論新社	広瀬和雄『前方後円墳国家』	唐古・鍵遺跡	紙石集合・切断された鹿角と各種製品・切断された鹿などの骨と各種製品	3点
奈良県教育委員会	『楽しく学べるならの文化財』電子書籍版	羽子田遺跡	牛形埴輪	1点
葛城市歴史博物館	平成29年度春季企画展「石光山古墳群と忍海（飯）」関連印刷物	狭穂山2号墳	2号馬形埴輪	1点
個人	『（仮）大和は国のまほろば』	唐古・鍵遺跡	絵画土器・鳥装のシャーマン模型	3点（転載）
		清水風遺跡	絵画土器	
	『国の真秀ろばた和』『「弥生の王都」出原本』	唐古・鍵遺跡	鴨鉄鏃容器と翡翠製勾玉・絵画土器（5）・石製鋼鐸鋳型・土製鋼鐸鋳型外枠・絵画土器（2）	10点（転載）
個人	ホームページ	唐古・鍵遺跡	唐古・鍵ムラ鳥瞰図・記号土器・弥生の記号分類図・史跡公園イラスト図	4点
奈良県地域振興部文化資源活用課	（仮称）奈良県歴史文化資源データベースホームページ	太子道	太子道現況（2）	2点
㈱共同通信社	『発掘された日本列島 2017』	唐古・鍵遺跡	大型建物復元模型	1点
㈱文一総合出版	『HIDER』5月号	清水風遺跡	絵画土器	1点
50件		**延べ53遺跡**		**107点**

平成29年度

貸出先	掲載書籍等	名称（遺跡名）	資料名	点数
東京書籍㈱	高等学校教科書『日本史A』	唐古・鍵遺跡	石庖丁	1点（転載）
	『新選日本史B』『新選日本史B 教師用指導資料』	唐古・鍵遺跡	平鍬・木臼・弥生土器（3）・石庖丁・唐古・鍵遺跡祭儀	7点（転載）
㈱Mok office	別冊宝島『古代日本の伝統技術』	唐古・鍵遺跡	穂摘が描かれた土器片	1点
㈱同成社	『古墳の方位と太陽』	唐古・鍵遺跡	鴨鉄鏃容器と翡翠製勾玉・勾頭形土製品	2点（転載）
㈱KADOKAWA	別冊歴史読本『ヤマト歴史読本』	唐古・鍵遺跡	穂摘が描かれた土器片・鴨鉄鏃容器と翡翠製勾玉	2点
㈱アマゾンクリエイト	『美の壺　ミスイ』	唐古・鍵遺跡	鴨鉄鏃容器と翡翠製勾玉を納めた鴨鉄鏃容器	2点
吉川弘文館	『文明に抗した弥生の人々』	唐古・鍵遺跡	鹿角製ハンマーと石器集合・石棒	2点
㈱日本入試センター	『社会5年　デイリーサビックス 540-21』平成29年度版	唐古・鍵遺跡	穂摘が描かれた土器片	1点（転載）
	『社会5年　デイリーサビックス 540-21』平成30年度版	唐古・鍵遺跡	穂摘が描かれた土器片	1点
唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会	会報『からこがぎ』第17号	唐古・鍵遺跡	火鑽臼・火鑽臼実測図	2点（転載）
	会報『からこがぎ』第20号	唐古・鍵遺跡	結晶片岩製石庖丁	1点（転載）
	会報『からこがぎ』第21号	唐古・鍵遺跡	第51次調査井戸出土状況・人形土製品・大形器台	3点（転載）
日本著作権教育研究会	『2017年度入試問題集』	唐古・鍵遺跡	石庖丁	1点（転載）
公益財団法人笹島果文化振興財団	平成29年度企画展「編む・組む・削る―植物利用の技術」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	翼出土状況	1点（転載）
㈱日の眼	古美術月刊誌『目の眼』	唐古・鍵遺跡	鴨鉄鏃容器と翡翠製勾玉・翡翠製勾玉を納めた鴨鉄鏃容器	2点
学校法人河合塾	『2017年度第2回センタートレーニングテスト地理歴史』（高校生対象）	唐古・鍵遺跡	復元穂摘・絵画土器	2点（転載）
㈱学び舎	『ともに学ぶ人間の歴史』文部科学省検定教科書中学社会歴史	唐古・鍵遺跡	穂摘が描かれた土器片	1点（転載）
㈱EN・JIN	『一度は訪ねてみたい日本の原風景』	唐古・鍵考古学ミュージアム	展示室	1点
茨城県天心記念五浦美術館開館20周年記念展「龍を描く―大地の気」関連印刷物	茨城県天心記念五浦美術館開館20周年記念展「龍を描く―大地の気」関連印刷物	菊池寺	絹本著色菊女龍王図	1点
㈱JTBSEGYO	『祈りの回廊　2017-2018年度秋冬版』パンフレット電子ブック	安養寺	木造阿弥陀如来立像	1点（転載）
島根県立八雲立つ風土記の丘	企画展「古代人の宴」関連印刷物	羽子田1号墳	盾持人物埴輪（2）	4点
		狭穂山2号墳	1号馬車き人物埴輪・1号馬形埴輪	
個人	テスト問題・ホームページ	唐古・鍵遺跡	穂摘が描かれた土器片	1点
茨木市立文化財資料館	文化財資料館テーマ展「銅鐸を作った人々―東奈良遺跡の工人集団」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	青銅器鋳造関連遺物集合・土製鋼鐸鋳型外枠・高坏形土製品・青銅製品と銅塊と鋳滓・送風管（2）	6点
㈱ネクサス	「開運！なんでも鑑定団」	唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉	1点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	『大和を掘る35』展示図録展示パネル等	唐古・鍵遺跡	中世大溝・石組み井戸・中世大溝出土遺物	3点
滋賀県立安土城考古博物館	開館25周年記念平成29年度秋季特別展「青銅の鐸と武器―近江の弥生時代とその周辺」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	奈良県出土の青銅器関・唐古・鍵遺跡の青銅器と鋳造関連遺物出土地図・青銅器鋳造関連遺物集合・土製武器鋳型復元品・土製鋼型の構造図	5点
兵庫陶器美術館	「弥生の美―土器に宿る造形と意匠―」展図録印刷物	唐古・鍵遺跡	弥生土器（3）・文様土器片（15）	18点

第32回国民文化祭・第17回障害者芸術文化祭鹿児島実行委員会	企画展「弥生時代の住まいと田んぼ」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	第115次調査空撮・東南部の環濠群・第42次調査区全景・遺跡全景・唐古・鍵遺跡の調査成果図・唐古・鍵ムラ遺跡変遷図（4）	9点
㈱かみゆ	『歴史MAL 邪馬台国』	唐古・鍵遺跡	復元模関・模関が描かれた土器片	2点
㈱吉川弘文館	『弥生時代国家形成史論』	唐古・鍵遺跡	人型埴物復元図・鳥獣紋容器と翡翠製勾玉・模関が描かれた土器片	3点（転載）
葛城市歴史博物館	第18回特別展「大和の建築、陵墓町と寺内町」関連印刷物	小林家文書	田原本村絵図・土族卒以住地取調絵図・田原本郭内絵図・医学書控・黎町分并毛御絵図物生高、南新地入門町絵取水帳・八幡町新町端地子免除覚・拾ヶ年貸米書上帳・陣屋敷濠堀并敷社寺　敷村弁高引仕分付帳・土族順番代絵図録・郭内順番帳	10点
㈱山川出版社	『センター試験への道』	弥生山２号墳	１号馬形埴輪	1点
一般社団法人日本著作権教育研究会	『2017年度入試問題集』	唐古・鍵遺跡	石庖丁	1点（転載）
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	平成29年度特別陳列「十二支の考古学―絵集編―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	絵画土器	1点（転載）
橿原考古学研究所創立80周年記念春季特別展「古代の鄰き―日本考古学と橿考研80年の軌跡Ⅱ―」関連印刷物		唐古・鍵遺跡	第1次調査	4点
静岡県埋蔵文化財センター	平成29年度巡回展関連印刷物	唐古・鍵遺跡	鳥装のシャーマン模型	1点
可児市教育委員会	可児市郷土資料館ミニ企画展関連印刷物	唐古・鍵遺跡	青銅器鋳造関連遺物集合・土製鋳型の構造図	2点
田原本町観光協会	観光ステーション配布パンフレット	羽子田１号墳	牛形埴輪	1点
富士見市立水子貝塚資料館	平成29年度企画展図録『竪穴住居の世界』	唐古・鍵遺跡	模関が描かれた土器片	1点
㈱スグーン	長編ドキュメンタリー映画『太陽の塔』	唐古・鍵遺跡	石庖丁	1点
㈱ファクト	『夏の生活　社会　歴史Ⅰ』	唐古・鍵遺跡	弥生土器	1点（転載）
個人	『季刊　考古学』	唐古・鍵遺跡	ニワトリ骨	1点
田原本町観光協会	『歴史のオーラがみえるまち　田原本』	羽子田１号墳	牛形埴輪	2点
		唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉を納めた獣紋容器	
㈱旺文社	『2019年受験用　全国高校入試問題正解　社会』	唐古・鍵遺跡	模関が描かれた土器片	1点
公益社団法人現代布良協会	『月刊　布良』	弥生山２号墳	馬牽き人物埴輪と馬形埴輪集合・馬牽き人物埴輪（2）・原形木製品・笠形木製品	5点
個人	『考古学ジャーナル』	唐古・鍵遺跡	鹿角器（2）	2点
㈱ベネッセコーポレーション	『2018～2020年度進学入試過去問徹底対策』十冊　8月号	唐古・鍵遺跡	模関が描かれた土器片	1点
東海大学出版部	『海洋考古学入門』	唐古・鍵遺跡	魚骨（3）	3点（転載）
熊谷市教育委員会	『熊谷市史　通史編・上巻（原始・古代・中世）』	清水風遺跡	盾と矛を持つ人物絵画イラスト	1点
大韓民国　忠清南道歴史文化研究所	『日本の中の百済』	唐古・鍵遺跡	唐古・鍵古墳群分布図・遺跡分布図・唐古・鍵８号墳・唐古・鍵８号墳出土土器集合	6点（転載）
		保津・宮古遺跡	第29次調査出土遺物・保津・宮古遺跡位置図	
50件		**延べ53遺跡**		**133点**

（3）資料調査

本町所有・保管遺物について、下記の者による資料調査（熟覧）があった。

【資料調査】

平成28年度

調　査　日	調　査　者	資　料　名
平成28年8月31日（水）～9月　1日（木）	北海道大学大学院文学研究科　個人	唐古・鍵遺跡　卜骨
平成28年8月29日（月）～8月31日（水）	立命館大学文学部人文学科　個人	唐古・鍵遺跡　土器
平成28年9月28日（水）	立命館大学文学部人文学科　個人	唐古・鍵遺跡　土器
平成28年11月4日（金）	公益財団法人福島県文化振興財団	唐古・鍵遺跡　笑
平成28年12月9日（金）	個人	唐古・鍵遺跡　巫風管
平成28年2月　1日（水）～平成29年3月30日（金）	弘前大学　人文社会学部	唐古・鍵遺跡　閃化米
平成29年2月23日（木）	個人	個人所蔵　　小林家文書
平成29年3月15日（水）	熊本大学大学院　個人	唐古・鍵遺跡　骨角製品

平成29年度

調査日	調査者	資料名
平成29年6月18日（火）	個人	唐古・鍵遺跡　弥生土器 清水風遺跡　弥生土器
平成29年6月28日（金）	島根県立八雲立つ風土記の丘	岩子出1号墳　盾持人埴輪 勉興山2号墳　馬牽き人物形埴輪 馬形埴輪
平成29年7月5日（水）	個人	個人所蔵　小林家文書
平成29年7月10日（月）	奈良県立橿原考古学研究所　個人	唐古・鍵遺跡　石鏃 磨石
平成29年7月15日（土）	埴輪検討会	町内諸古墳　各種埴輪
平成29年7月15日（土）	亀城市歴史博物館　個人	個人所蔵　小林家文書
平成29年8月11日（金） ～12日（土）	弥生時代研究ネットワーク	唐古・鍵遺跡　縄文土器 土師器
平成29年10月20日（金）	個人	唐古・鍵遺跡　弥生土器
平成29年10月31日（火）	北海道大学総合博物館　個人	唐古・鍵遺跡　ナジ科骨
平成29年12月19日（火） ～21日（木）	京都大学大学院　個人	唐古・鍵遺跡　木製品
平成30年1月10日（水）	愛知県埋蔵文化財センター　個人	唐古・鍵遺跡　骨角器

8．ボランティア組織

（1）唐古・鍵遺跡史跡公園ボランティア

平成30年4月に開園する唐古・鍵遺跡史跡公園を活用するため、史跡公園ボランティア育成講座3期分（第1期生：平成28年10月～平成29年2月／第2期生：平成29年5月～9月／第3期生：平成29年10月～平成30年2月／各30人募集）を平成28･29年度において開催した。講座内容（各期により講座は共通するものと異なるものあり）は下記のとおりで、月1回開催した。

【講座内容】

	内容	講師等
1	開講式／唐古・鍵遺跡の考古学	文化財保存課職員
2	唐古・鍵遺跡史跡公園	総合政策課職員
3	弥生時代の植生	金原正明 氏（奈良教育大学 教授）
4	史跡公園の風景づくり	井原 縁 氏（奈良県立大学 准教授）
5	里山の昆虫	中谷憲弘 氏（橿原市昆虫館 館長補佐）
6	唐古・鍵遺跡の自然を知ろう	谷 幸三 氏（奈良県環境アドバイザー）
7	唐古・鍵遺跡史跡公園の野鳥たち	川瀬 浩 氏（奈良県環境アドバイザー）
8	弥生時代のものづくり	文化財保存課職員 唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会
9	国中の風景と田原本の文化遺産	文化財保存課職員
10	町歩き「町を知ろう」	文化財保存課職員 奈良県立大学学生
11	他ボランティア活動の見学	国営飛鳥歴史公園「飛鳥里山クラブ」

第1・2期生については、平成29年10月から下記3グループに分かれて活動できる体制にし、開園前の受入準備をおこなった。その間には、長谷川匡弘 氏（大阪市自然史博物館）を招いて弥生の林エリアの植生についての勉強会を実施し、また史跡公園ボランティア活動の視察として滋賀県守山市下之郷遺跡を訪問した。第3期生についてはこれらグループに合流する形にした。最終的にボランティアの登録者は、ガイドグループ15名・物づくりグループ13名・自然観察グループ15名の計43名になった。

・ガイドグループ：唐古・鍵遺跡・公園をガイドする。
・物づくりグループ：弥生時代のものづくりを体験できるようにする。
・自然観察グループ：樹木や草花、昆虫を観察するイベント等を開催する。

（2）唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会

唐古・鍵遺跡を総合的に支援する任意ボランティア団体として、平成16年4月10日、「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」（愛称：唐古・鍵支援隊）が設立された。

主な活動は、唐古・鍵考古学ミュージアムの展示説明ガイドや小学校の総合的奈学習の支援や子ども会等を対象として考古学体験、ミュージアムへの勧誘活動、文化財保存課〈ミュージアム〉主催事業への支援等がある。活動については、4月の総会を経て、月例の運営委員会で検討され実施されている。また、「ものづくり教室」の部会を基本的に月2回おこない、新しい体験学習メニューの開発や体験学習教材の整備など、延べ29日449人が参加した。唐古・鍵遺跡においては団体向けに現地ガイドを実施し、6日間で延べ87人に対応した。

この他、自主的な学びの機会として、「弥生勉強会」を実施し、事前勉強会を開いた後、各地の遺跡で現地見学をおこなった。

【唐古・鍵支援隊の支援活動】

平成28年度

活　動　日	内　容	主　催	支援内容	活動人数
5月7日	春季企画展　講演会	文化財保存課	受付	2人
11月12日	秋季企画展　講演会			2人
2月25日	唐古・鍵考古学ミュージアム　講演会			2人
7月28日・8月5日・8月10日　計3日間	チャレンジ子ども弥生探検隊 （ミニ銅鐸づくり・磯代遺跡のコースターづくり）		支援	22人
5月6日・5月11日・5月24日・5月25日・6月2日・6月17日・6月23日・6月24日・6月30日・7月6日・7月7日・7月12日・9月29日・10月4日・10月6日・10月13日・10月20日・10月21日・10月25日・11月24日 計20日間	総合的学習（土器づくり・野焼き・火熾し・炊飯・脱穀・勾玉づくり）	北小学校 平野小学校 田原本小学校 東小学校 南小学校	支援	176人
1月25日・1月27日・1月28日・1月29日・1月31日・2月1日・2月2日 計7日間	田原本町内小学校の総合的な学習展示会	文化財保存課 文援隊 町内各小学校	受付 支援	35人
11月5日	文化祭（弥生体験）	生涯教育課	支援	8人
延べ34日		**14団体**		**247人**

平成29年度

活　動　日	内　容	主　催	支援内容	活動人数
4月22日	春季企画展　報告会	文化財保存課	受付	2人
7月23日	唐古・鍵考古学ミュージアム　講演会			2人
8月3日	チャレンジ子ども弥生探検隊（ミニ銅鐸づくり）		支援	4人
8月4日	チャレンジ子ども弥生探検隊 （組紐のストラップづくり）			6人
4月23日・4月24日・5月8日・5月23日・5月30日・6月5日・6月6日・6月12日・6月13日・6月20日・6月27日・7月3日・7月10日・10月2日・10月3日・10月10日・10月24日・11月6日・11月20日・12月12日 計20日間	総合的学習（土器づくり・野焼き・火熾し・炊飯・脱穀・勾玉づくり）	北小学校 平野小学校 田原本小学校 東小学校 南小学校	支援	204人
1月28日・1月30日・1月31日・2月1日・2月3日・2月4日 計6日間	田原本町内小学校の総合的な学習展示会	文化財保存課 文援隊 町内各小学校	受付 支援	34人
11月1日	文化祭（弥生体験）	生涯教育課	支援	12人
7月26日・8月30日・9月15日・9月27日　計4日間	唐古・鍵遺跡コスモス栽培	総合政策課	支援	93人
延べ34日		**15団体**		**353人**

Ⅲ．唐古・鍵考古学ミュージアム

１．常設展示

（１）唐古・鍵考古学ミュージアム　リニューアル

ａ．リニューアルの概要

唐古・鍵考古学ミュージアムは、田原本青垣生涯学習センターの複合施設の１つとして、平成16年11月に開館した。展示面積は347㎡で、リニューアルのため休館した平成29年８月までの入館者は、約12万4,500人であった。

ミュージアムのリニューアル計画は、平成27年度にリニューアル基本計画を策定した。また、平成28年６月にはミュージアムを田原本青垣生涯学習センターの複合施設としての位置づけから田原本町埋蔵文化財センターの分室とする条例に改定した。

平成29年５月～平成30年３月の期間で、リニューアル実施設計・工事施行を実施した。実質の休館は、工事を開始する平成29年９月からで、唐古・鍵遺跡出土品の重要文化財指定に伴い東京国立博物館での展示公開後の平成30年５月31日までの９ヶ月となった。工事は平成30年３月に完了し、同年６月にリニューアルオープンを予定している。

ｂ．ミュージアムの新規展示方針

・展示方針　１．文化財に負荷がかからない展示方法にする。壁展示や引出展示の中止や地震等対策。
　　２．展示内容の見直し。
　　３．唐古・鍵遺跡史跡公園との連携と棲み分けの実施。
　　４．映像設備を極力減らし、小型化する。

・コンセプト：「弥生の美と技に感動」
　　～国の重要文化財（出土品）を通して「弥生文化」を学習する拠点～

ｃ．展示構成

第１室　「唐古・鍵の弥生世界」

唐古・鍵ムラの成立・弥生の環境・弥生の食・弥生のくらし・まつりといのり・交流と戦いがテーマ。

◎入口部分の「大型建物柱穴模型」を唐古・鍵遺跡史跡公園の遺構展示情報館へ移し、唐古・鍵考古学ミュージアムでは出土品を、唐古・鍵遺跡史跡公園では遺跡・遺構を見学という棲み分けをおこなう。

◎中央の大型建物ジオラマを唐古・鍵遺

【第１室】

跡史跡公園の遺構展示情報館へ移設し、1/1,000 の最盛期の唐古・鍵ムラのジオラマを設置。調査成果を元に、唐古・鍵環濠集落だけでなく、周辺に広がる水田や墓地との関係を示す。

◎カエルや両生類、鳥類の骨、草木種子を展示し、自然環境を復元。また、魚（川・海）の骨を展示し、唐古・鍵ムラの食生活を補足。

第２室 「弥生の美・形・技」

弥生の絵画と記号・弥生の文様と色・弥生の造形、弥生の技（編む、織る、木を割る・削る、石を敲く・磨く、玉を磨く、骨角を割る・磨く、鋳物を作る）がテーマ。

◎唐古・鍵遺跡を代表する出土品５点を第２室中央にシンボル展示するとともに、歴史的な見方よりも、唐古・鍵遺跡の出土品自身がもっている「弥生力」をみせる。

【第２室】

第３室 「唐古・鍵の周辺遺跡と唐古・鍵弥生集落、その後」

唐古・鍵遺跡の周辺遺跡の阪手東遺跡や清水風遺跡などの出土品を展示。また、桜井市纒向遺跡との関係にも触れる。

「埴輪の世界」では、羽子田１号墳と笹鉾山２号墳の形象埴輪等をまとめ、展示。

◎唐古・鍵遺跡の衛星集落である清水風遺跡の絵画土器や前漢鏡を展示。

◎纒向遺跡の土器２点（借用）を展示し、唐古・鍵遺跡から出土している奈良盆地東南部産の土器と比較する。

【第３室】

d．常設展示品の内訳

●展示点数：566 点（内、国指定品 377 点／県指定品６点）

【展示品　一覧表】

	指定件数（国）	指定件数（県）	未指定品	複製・模型他	自然遺物（骨・種他）	総点数
第１室	154	0	9	19	81	263
第２室	217	0	5	17	0	239
第３室	7	6	51	0	0	64
計	378	6	65	36	81	566

【遺跡別人為物　指定品数表】

	唐古・鍵遺跡	その他の遺跡	計
指定品（国）	377	1	378
指定品（県）	0	6	6
未指定品	17	48	65
計	394	55	449

（2）田原本ギャラリー　今回の逸品

平成 28 年度および平成 29 年度は、以下の展示をおこなった。

【田原本ギャラリー展示品】

展示名		展示品	展示期間
第 10 回	火打石～弥生石器の再利用～	火打石	平成 27 年 10 月～平成 29 年 7 月
第 11 回	楼閣が描かれた絵画土器～もう 1 つの破片～	楼閣の絵画土器片	平成 29 年　7 月～平成 29 年 8 月

これら展示品の解説パネルは、唐古・鍵考古学ミュージアムのホームページで PDF ファイルとして公開し、バックナンバーも同じページで公開している。

2．企画展・ミニ展示

（1）平成 28 年度　春季企画展「弥生遺産Ⅳ～唐古・鍵遺跡の土製品・ガラス etc. ～」

内　容：唐古・鍵遺跡からは、土製品やガラス製品、玉製品、金属製品、骨角牙製品など、様々な素材を用いた道具が出土しており、それらは装身具や祭祀具など特別な用途のものが多く、当時の生活文化を知る上で欠かせない。今回の展示では、唐古・鍵遺跡から出土した多様な素材の製品を展示した。また、県指定文化財となった笹鉾山 2 号墳出土遺物もあわせて展示した。

期　間：4 月 16 日（土）～5 月 22 日（日）（32 日間）

入館者：609 名（企画展のみ）

【展示構成と主要展示品】（展示総数 298 点）

（Ⅰ）土製品（ケース①～⑤）

土製品（銅鐸形、甕形、勾玉形、分銅形、動物形）、土製紡錘車、土錘、土製投弾、土玉、不明土製品、高坏形土製品、土製鋳型外枠、送風管

（Ⅱ）金属製品・玉製品・ガラス製品（ケース①・⑥）

銅鏃、銅鐸片、銅鑿、板状鉄斧、ヤリガンナ、碧玉製管玉・勾玉、ヒスイ製丸玉・勾玉、褐鉄鉱、ガラス素材、ガラス製小玉・勾玉、水晶玉

（Ⅲ）骨角牙製品（ケース⑦～⑧）

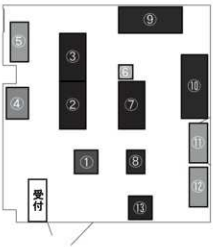
骨角素材、ヘラ状製品、骨鏃、弾、骨針、刺突具、装飾品、卜骨、イノシシ下顎骨

（Ⅳ）笹鉾山 2 号墳出土品（ケース⑨～⑬）

朝顔形埴輪、円筒埴輪、蓋形埴輪、人物埴輪、馬形埴輪片、土師器（把手付甕、小型鉢）、須恵器坏身、笠形木製品、木製品部材

【展示風景】

【展示ケースの配置】



【展示品と点数】

土製品		金属器・玉類・ガラス			骨角器			弥生山２号墳出土遺物	
縄紋形土製品	1	青銅器	銅鏡	10	鹿角	切断痕のある鹿角	4	鞆形埴輪	2
人形土製品	3		銅鏃片	1		素材となった鹿角	4	円筒埴輪	4
銅鐸形土製品	14		盤（銅形銅子転用）	1		ヘラ状製品	3	蓋形埴輪	4
甕形土製品	5	鉄器	板状鉄斧	1		骨鏃	3	人物埴輪	1
分銅形土製品	1		ケリガンナ	1		錐	10	人物埴輪片	15
勾玉形土製品	2	玉類	碧玉製管玉	6		結錘車	3	馬形埴輪片	24
鳥形土製品	3		碧玉製勾玉	1		斜みのある鹿角	1	土師器　把手付甕	1
動物形土製品	2		ヒスイ製丸玉	1	シカ骨	刺突具	4	土師器　小型鉢	1
土製紡錘車	5		ヒスイ製勾玉	3		ヘラ状製品	5	須恵器　坏身	1
土錘	3		ガラス素材	3		不明骨製品	1	笠形木製品	3
土製投弾	8	ガラス	小玉	10		中手骨・中足骨	15	木製品部材	6
有孔土玉	10		勾玉	1	イノシシ骨	卜骨	2		
無孔土玉	10	水晶玉		4		肩甲骨	1		
不明土製品	7	褐鉄鉱		1		肩甲骨　垂飾品	1		
銅鐸鋳型外枠	8	土器片		1		肩甲骨　ヘラ状製品	1		
武器鋳型外枠	10					尺骨	1		
不明鋳型外枠	1					尺骨　刺突具	2		
高杯形土製品	8					大腿骨	1		
焼熱痕風管	2					牙	5		
送風管	5					卜骨	2		
						下顎骨	3		
					骨製縫針		5		
					不明骨製品		6		
計	108	計		45	計		83	計	62

【関連イベント】

イベント名	内　容	日時・場所	参加人数
講演会	伊藤　幸司 氏（大阪文化財研究所 保存科学室　室長） 「弥生時代の青銅器解体用－出土資料から"鳳"を探る－」	8月7日（土） 午後2時～3時30分 公民館視聴覚室	71人

（2）平成28年度　秋季企画展「小林家文書展」

内　容：田原本村で代々庄屋を務めてきた小林家に伝わる「小林家文書」。平成24年に田原本町指定文化財となり、現在は小林家からの寄託を受けて田原本町が管理している本史料は、総数1,132点に及び、安土桃山時代から昭和まで約350年の年月を記録してきた。その中には、当時の生活に密着した文書や絵図が存在し、現代の我々に身近な歴史を語りかけてくる。

今回は田原本町合併60周年を記念し、近世以降の田原本のあゆみに注目して文献資料を展示した。また、本企画展は田原本町合併60周年記念展ということから、無料観覧とした。

期　間：10月22日（土）～11月27日（日）（32日間）

入館者：998名（企画展のみ）

【展示構成と主要展示品】（展示総数77点）　※〔　〕は表題がないため文書名を仮表題とした。

（Ⅰ）年貢等の負担に関する文書（ケース①～⑤）

大和国十市郡田原本御検地帳（写）、田原本村名寄帳、田原本村割付、大和国田原本村小物成場検地帳、丑年納竹之事／覚（小竹銀請取）、大川御普請銀高掛帳、午恐書付を以奉願上候（百姓因窮御救米願に付）

（Ⅱ）御触書等の通達文書（ケース⑥・⑧・⑬）

御触書之写、藩庁定書、〔国・奈良県布達〕、日新記聞

（Ⅲ）版籍奉還や秩禄処分に関する文書（ケース⑦・⑨）

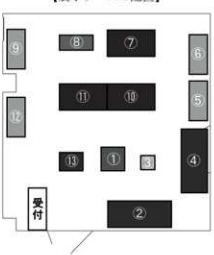
旧田原本藩跡地入札払ニ付伺、拾ヶ年貢米書上帳、士族順番代価附録、郭内順番帳

（Ⅳ）各種絵図（ケース⑩～⑫）

〔田原本村郭内絵図〕、士族卒居住地取調絵図、田原本村絵図、田原本村全図、〔田原本村小字大門絵図〕、皇后陛下宿　浄照寺下図、〔学校設置に付調査村々絵図〕

【展示風景】

【展示ケースの配置】



【展示品と点数】

文書	点数	文書	点数	絵図	点数
大和国十市郡田原本御検地帳（写）	1	御触書之写	6	田原本村郭内絵図	2
田原本村名寄帳	3	藩庁定書	1	士族卒居住地取調絵図	1
田原本村割付	9	旧田原本藩跡地入札払ニ付伺	1	田原本村絵図	1
満取申竹之事	1	国・奈良県布達	1	当村検地絵図入袋	1
丑年納竹之事／覚（小竹銀請取）	1	拾ヶ年貢米書上帳	1	田原本村全図	1
大和国田原本村小物成検地帳	1	郡規選挙通并郷社寺郷村弁高引仕分帳	1	田原本村小字大門絵図	1
大川御普請銀高掛帳	1	士族順番代価附録	1	絵図之部（供本村小字南新地）	1
満取申上納節之事	1	郭内順番帳	1	皇后陛下宿　浄照寺下図	1
午恐書付を以奉願上候（百姓因窮御救米願に付）	1	日新記聞	35	学校設置に付調査村々絵図	1
計					77

【関連イベント】

イベント名	内　容	日時・場所	参加人数
講演会	谷山　正道氏（天理大学　文学部教授） 「小林家文書から浮かび上がる田原本の要」	11月12日（土） 午後1時30分～3時 公民館保健室	60人

（3）平成29年度　春季企画展「弥生遺産Ⅴ　唐古・鍵遺跡初期調査の遺物～補遺～」

内　容：第3～12次調査に至る唐古・鍵遺跡の初期調査は奈良県立橿原考古学研究所によっておこなわれた。今回はこれらの調査のうち、第3・5・8・11次調査から出土した遺物を展示し、唐古・鍵遺跡の重要性を示すこととなった初期調査の成果に注目した。また、再整理事業により発見した「楼閣が描かれた土器片」の新たな土器片も展示した。さらに同時開催として田原本町の発掘速報展と、「大和まほろば広域定住自立圏事業」による天理市教育委員会の発掘速報展をおこなった。

期　間：4月22日（土）～5月28日（日）（32日間）

入館者：839名（企画展のみ）

【展示構成と主要展示品】（展示総数173点）

（Ⅰ）楼閣の絵画土器片（ケース①）

楼閣が描かれた土器片

（Ⅱ）土器（ケース②～⑦）

絵画土器片、特殊・異形土器、搬入土器、記号土器、文様土器、Pit-105一括出土土器群

（Ⅲ）木製品（ケース⑧・⑨）

平鍬未成品、泥除未成品、木製穂摘具、高杯、鞘状木製品、不明木製品

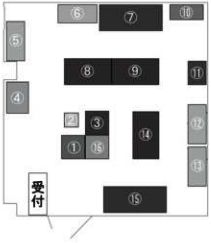
（Ⅳ）土製品・石器・再整理（ケース⑩）

銅鐸形土製品、瓢形土製品、鳥形？土製品、不明土製品、石鏃、石剣、石小刀、石槌、磨石、敲石、横刃形石器、砥石、不明石製品、絵画土器片、土製武器鋳型外枠、高坏形土製品、赤色顔料が付着した土器、広片口鉢

（Ⅴ）田原本町発掘速報（ケース⑪～⑭）

【展示風景】

【展示ケースの配置】



弥生土器（壷、鉢、水差形土器）、土師器（高坏、甕、壷、皿、羽釜）、瓦器埦、陶器碗、磁器碗、平瓦、不明鉄製品、刀子、小刀、鎌、漆器椀、双孔円板、滑石製玉、モモ核、貝

(Ⅵ) 天理市発掘速報（ケース⑮）

土師器壷、須恵器（坏、高坏、壷、台付壷、堤瓶、甕）、玉類（土製、琥珀、水晶、ガラス）

【弥生遺産Ⅴ　展示物（田原本町保管所蔵）】

遺跡名	遺物名	点数
唐古・鍵遺跡	弥生土器（壷、鉢、器台、高坏、水差形土器、籠入土器、特殊・異形土器、絵画土器、記号土器、文様土器）	50点
	土製品（高坏形土製品、鋼鞴形土製品、鳥形ケ土製品、不明土製品等）	8点
	木製品（平鍬身部未成品、泥除未成品、木製地鎮具、高杯、粕状木製品等）	11点
	石器・石製品（石鏃、石剣、石槍、砥石、敲石、横刃形石器、祇石等）	22点
1遺跡	28製品	91点

【田原本町発掘速報展】

遺跡名		遺物名	点数
唐古・鍵遺跡	第116次	弥生土器鉢（1）、水差形土器（1）、土師器皿（3）、土師器埦（1）、土師器羽釜（1）、ミニチュア羽釜（1）、瓦器（1）、陶器碗（1）、磁器碗（2）、漆器椀（2）、モモ核（2）	39点
	第118次	弥生土器壺（2）、土師器皿（9）、土師器羽釜（1）、瓦器埦（4）、漆器椀（1）、刀子（1）、小刀（1）、鎌（1）、貝（1）	
	第119次	蓋口壷（1）、細頸壷（1）	
宮古北遺跡	第20次	双孔円板（2）、玉類（7）	16点
	第21次	土師器壷（2）、土師器高坏（1）、土師器鉢（1）、土師器皿（2）、不明鉄製品（1）	
寺内町遺跡	第16次	土師器皿（1）、瓦器埦（1）、瓦器皿（1）、平瓦（1）	4点
3遺跡		26製品	59点

【天理市発掘速報展　借用遺物】

遺跡名	遺物名	点数
豊田狐塚古墳	土師器壷（1）、須恵器壷（2）、須恵器台付壷（3）、須恵器坏身（4）、須恵器坏蓋（4）、須恵器高坏（2）、須恵器提瓶（2）、須恵器甑（1）、土製玉（1）、水晶製玉（1）、琥珀製玉（1）、ガラス製玉（1）	23点
1遺跡	12製品	23点

【関連イベント】

イベント名	内　容		日時・場所	参加人数
報告会	石田　大輔氏（天理市教育委員会）「豊田狐塚古墳の調査成果について」		4月22日（土） 午後1時30分～4時10分 視聴覚室	45人
	柴田　将幹　（田原本町教育委員会）「平成27・28年度の発掘調査成果について」			

（4）平成28・29年度「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」

内　容：田原本町内の各小学校において、総合的な学習の時間を利用した土器づくりや赤米炊飯を

【展示風景】

【展示ケースの配置】

はじめとする体験学習を実施している。今年度の学習成果である土器や勾玉をはじめ、児童らの感想文等を展示陳列した。

期　間：【平成 28 年度】 平成 29 年 1 月 27 日（金）～2 月　1 日（水）（5 日間）

【平成 29 年度】 平成 30 年 1 月 26 日（金）～1 月 31 日（水）（5 日間）

観覧者：【平成 28 年度】170 名、【平成 29 年度】158 名（いずれも特別展示のみ）

（5）平成 29 年度　ミニ展示「『寺川筋今里問屋場絵図』展」

内　容：平成 29 年度に『寺川筋今里問屋場絵図』が田原本町指定文化財となったことを受け、その周知のために絵図の展示をおこなった。また、絵図から分かる当時の今里問屋場の様子や各川筋を利用した大和国内の物資流通について、パネルを展示し、解説をおこなった。

【展示風景】

期　間：2 月 10 日（土）

～2 月 25 日（日）（14 日間）

展示場所：田原本青垣生涯学習センター 1 階

田原本町立図書館情報コーナー

3．入館者・ホームページ

（1）入館者数

平成 28 年度の入館者数は、8,140 人である。前年度に比べ、ほぼ横ばいであった。本年度の総入館者数に対する団体の割合は、約 11.6%で前年度に比べ 2%減少した。無料入館日の入館者は、5 月 5 日（土・祝）のこどもの日（親子・保護者を対象）28 名、夏季節電対策無料入館期間（8 月 2 日～31 日）1,102 名、関西文化の日の 11 月 19 日（土）79 名・20 日（日）203 名である。

平成 29 年度は、リニューアル工事に伴い 9 月以降閉館しており、4～8 月末までの入館者数は 4,056 人である。前年度の同期間の入館者数と比較すると、約 14%増加した。本年度の総入館者数に対する団体の割合は約 5.7%で、前年度の同期間に比べ 4.6%減少した。無料入館日の入館者は、5 月 5 日（金・祝）のこどもの日（親子・保護者を対象）75 名、夏季節電対策無料入館期間（8 月 1 日～31 日）1,325 名である。

【平成 28 年度　月別入館者数】

月	開館日数	有料入館者				無料入館者						合計	
		一般		高・大学生		15 歳以下		身障者	招待者	その他			
4 月	26	235	(0)	7	(0)	106	(0)	6	0	152		506	(0)
5 月	26	650	(58)	41	(0)	365	(230)	19	0	171		1,246	(288)
6 月	26	141	(0)	5	(0)	51	(0)	10	0	86		293	(0)
7 月	27	148	(20)	12	(0)	123	(16)	3	0	112		398	(36)
8 月	26	0	(0)	0	(0)	277	(40)	0	0	825		1,102	(40)
9 月	26	153	(23)	9	(0)	33	(0)	4	0	89		287	(23)
10 月	26	264	(93)	11	(0)	65	(0)	9	33	269		651	(93)
11 月	26	158	(40)	4	(0)	183	(0)	2	15	1,458		1,820	(40)
12 月	23	208	(49)	11	(0)	120	(106)	6	1	65		411	(155)
1 月	23	112	(0)	22	(0)	48	(0)	4	5	84		275	(0)
2 月	24	323	(188)	11	(0)	55	(0)	4	0	172		565	(188)
3 月	27	267	(80)	13	(0)	23	(0)	4	178	101		586	(80)
合計	306	2,659	(551)	145	(0)	1,449	(392)	71	232	3,584		8,140	(943)

【平成 29 年度　月別入館者数】

月	開館日数	有料入館者				無料入館者						合計	
		一般		高・大学生		15 歳以下		身障者	招待者	その他			
4 月	26	478	(40)	13	(0)	147	(41)	12	19	197		866	(81)
5 月	26	657	(0)	37	(0)	233	(104)	25	22	234		1208	(104)
6 月	26	124	(0)	4	(0)	44	(0)	1	2	125		300	(0)
7 月	26	172	(31)	9	(0)	56	(14)	11	4	105		357	(45)
8 月	27	0	(0)	0	(0)	266	(0)	0	0	1059		1325	(0)
合計	131	1,431	(71)	63	(0)	746	(159)	49	47	1,720		4,056	(230)

※1　（　）は団体入館者の人数（内数）。

※2　その他は、研修での利用（減免）・ボランティア研修等の来館者。

※3　8 月 1 日～8 月 31 日は夏季節電対策無料期間となるため、「15 歳以下」以外は「その他」に含む。

※4　平成 29 年度は 9 月からリニューアル工事のため休館。

【年度別入館者推移】

年度	開館日数	有料入館者				無料入館者						合計	
		一般		高・大学生		15 歳以下		身障者	招待者	その他			
16 年度	103	1,744	(209)	131	(0)	1,345	(65)	42	251	1,083		4,596	(274)
17 年度	306	4,988	(1,423)	401	(20)	3,060	(229)	174	357	3,040		12,020	(1,672)
18 年度	306	2,962	(785)	911	(650)	3,138	(333)	105	233	3,879		11,228	(1,768)
19 年度	306	3,760	(932)	483	(174)	2,933	(511)	102	186	4,963		12,427	(1,637)
20 年度	307	3,473	(1,148)	567	(253)	2,790	(359)	92	216	2,079		9,217	(1,760)
21 年度	307	4,204	(1,599)	585	(311)	2,123	(258)	111	264	2,347		9,634	(2,168)
22 年度	306	3,621	(1,151)	744	(430)	1,584	(213)	74	71	2,681		8,775	(1,794)
23 年度	307	3,999	(1,245)	400	(236)	1,873	(300)	87	53	2,487		8,899	(1,781)
24 年度	306	3,239	(1,014)	174	(61)	1,933	(543)	64	23	3,416		8,849	(1,618)
25 年度	306	3,192	(739)	283	(87)	1,841	(461)	69	16	3,915		9,316	(1,287)
26 年度	306	3,000	(569)	263	(83)	1,463	(282)	85	17	4,288		9,116	(934)
27 年度	308	3,175	(504)	247	(53)	1,618	(540)	86	26	2,981		8,133	(1,107)
28 年度	306	2,659	(551)	145	(0)	1,449	(392)	71	232	3,584		8,140	(943)
29 年度	131	1,431	(71)	63	(0)	746	(159)	49	47	1,720		4,056	(230)
合計	3,911	45,447	(11,940)	5,397	(2,368)	27,896	(4,665)	1,211	1,992	42,463		124,406	(18,973)

※1　16 年度は、11 月 24 日から 3 月 31 日まで延べ 103 日間の入館者数。

※2　29 年度は、4 月 1 日から 8 月 31 日まで延べ 131 日間の入館者数。

【企画展入館者】

		開館日数	有料入館者				無料入館者						合計	
			一般		高・大学生		15 歳以下		身障者	招待者	その他			
28 年度	春季	32	366	(0)	21	(0)	128	(41)	13	0	81		609	(41)
	秋季	32	0	(0)	0	(0)	65	(0)	0	0	933		998	(0)
29 年度	春季	32	526	(20)	23	(0)	94	(0)	18	15	163		839	(20)
合計		96	892	(20)	44	(0)	287	(41)	31	15	1,177		2,446	(61)

※1　（　）は団体入館者の人数（内数）。28 年度の秋季企画展は無料の為、団体人数はカウントしていない。

※2　本表「無料入館者　その他」は「親子無料入館日」・「関西文化の日」等の無料入館者を含む。また、28 年度の秋季企画展は無料のため本項に含めた。

（2）夏季節電対策無料入館

夏季の節電対策として、家庭での冷房を控え唐古・鍵考古学ミュージアムで文化財に親しみながら涼を得る事業を実施し、入館無料期間を設けた。平成28年度は8月2日（火）～8月31日（水）の期間で1,102名、平成29年度は8月1日（火）～8月31日（木）の期間で1,325名が来館した。

（3）入館者アンケート

入館者アンケート（常設展示）を実施した。平成28年度の回答総数318件、回答率約4％。平成29年度の回答総数104件、回答率約3％である。詳細は次頁にまとめた。

（4）視察・研修・学校等からの利用

下記のとおり、平成28年度は視察・研修7件214名・学校の利用11校536名、平成29年度は視察・研修1件7名・学校の利用9校244名の来館があった。

視察・研修　【平成28年度】 英会話サークル（7月3日／7名）、萬葉学会（10月10日/45名）、聞こえのサポーター（要約筆記講座）（10月21日/15名）、小牧市文化財保護審議会（10月28日／7名）、奈良県退職校園長会（11月13日/120名）、奈良県図画工作・美術教育研究会（11月18日/18名）、奈良県立橿原考古学研究所（3月7日／2名）、守山市教育委員会文化財保護課（3月14日／20名）、田原本町観光乗合タクシー（3月29日／3名）

【平成29年度】 新任者研修（8月25日／7名）

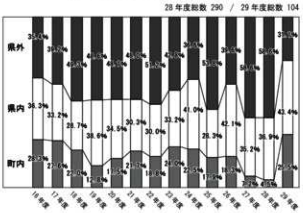
学校利用　【平成28年度】 生駒市立生駒南第二小学校（5月10日／46名）、田原本町立北小学校6年生（5月11日／34名）曽爾村立曽爾小学校（5月17日／12名）、天理大学（5月21日／7名）、田原本町立田原本小学校6年生（5月24日106名）、奈良県立大学（5月26日／8名）、田原本町立東小学校6年生（7月7日／16名）、明治大学（8月5日／10名）、奈良大学通信教育（8月20日・2月11日・25日／165名）、東北学院大学（8月25日／9名）、日本大学（8月31日／12名）、田原本町立田原本小学校2年生（12月8日／111名）

【平成29年度】 奈良女子大学（4月9日／41名）、御杖村立御杖小学校（4月21日／7名）、田原本町立北小学校（4月28日／41名）、曽爾村立曽爾小学校（5月16日／4名）、田原本町立田原本小学校（5月23日／103名）、天理大学（6月3日／15名）、田原本町立東小学校（7月7日／14名）、明治大学（8月2日／11名）、東北学院大学（8月24日／8名）

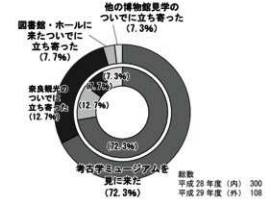
（5）ホームページ

平成29年3月に、田原本町のホームページがリニューアルし、これに伴って「唐古・鍵総合サイト」のページを新設した。「唐古・鍵総合サイト」では、唐古・鍵考古学ミュージアムと唐古・鍵遺跡、唐古・鍵遺跡史跡公園の情報を取りまとめることで、唐古・鍵遺跡を総合的に情報を発信できるよ

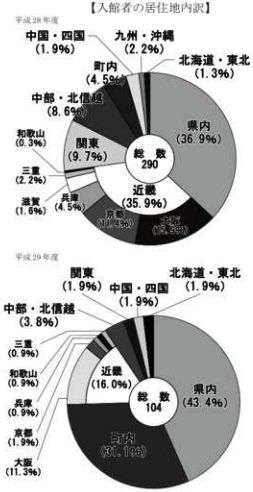
【入館者居住地別　年度推移】



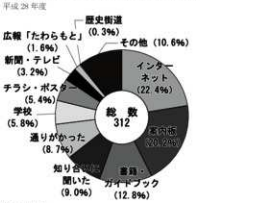
【来館目的】

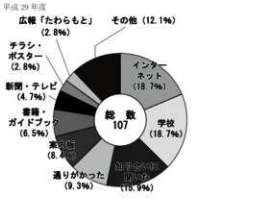


【入館者の居住地内訳】

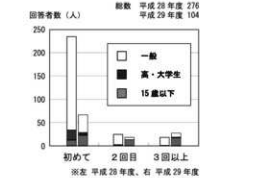


【ミュージアムを知った理由】





【来館回数】



※左 平成 28 年度、右 平成 29 年度

うにした。

この「唐古・鍵総合サイト」内の１コンテンツとして、唐古・鍵考古学ミュージアムのホームページをリニューアルした。

【唐古・鍵総合サイト】　http://www.town.tawaramoto.nara.jp/karako_kagi/

【唐古・鍵考古学ミュージアム】http://www.town.tawaramoto.nara.jp/karako_kagi/museum/

【ホームページのアクセス数】

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
アクセス数	2,518	8,324	8,183	10,291	9,391	11,303	12,665	13,365	16,247	17,176	16,063	15,964	16,018	17,649
累　計	2,518	10,842	19,025	29,316	38,707	50,010	62,675	76,060	92,307	109,483	125,546	141,510	157,528	175,177

４．ボランティア

（１）ボランティアガイドの実績

ミュージアムの常設展の解説ボランティアは、開館以来実施している。ガイドは年度単位とし、継続更新は可としている。平成28・29年度のガイド登録はそれぞれ29名・26名である。月２回程度で常駐２人体制とし、午前10時から午後４時（冬季の12月～２月は午前10時30分から午後３時30分）まで実施した。また、団体客等多数の来館者の場合は、応援ガイド体制でその時間帯のみ臨時に対応した。このような方法で、下表実績に示すとおり約２～３割の来館者に対応した。

【展示ボランティアガイド実績】

平成28年度

月	開館日数	稼働人数	ガイド人数※1／入館者数（常設展のみ）
4月	26	36人	91人／　343人
5月	26	46人	383人／　800人
6月	25	33人	63人／　293人
7月	27	38人	125人／　308人
8月	26	36人	179人／1,102人
9月	26	39人	100人／　288人
10月	26	34人	238人／　506人
11月	26	30人	153人／　967人
12月	23	28人	148人／　411人
1月	23	34人	50人／　275人
2月	24	37人	258人／　565人
3月	27	39人	214人／　586人
合　計	306	430人	2,102人（32.2%）※2／6,534人

平成29年度

月	開館日数	稼働人数	ガイド人数※1／入館者数（常設展のみ）
4月	26	33人	147人／　570人
5月	26	33人	205人／　665人
6月	26	31人	80人／　300人
7月	26	32人	72人／　337人
8月	27	32人	159人／1,325人
合　計	131	161人	663人（20.6%）※2／3,217人

※1　ガイド人数は延数。

※2　ガイド人数／入館者の割合。

※3　平成29年度はリニューアル工事の為9月以降は閉館。

（２）企画展受付ボランティア

春季と秋季の企画展開催にあたり、受付ボランティアを募集した。受付は、午前あるいは午後を基本として、終日対応してもらう日もあった。平成28年度は春季延べ58名、秋季延べ55名、平成29年度は春季に延べ56名が活躍した。

Ⅳ．資料の報告

唐古・鍵遺跡第 119 次調査における花粉分析

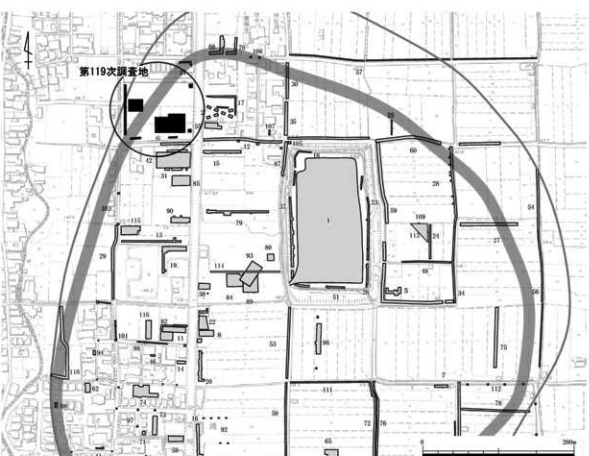
一般社団法人　文化財科学研究センター
金原　正子

1．はじめに

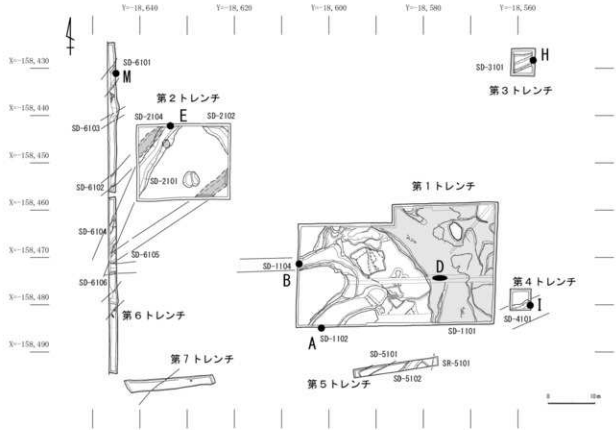
花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解され残存していない場合もある。しかし、風媒花や虫媒花などの散布能力などの差で、庭園などの狭い範囲の植生に由来する結果が得られるなど、陸上の堆積物が分析に適さないわけではない。

2．試料

分析試料は、第 119 次調査において出土した溝より採取された試料 29 点である。提供された遺跡および遺構図を参考に示し、第 1 表に詳細を記載する。また、試料採取箇所を第 3 ～ 9 図に示す。



第 1 図　唐古・鍵遺跡 第 119 次調査位置図



第２図　サンプリング地点（S＝1/800）

３．方法

花粉の分離抽出は、中村[2]の方法をもとに、以下の手順でおこなった。

1）試料から１㎤を採取

2）0.5%リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え、15 分間湯煎

3）水洗処理の後、0.25 ㎜の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法で砂粒を除去

4）25%フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置

5）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す

6）再び氷酢酸を加えて水洗処理

7）沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製

8）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍でおこなった。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉[3]、中村[6]を参照しておこなった。イネ属については、中村[4・5]を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

第1表　試料一覧

番号	遺構名	サンプル№	土色	時期
1	SD-1102	A1	暗灰褐色土	弥生時代後期
2		A2	灰色粘土	弥生時代後期
3		A3	灰色粘質土	弥生時代後期
4		A4	黒灰色粘土(植物混)	弥生時代後期？
5	SD-1104	B1	灰色粘土	弥生時代後期
6		B2	暗褐色粘質土	弥生時代後期
7		B3	暗灰色粘土	弥生時代後期？
8	SD-1101	D1	暗灰色粘土(茶斑多し)	庄内期
9		D2	暗灰色粘土	庄内期
10	SR-1101	D4	暗灰色粘土	大和第Ⅵ-4
11	SR-1101B	D5	暗灰色粘土	大和第Ⅴ
12		D6	暗灰色粘土・褐色砂質土	大和第Ⅴ
13	SD-2101	E1	暗褐色粘質土	大和第Ⅵ
14		E2	暗灰色粘質土	大和第Ⅵ
15		E3	暗灰色粘土(植物混)	弥生時代後期？
16		E4	灰黒色粘土	弥生時代後期？
17	SD-3101	H1	暗灰褐色粘質土	弥生時代後期
18		H2	黒灰色粘土	弥生時代後期？
19		H3	黒褐色粘土(植物混)	弥生時代後期？
20		H4	灰色粘土	弥生時代後期？
21	SD-4101	I1	黒灰色粘土	大和第Ⅵ
22		I2	灰色粘土(シルト質)	大和第Ⅵ
23		I3	黒褐色粘土(植物多し)	弥生時代後期
24		I4	黒灰色粘土(砂多し)	弥生時代後期
25	SD-6101	M1	暗褐灰色粘質土(砂多し)	大和第Ⅴ
26		M2	淡灰色粘土(黄斑)	大和第Ⅴ
27		M3	暗灰色粘土(植物混)	大和第Ⅴ
28		M4	黒色粘土	大和第Ⅴ？
29		M5	暗灰色粘土(砂多し、青褐色シルトブロック混)	大和第Ⅴ？

4．結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉39、樹木花粉と草本花粉を含むもの8、草本花粉33、シダ植物胞子3形態の計83である。これらの学名と和名および粒数を第2表に示し、花粉数が200個以上計数できた試料については、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第10図に示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。同時に、寄生虫卵についても検鏡した結果、3分類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

マキ属、モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、アカメガシワ、サンショウ属、ウルシ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ムクロジ属、ブドウ属、ノブドウ、ツタ、グミ属、アオキ、モクセイ科、トネリコ属、クサギ属、スイカズラ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、トウダイグサ科、ウコギ科、ゴマノハグサ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、ワレモコウ属、ササグ属、フウロソウ属、ツリフネソウ属、キカシグサ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、ナス科、オオバコ属、オミナエシ科、ゴキヅル、キキョウ属－ツルニンジン属、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、ミズワラビ、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

回虫卵、鞭虫卵、不明虫卵

以下にこれらの特徴を示す。

①回虫　*Ascaris　lumbricoides*

回虫卵は、比較的大きな虫卵で、およそ 80 × 60 ㎛あり楕円形で外側に蛋白膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18 日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。回虫は、世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられる。

②鞭虫　*Trichuris　trichiura*

卵の大きさは、50 × 30 ㎛でレモン形あるいは岐阜ちょうちん形で、卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵は、3 ～ 6 週間で感染幼虫包蔵卵になり経口感染する。鞭虫は、世界に広く分布し、現在ではとくに熱帯・亜熱帯の高温多湿な地域に多くみられる。

③不明虫卵　Unknown　eggs

・卵の大きさ、形ともに広節裂頭条虫卵に類似するが、小蓋が欠落し同定に至らなかったもの。

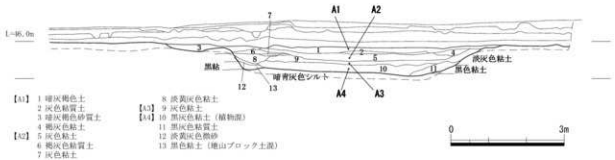
・やや大型で、卵殻は薄く一端に比較的大きな蓋を有し、ウェステルマン肺吸虫卵にやや似るが、後端が肥厚しない。

（2）花粉群集の特徴

それぞれの地点において、下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する。（第 10 図）

1）ＳＤ -1102　（A1 から A4）：大和第Ⅵ様式？

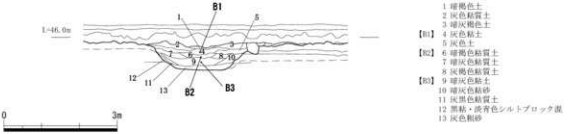
下部の A4 では、樹木花粉が 53%、樹木・草本花粉が 14%、草本花粉が 32%、残りをシダ植物胞子が占める。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属の出現率がやや高く、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、エノキ属－ムクノキ、シイ属、スギ、コナラ属コナラ亜属が出現する。樹木・草本花粉では、ニワトコ属－ガマズミ属が多い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）にヨモギ属、カヤツリグサ科、ミズワラビが伴われる。鞭虫卵がわずかに検出される。A3 では、樹木花粉が 74%を占めるようになり、A4 で優占する樹木花粉がそれぞれ増加するが、エノキ属－ムクノキ



第３図　ＳＤ-1102 南壁断面図（Ｓ＝1/100）

は減少する。ミズワラビ、鞭虫卵がわずかに検出される。A2 では、樹木花粉の占める割合が 82%になり、特徴的にコナラ属コナラ亜属が増加する。ミズワラビが検出される。上部の A1 では、樹木花粉の占める割合が 56%に減少する。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属を主にシイ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、スギ、コナラ属コナラ亜属、モチノキ属の出現率が高い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）が優占し、ヨモギ属が伴われる。

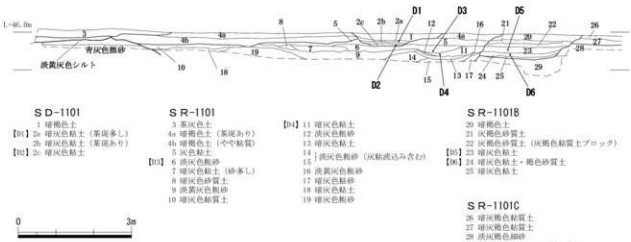
２）ＳＤ -1104　(B1 から B3)：大和第Ⅵ様式？



第４図　ＳＤ-1104 西壁断面図（Ｓ＝1/100）

下部の B3 では、樹木花粉が 75%、草本花粉が 19%を占める。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属の出現率がやや高く、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、シイ属、コナラ属コナラ亜属、スギが多い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）、ヨモギ属、カヤツリグサ科が伴われ、オモダカ属、ミズワラビが検出される。鞭虫卵がわずかに検出される。上部の B2 と B1 は、花粉組成、構成ともに類似した出現傾向を示す。樹木花粉が 74%から 78%を占める。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属を主にイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、スギ、シイ属が出現する。他にツガ属、ニシキギ科、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキが低率に出現する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）の出現率がやや高く、ヨモギ属、カヤツリグサ科がともなわれ、オモダカ属、ミズワラビが出現する。樹木・草本花粉では、クワ科－イラクサ科、マメ科が低率に出現する。

３）ＳＤ -1101　(D1、D2)：庄内式、ＳＲ -1101　(D4)：大和第Ⅵ-4 様式、ＳＲ -1101B　(D5、D6)：大和第Ⅴ様式



第５図　ＳＤ-1101 中央アゼ南壁断面図（Ｓ＝1/100）

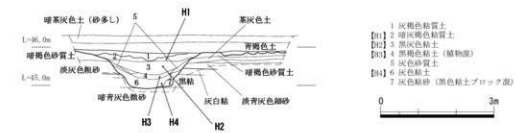
ＳＤ-1101 の D2 では、樹木花粉が 61%、草本花粉が 32%を占める。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属の出現率が高く、次いでイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が多い。他にスギ、シイ属、コナラ属コナラ亜属が低率に出現する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）が優占し、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アブラナ科が低率にともなわれ、オモダカ属、ミズアオイ属、ミズワラビが出現する。回虫卵、鞭虫卵がわずかに検出される。樹木・草本花粉のクワ科－イラクサ科がやや多い。D1 では、樹木花粉の占める割合が 48%になり、樹木・草本花粉が 15%に増加する。樹木花粉のコナラ属アカガシ亜属がやや減少し、樹木・草本花粉のクワ科－イラクサ科が増加する。草本花粉では、ツリフネソウ属が増加し、ササゲ属、ミズワラビが出現する。鞭虫卵がわずかに検出される。ＳＲ-1101 の D4 では、樹木花粉が 57%、草本花粉が 37%を占める。草本花粉のガマ属－ミクリ属、カヤツリグサ科がやや多いが、花粉組成、構成ともにＳＤ-1101 の D2 の出現傾向と極めて類似する。ＳＲ-1101B の D5、D6 では、花粉組成および構成とも類似した出現傾向を示す。樹木花粉が 38%から 42%、草本花粉が 50%を占める。草本花粉のイネ科（イネ属型を含む）が高率に出現し、カヤツリグサ科、ヨモギ属がともなわれる。ミズアオイ属、オモダカ属、D4 では、ミズワラビが検出される。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属を主にイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、シイ属、コナラ属コナラ亜属、スギが出現する。D6 では、回虫卵がわずかに検出される。

４）ＳＤ-2101　（E1 から E4）：大和第Ⅵ様式

第６図　ＳＤ-2101 北壁断面図（Ｓ＝1/100）

下部のE4では、樹木花粉が55%、草本花粉が35%を占める。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、シイ属、コナラ属コナラ亜属、スギが出現する。樹木・草本花粉では、クワ科－イラクサ科、バラ科が出現する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）を主にヨモギ属、カヤツリグサ科が出現する。他にオモダカ属、ミズアオイ属、ミズワラビが出現し、回虫卵、鞭虫卵が検出される。E3では、樹木花粉が68%を占めるようになり、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、スギが増加する。E2では、樹木花粉が78%を占めるようになり、コナラ属アカガシ亜属が増加する。E1では、樹木花粉が61%になり、コナラ属アカガシ亜属が半減し、シイ属が増加する。

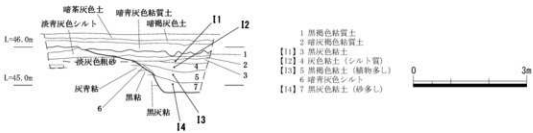
5）ＳＤ-3101　（H1からH4）：大和第Ⅵ様式？



第７図　ＳＤ-3101 東壁断面図（Ｓ＝1/100）

下部のH4では、樹木花粉が53%、草本花粉が30%、シダ植物胞子が12%を占める。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属を主にイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、コナラ属コナラ亜属、シイ属、エノキ属－ムクノキ、ニレ属－ケヤキ、スギが出現し、特徴的に出現するヤナギ属は、集塊をともなって出現する。樹木・草本花粉では、クワ科－イラクサ科が多い。草本花粉では、カヤツリグサ科、イネ科（イネ属型を含む）の出現率が高く、ヨモギ属がともなわれる。回虫卵がわずかに検出される。H3からH1では、出現傾向がほとんど同じで、樹木花粉が80%から77%、草本花粉が13%から17%を占める。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属の出現率が高く、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、スギ、シイ属、コナラ属コナラ亜属が比較的多い。他にエノキ属－ムクノキ、ニレ属－ケヤキ、H1ではモチノキ属が低率に出現する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）、ヨモギ属、カヤツリグサ科が出現する。H3から鞭虫卵がわずかに検出される。

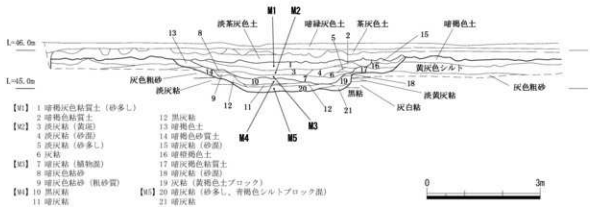
6）ＳＤ-4101　（I1からI4）



第８図　ＳＤ-4101 東壁断面図（Ｓ＝1/100）

I4からI1まで樹木花粉の占める割合が高く、樹木花粉が66%から83%を占める。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属が継続して優占し、シイ属、コナラ属コナラ亜属がともなわれる。下部のI4では、エノキ属－ムクノキの出現率が高く、I1にかけて激減し、反比例するようにイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、スギが増加する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）の出現率が高く、ヨモギ属、カヤツリグサ科がともなわれる。上部のI2、I1では、ミズワラビが出現し、I4、I2、I1では、回虫卵がわずかに検出され、I4、I3、I2では、鞭虫卵がわずかに検出される。樹木・草本花粉では、クワ科－イラクサ科が比較的多く、上部でマメ科、バラ科が微増する。

7）ＳＤ-6101　(M1からM5)：大和第Ｖ様式



第９図　ＳＤ-6101 東壁断面図（Ｓ＝1/100）

下部のM5では、樹木花粉が53%を占め、草本花粉が41%を占める。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属が優占し、シイ属、コナラ属コナラ亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、スギが出現する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）を主にヨモギ属、カヤツリグサ科がともなわれ、オモダカ属、ミズアオイ属、ミズワラビが出現する。M4では、樹木花粉が57%、草本花粉が32%、樹木・草本花粉が９%を占める。M5と大きく変化しないが、樹木・草本花粉のマメ科、ニワトコ属－ガマズミ属が増加する。鞭虫卵がわずかに検出される。M3では、樹木花粉が61%を占めるようになり、コナラ属アカガシ亜属が微増する。M2では、樹木花粉の占める割合が71%になり、コナラ属コナラ亜属、シイ属が増加する。上部のM1では、樹木花粉が69%を占め、コナラ属アカガシ亜属、シイ属が増加し、コナラ属コナラ亜属は減少する。

５．花粉分析から推定される植生と環境

それぞれの地点において、花粉群集の特徴から、植生と環境の復原をおこなう。

1）ＳＤ-1102　(A1からA4)

A4からA1において、コナラ属アカガシ亜属が優占し、シイ属、コナラ属コナラ亜属がともなわれ、コナラ属アカガシ亜属を主要素とし、シイ属を構成要素とする照葉樹林と、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹が溝の周辺に分布していたとみなされる。近隣の森林植生としては、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科とスギ林が分布する。また、イネ属型が水田雑草のオモダカ属、ミズアオイ属、

ミズワラビをともなって出現することから、溝の周辺に水田の分布が示唆される。A2 でコナラ属コナラ亜属が他の要素と関連せず特徴的に出現するのは、堆積地に生育していた可能性が考えられ、それが直接的に反映されたとみなされる。A3、A4 で優位に出現するニワトコ属－ガマズミ属も、草本のソクズなどが、溝周囲に繁茂していたか、ニワトコ属－ガマズミ属の樹木が堆積地に生育していたと考えられる。鞭虫卵がわずかに検出され、その密度は生活汚染程度で、溝に近接して生活域が分布していたとみなされる。A1 の時期になると、草本の割合が増加し、堆積地は陽当たりの良い比較的乾燥した環境が拡大したと推定される。

2）ＳＤ -1104 （B1 から B3）

B3 から B1 のいずれの時期もコナラ属アカガシ亜属が優占し、溝の周辺にはコナラ属アカガシ亜属を主要素とし、シイ属を構成要素とする照葉樹林と、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹が溝の周辺に分布し、近隣には、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科やスギ林が分布していたと推定される。また、イネ属型が典型的な水田雑草であるミズワラビやオモダカ属をともなって出現し、溝の周辺には水田の分布が示唆される。溝の周囲には、イネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科の草本と、クワ科－イラクサ科の草本であるカナムグラ、カラムシ、マメ科の草本などが生育していたとみなされ、これらの草本は陽当たりの良い比較的乾燥した環境を好むことから、溝は比較的乾燥した堆積環境で、常時滞水しているような溝ではなかったと考えられる。

3）ＳＤ -1101 （D1、D2）、ＳＲ -1101 （D4）、ＳＲ -1101B （D5、D6）

ＳＲ -1101B の D5、D6 の時期には、イネ科（イネ属型を含む）が高率に出現し、水田雑草のオモダカ属、ミズアオイ属、ミズワラビがともなわれ、水田の分布が示唆される。堆積地は、イネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科、クワ科－イラクサ科の草本（カラムシ、カナムグラなど）が生育する陽当たりの良い湿潤から乾燥した環境が考えられ、溝は常時滞水しないが、水生植物が生育する浅い水域を呈する。

ＳＲ -1101 の D4 は、コナラ属アカガシ亜属の森林が増加し、水田がやや縮小する。溝および周囲には、オモダカ属、ミズアオイ属、ミズワラビの水田雑草やヨモギ属、カヤツリグサ科、アブラナ科が分布していた。ＳＤ -1101 の D2 では、回虫卵、鞭虫卵が検出され、隣接して居住がおこなわれていたと推定される。ＳＤ -1101 の D1 では、D4 とほぼ同じ環境であるが、畑作物のササゲ属が出現し、水路際に生育するツリフネソウ属が増加する。同様に寄生虫卵が検出され、居住域が近かったと推定される。

以上から、下部のＳＲ -1101B の時期は、比較的近いところに水田が分布するが、ＳＤ -1101 になるとやや遠方になり、居住域が近くなったと考えられる。

4）ＳＤ -2101 （E1 から E4）

E4 から E1 において、コナラ属アカガシ亜属が優占し、シイ属、コナラ属コナラ亜属がともなわれ、コナラ属アカガシ亜属を主要素とし、シイ属を構成要素とする照葉樹林と、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹が溝の周辺に分布していたと推定される。近隣の森林植生としては、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科とスギ林が分布する。イネ属型が水田雑草のミズアオイ属、オモダカ属、ミズワラビをともなって出現することから、溝の周辺に水田の分布が示唆される。溝の周囲には、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、クワ科－イラクサ科とバラ科などの陽当たりのよい比較的乾燥し

第２表　唐古・鍵遺跡第 119 次調査における花粉分析結果

分類群		SD-1102				SD-1104			SD-1201		SE-1101	SE-1103	
		A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	C1	C2	D4	E1	E6
学名	和名	第1層	第2層	第3層	第4層	第1層	第2層	第3層	下層	下層	上層	中層	下層
Arboreal pollen	樹木花粉												
Podocarpus	マキ属	1			1				1				
Abies	モミ属	2	4	2	1	2	8	4	2	6	2	1	2
Picea	トウヒ属												
Tsuga	ツガ属		1	2	2	2	1	2	1	1	2	1	
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	6	2	9	2	8	6	4	2	3	2		1
Cryptomeria japonica	スギ	14	19	29	18	31	31	37	19	19	30	12	9
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ	2	3	1	1	6	2		1	1	2		1
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	31	43	55	36	73	64	59	40	37	52	26	26
Salix	ヤナギ属			6	13		5				1	3	4
Juglans	クルミ属				1				2		2		
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ		2			1			1		1		
Alnus	ハンノキ属	1	1		1	1	1						
Betula	カバノキ属	2	4	6	2	4	1	1	6	2	2	2	2
Corylus	ハシバミ属			1	2	2							
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ	6	5	3	5	4	3	6	1	3	1	2	1
Castanea crenata	クリ	8	2	2	2	1	5	1	3	2	5	3	8
Castanopsis	シイ属	35	43	39	31	51	35	47	32	36	36	34	30
Fagus	ブナ属	1	2	1	1	1		2	1	1		1	
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属-クヌギ節属	28	206	36	48	102	129*	47	117	38	23	13	24
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属-アラカシ節属	93	124	130	103	147	159	159	116	123	100	40	38
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ		4	6	6	6	6	3		1	3	1	2
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-エノキミ	3	1	29	31	7	7	14	2	4	7	4	3
Mallotus japonicus	アカメガシワ				1		1						
Zanthoxylum	サンショウ属												
Rhus	ウルシ属		1	4	1		1						
Ilex	モチノキ属	11	2										
Celastrasus	ニシキギ科			1	1	68	7				3		
Acer	カエデ属	1		1	1			2					
Aesculus turbinata	トチノキ	1		1	3		1		2	3	1	1	
Sapindus	ムクロジ属												
Vitis	ブドウ属		1				3						
Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ		2	1	2	1	2	1	3				
Parthenocissus tricuspidata	ツタ												
Elaeagnus	グミ属						1						
Aucuba japonica	アオキ		1										
Ottacia	モクセイ科		1		1	1	3	1	1	1	1	1	
Fraxinus	トネリコ属						1						
Clerodendrum	クマヤナギ		1				1		1				
Lonicera	スイカズラ属									1			
Arboreal-Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉												
Morinaga-Urticacae	クワ科-イラクサ科	5	9	1	7	11	9	6	74	17	4	11	14
Saururaceae	ユキノシタ科				1				1				
Rosaceae	バラ科	1	6	3	7	1	1	3	2	4			
Leguminosae	マメ科	2	1	7	1	2	16	3	1	7	2		1
Euphorbiaceae	トウダイグサ科					1							
Anthacae	ウコギ科			1		2		1					
Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科									1			
Santalaceae-Viscaceae	ハマビシ属-ヤドリギ属		4	24	34	2	6	2				1	
Nonarboreal pollen	草本花粉												
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属		1	6	6	1	2	6			7	2	2
Alisma	サジオモダカ属										2		
Sagittaria	オモダカ属		1	1	1	2	1	1	2	4		2	1
Gramineae	イネ科	97	34	30	63	38	47	37	81	73	63	110	146
Oryza type	イネ類型	16	16	12	34	12	18	19	24	32	71	23	39
Cyperaceae	カヤツリグサ科	2	10	20	16	9	9	12	7	6	35	24	30
Juncaceae-Juncus	イボクサ						1						
Monochoria	ミズアオイ属	3					1		2	2	3	1	1
Allium	ネギ属		1										
Polygonum	タデ属												
Polygonum sect *Persicaria*	タデ属サナエタデ節	1	1		2	1	1		1		1		1
Rumex	ギシギシ属				2				1				
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1	1			1		1	3	1			6
Caryophyllaceae	ナデシコ科				1		1		1				1
Ranunculus	キンポウゲ属								1	1			
Cruciferae	アブラナ科	1	2		1			2	3	3	3	3	2
Sanguisorba	ワレモコウ属												
Tilia	ボダイジュ属								1				
Geranium	フウロソウ属												
Impatiens	ツリフネソウ属	1	1	3		3	3	1	18	3	2		1
Rosa	ヤブコウジ属												
Hydrocotylidae	ウリノアヒ科												
Apiaceae	セリ科	3	2	1	2	4*	1		2	3	1	2	
Labiatae	シソ科												
Solanaceae	ナス科							1					1
Plantago	オオバコ属			1	1					1			
Valerianaceae	オミナエシ科			1			1				1		
Achnatherum Jokahiri	ヒゲナガ				3	1			2	1	1		
Phalacolon-Codonopsis	ホキュウ属-ツルのニンジン属												
Lactucadinae	キンボウゲ科						1	2			1	2	
Asteroideae	キク亜科	2			1		2		7		2	3	1
Xanthium	オナモミ属												
Artemisia	ヨモギ属	9	10	17	36	23	24	19	39	9	13	9	24
Fern spore	シダ植物胞子												
Monolete type spore	単条溝胞子	4	5	2	6	9	7	6	5	7	16	12	39
Cyathopteris	ミゾシダ	1	1	1	1		1	1	1	1			1
Trilete type spore	三条溝胞子	2	1	1	1	3	2	3	3	4	1	3	4
Arboreal pollen	樹木花粉	242	403	380	272	440	440	362	349	271	264	154	243
Arboreal-Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	9	20	31	70	19	22	12	79	22	10	13	15
Nonarboreal pollen	草本花粉	133	80	93	163	93	113	93	186	142	172	184	246
Total pollen	花粉総数	336	503	483	505	554	595	466	614	435	447	350	444
Pollen frequencies of 1cm³	試料1cm³中の花粉密度	5.9	1.9	2.6	5.7	1.3	1.1	0.9	6.1	1.1	5.3	0.9	5.7
		×10³	×10³	×10³	×10³	×10³	×10³	×10³	×10³	×10³	×10³	×10³	×10³
Unknown pollen	未同定花粉	13	4	8	2	5	6	3	9	3	7	7	8
Fern spore	シダ植物胞子	7	7	4	8	12	10	14	9	12	17	16	44
Helminth egg	寄生虫卵												
Ascaris(lumbricoides)	回虫卵								1	1			1
Trichuris(trichiura)	鞭虫卵			1	5			1		3			
Unknown egg	不明虫卵								1	1			1
Total	計	0	0	1	5	0	0	1	2	5	0	0	2
Helminth egg frequencies of 1cm³	試料1cm³中の寄生虫卵密度	0.0	0.0	1.4	6.5	0.0	0.0	1.1	1.8	6.9	0.0	0.0	1.8
				×10²	×10²			×10²	×10²	×10²			×10²
Stone cell	石細胞	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
Digestion remains	消化しかす消化残渣	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
Charcoal-woods fragments	微細炭化物・微細木片	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)

50-1101				50-1102				50-4101				50-4102			
E1	E2	E3	E4	H1	H2	H3	H4	I1	I2	I3	I4	M1	M2	M3	M4
第1層	第2層	第3層	第4層	第1層	第2層	第3層	第4層	第1層	第2層	第3層	第4層	第1層	第2層	第3層	第4層
	1	1		1	1			1	1			1	1	1	2
	5	4	1	5	3	6	1	3	5	1	2	1	1	7	3
							1								
2	2	5		2	1	2		2	4			2	2	3	4
	3	8	3	2	5	10	3	8	4	5	3	2	4	5	3
13	18	54	18	51	17	35	9	36	12	23	10	13	22	35	36
	6	1	3	3	2	8		1	1	3	5		4	2	1
40	65	66	41	60	69	56	59	137	42	54	12	14	31	41	29
2	1	3				10	4??				2		1		22
	1		1						1	1					1
				1	1	1	1			1				1	1
4	1			5					2	1				1	1
	3	1		4	6	7	7	1		1			7	6	2
	1										1			1	1
3	1	1	1	4	5	2	2	4	5	2	3	1	1	3	1
7	2		2	2	2	3	2	2	2	2	2	4	1	4	5
50	46	43	35	59	45	40	49	40	36	18	22	46	42	42	38
	1	1	1	1	1	1						2	1	1	
28	76	38	23	79	41	43	35	18	34	18	11	17	36	32	22
60	174	80	80	137	142	152	76	87	107	87	69	146	101	103	104
1	1	6	6	2	16	11	10	2	7	6			1	9	3
2	6	6	6	2	24	13	13	1	15	71	101			8	7
			3											1	
				4											
	2	3	1	2	1	1				1			2		1
		6	3	10										1	1
1			1	1	1				1			1			
			1	2		1	1		1			1			2
1	1	2	1	3		1	2		1	1	3	1		3	1
															1
	2	1		4		1	1	1				2	2	2	
				1	7	3	1	1	3	1	1	1	2	2	1	2
				1											
				1				1							
			1							1				1	
										1				1	
	1			8	2					1		2	2	10	5
													2		
	1						1								
	1														
			2	1	1			1						1	1
22	7	6	13	3	10	8	18	34	13	9	11	6	7	8	5
			1	2	1		1						1		
1		1	13	6	4		1	1	4		1		1	4	7
	6	4	1	1	2		1	6	15	1			4	11	16
	1														
2				1	4	6			1		1		2	2	1
							1								
	1	6	2	4	1	2					2	1	3	26	21*
		3	1	9	1	4	3		3	1	3			4	6
			2												
					1		1		1			1		1	1
42	35	50	64	33	28	24	43	50	45	23	30	47	31	86	47
6	13	8	19	3	14	6	5	2	9	2	19	6	11	17	15
2	16	24	13	17	10	7	56	22	6	3	3	1	12	12	18
												1			
	1	1	2						1	1			2		1
	1			1		1	2	1				1	1	2	1
		1											1		2
				1		1	1	7			1			2	2
			1	1					1		1		1	1	2
			1						7					1	1
			1						1						
									1						
4	1	3			1	4		1		1	1	2	4	1	2
														1	1
2			1	1	1		1	1	1			2	1	2	1
											1			1	
									1						
2		2	1	2	2		2	10		1	2	4	9	3	3
1							2			1					2
					1										1
			1											1	1
1	1	1	2	1	1		3		3			1		5	4
			1												
1	1	4	2	1				1	1	1	1				1
3	1	1	1	5	1	1	3	1		1	1		1	3	1
			1												
74	71	95	79	14	15	17	14	14	71	9	12	77	13	42	47
3	5	10	4	6	12	17	41	9	8	9	12	2	4	2	4
			1					1	1					1	1
			1					1	1					1	1
2	1	5	2	2		1	13	1	6		1		2	1	5
223	419	511	211	192	419	404	340	368	276	308	264	270	379	363	390
35	10	17	29	19	22	17	29	41	22	10	15	7	29	41	44
112	94	113	142	67	76	65	136	152	96	84	81	110	86	194	170
262	529	643	382	698	516	486	596	511	404	362	340	387	385	583	482
7.8	8.9	5.4	6.6	9.9	6.5	5.3	7.7	2.9	6.9	5.3	5.3	4.9	7.8	7.8	7.7
$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$	$\times 10^{2}$
13	7	11	7	10	11	4	5	8	6	2	4	7	14	14	5
7	6	15	10	9	13	27	54	11	13	9	13	2	6	1	5
			1				3	1	1		1				
			1			1			1		4			1	
											1				
0	0	0	2	0	0	1	3	1	2	1	6	0	0	0	1
0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	1.6	3.9	0.8	2.0	3.2	4.9	0.0	0.0	0.0	3.0
			$\times 10$			$\times 10$	$\times 10$	$\times 10$	$\times 10$	$\times 10$	$\times 10$				$\times 10$
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

＊集塊

た環境を好む草本が生育していたとみなされ、溝は比較的乾燥した堆積環境であったと考えられることから、常時滞水する溝ではなかったと推定される。下部のE4からわずかに回虫卵、鞭虫卵が検出され、密度は生活汚染程度で、溝に近接して生活域が分布していたと考えられる。

5）ＳＤ-3101 （H1からH4）

ＳＤ-3101のH4からH1の時期は、周辺にはコナラ属アカガシ亜属を主要素とし、シイ属、コナラ属コナラ亜属を構成要素とする照葉樹林が分布し、地域的な森林植生としては、スギ林、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が分布する。下部のH4の時期には、ヤナギ属が多く集塊もみられることから、溝に近接して生育していたとみなされる。また、カヤツリグサ科の出現率が比較的高く、溝は湿地ないし湿潤な環境も有し、乾燥した部分にはヨモギ属、イネ科、クワ科－イラクサ科の草本が生育していたと考えられる。また、わずかに検出される回虫卵、鞭虫卵は、生活汚染程度の密度であり、本溝に近接して生活域が分布していたと推定される。H3より上部の時期になると、カヤツリグサ科が減少し、溝は乾燥化したとみなされる。周辺ないし近隣の環境は大きく変化しない。

6）ＳＤ-4101 （I1からI4）

下部では、エノキ－ムクノキ属の二次林が分布し、上部に向かって減少する。周辺にはコナラ属アカガシ亜属やシイ属の照葉樹林が分布するが、上部に向かってイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が増加する。イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科は二次林種のイヌガヤと考えられる。イネ科、イネ属型は低率で、水田はやや遠方に分布していたと推定される。溝内にはカヤツリグサ科やミズワラビが生育し湿地ないし滞水した環境であった。寄生虫卵が検出され、近隣に居住域が分布していたと推定される。

7）ＳＤ-6101 （M1からM5）

下部から上部にかけて、急激な変化はないが、コナラ属アカガシ亜属、シイ属の照葉樹林が増加傾向を示し、森林がやや拡大する。イネ科、イネ属型はやや低率であり、水田はやや遠くに分布していたと推定される。中部のM4、M3においてニワトコ属－ガマズミ属など二次植生要素が増加し、放棄地が少し増加するなどの変化があったと推定される。

6．まとめ

本調査区では、弥生時代後期にあたるＳＲ-1101B（D5、D6）の時期は、水田が比較的近い周辺にやや広く分布していたと推定される。弥生時代後期にあたるＳＤ-1101（D4）では、コナラ属アカガシ亜属の照葉樹林要素が増加し、森林がやや拡大する状況が示唆される。弥生時代後期？、大和第Ⅴ様式、大和第Ⅵ様式とされるＳＤ-1102、ＳＤ-1104、ＳＤ-2101、ＳＤ-3101、ＳＤ-4101、ＳＤ-6101の時期では、水田がやや遠方に分布し、居住域がやや隣接して分布する。周囲ではコナラ属アカガシ亜属を中心とするカシ林を主に部分的にイヌガヤやエノキなどの二次林が増加した。ミズワラビ、オモダカ属、ミズアオイ属などの典型的な水田雑草が分布し、機能的な水田が営まれていたと推定され、これら水田雑草は各溝内にも生育していた。

註

(1) 金原正明・金原正子 2015「堆積物と植物遺体の総合的研究」『日本文化財科学会第 32 回大会研究発表要旨集』p.146-147.

(2) 中村純 1967『花粉分析』古今書院　p.82-102.

(3) 島倉巳三郎 1973「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第 5 集　60p.

(4) 中村純 1974「イネ科花粉について、とくにイネ(Oryza sativa)を中心として」『第四紀研究』13　p.187-193.

(5) 中村純 1977「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第 10 号　p.21-30.

(6) 中村純 1980「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第 13 集　91p.

(7) 金原正明 1993「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第 10 巻　古代資料研究の方法』角川書店, p.248-262.

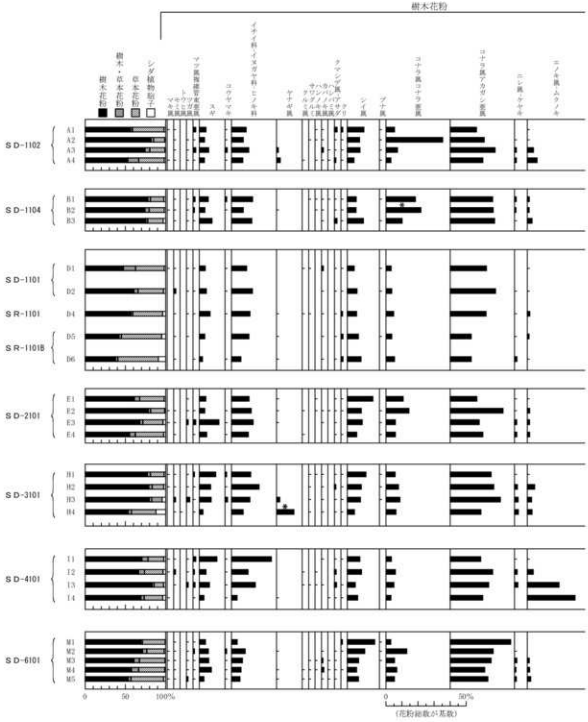
(8) Peter J.Warnock and Karl J.Reinhard　1992 「Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils」『 Jounal of Archaeological Science』19　p.231-245.

(9) 金子清俊・谷口博一 1987「線形動物・扁形動物. 医動物学」『新版臨床検査講座』8　医歯薬出版　p. 9-55.

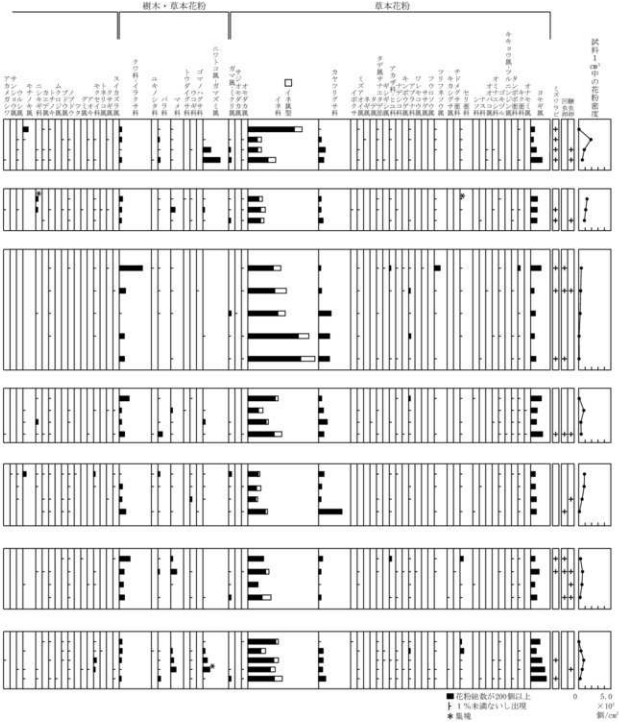
(10) 金原正明・金原正子 1992「花粉分析および寄生虫」『藤原京跡の便所遺構－藤原京 7 条 1 坊－』奈良国立文化財研究所　p.14-15.

(11) 金原正明 1999「寄生虫」『考古学と動物学　考古学と自然科学』2　同成社　p.151-158.

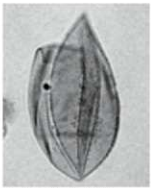
(12) 金原正明・金原正子 1993「石棺内の花粉分析および消化管内残渣の分析」『斑鳩藤ノ木古墳第二・三次調査報告書』奈良県立橿原考古学研究所　p.18-26.



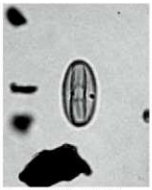
第10図　唐古・鍵遺跡第119次調査における花粉ダイアグラム


樹木・草本花粉
草本花粉
試料1㎤中の花粉密度
■ 花粉総数が200個以上
＋ 1%未満ないし出現
＊ 集塊
0
5.0
×10⁴
個/cm³

1　スギ（SD-1102 A2）



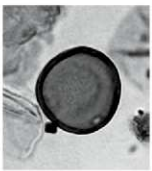
2　イチイ科-イヌガヤ科
-ヒノキ科（SD-1102 A2）



3　シイ属（SD-6101 M2）

4　コナラ属コナラ亜属
（SD-1102 A2）

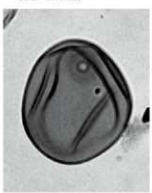
5　コナラ属アカガシ亜属
（SD-1102 A2）



6　エノキ属-ムクノキ
（SD-1102 A2）

7　ニワトコ属-ガマズミ属
（SD-1102 A3）

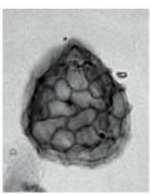
8　オモダカ属　（SD-3101 H4）



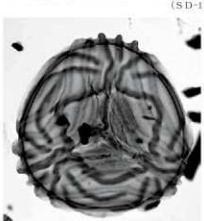
9　イネ属型（SD-1101 D2）

10　カヤツリグサ科
（SD-1102 A3）

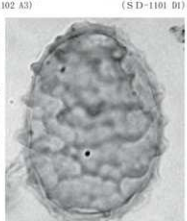
11　ミズアオイ属
（SD-1101 D1）



12　ササゲ属（SD-1101 D1）



13　ミズワラビ（SD-1102 A2）



14　回虫卵（SD-1101 D1）

15　鞭虫卵
（SD-1102 A4）

16　不明虫卵
（SD-4101 I4）

1-12, 14-16 ━━ 10μm 、13 ━ 10μm

写真　唐古・鍵遺跡第119次調査の花粉・胞子・寄生虫卵　　※()内は、検出箇所

田原本町文化財調査年報 26
2016・2017 年度

令和２年３月 31 日

編集発行　田原本町教育委員会
印　　刷　株式会社　明 新 社